2019年度
教職・資格（多摩）
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

資格関係科目【A3853】美術史（西洋）A［安藤　智子］春学期授業/Spring 1
資格関係科目【A3854】美術史（西洋）B［安藤　智子］秋学期授業/Fall 2
資格関係科目【A3855】考古学概論［小倉　淳一］春学期授業/Spring 3
資格関係科目【A3856】日本考古学［小倉　淳一］秋学期授業/Fall 3
資格関係科目【A3857】美術史（日本）A［稲本　万里子］春学期授業/Spring 4
資格関係科目【A3858】美術史（日本）B［稲本　万里子］秋学期授業/Fall 5
資格関係科目【A3859】民俗学Ⅰ［山本　志乃］春学期授業/Spring 6
資格関係科目【A3860】民俗学Ⅱ［山本　志乃］秋学期授業/Fall 6
資格関係科目【C6737】博物館概論［金山　喜昭］春学期授業/Spring 7
資格関係科目【C6738】博物館経営論［金山　喜昭］春学期授業/Spring 8
資格関係科目【C6739】博物館経営論［杉長　敬治］秋学期授業/Fall 9
資格関係科目【C6740】博物館資料論［田中　裕二］秋学期授業/Fall 10
資格関係科目【C6741】博物館教育論［荒川　裕子］春学期授業/Spring 11
資格関係科目【C6742】博物館教育論［山下　治子］秋学期授業/Fall 12
資格関係科目【C6759】博物館資料保存論［今野　農］春学期授業/Spring 13
資格関係科目【C6760】博物館資料保存論［清水　久夫］秋学期授業/Fall 14
資格関係科目【C6761】博物館展示論［渡邉　尚樹］秋学期授業/Fall 15
資格関係科目【C6762】博物館展示論［渡邉　尚樹］春学期授業/Spring 15
資格関係科目【C6765】博物館実習Ⅰ［藤田　直人］年間授業/Yearly 16
資格関係科目【C6766】博物館実習Ⅰ［金山　喜昭］年間授業/Yearly 17
資格関係科目【C6767】博物館実習Ⅱ［小西　雅徳］年間授業/Yearly 18
資格関係科目【C6768】博物館実習Ⅱ［杉山　享司］年間授業/Yearly 19
資格関係科目【C6769】博物館実習Ⅲ［金山　喜昭］年間授業/Yearly 20
資格関係科目【C6800】図書館情報学概論Ⅰ［田村　貴紀］春学期授業/Spring 21
資格関係科目【C6801】図書館情報学概論Ⅱ［田村　貴紀］秋学期授業/Fall 22
資格関係科目【C6802】図書館制度・経営論［丹　一信］春学期授業/Spring 23
資格関係科目【C6803】図書館サービス概論［有山　裕美子］秋学期授業/Fall 24
資格関係科目【C6804】児童サービス論［松田　ユリ子］秋学期授業/Fall 25
資格関係科目【C6805】情報サービス論［田村　貴紀］春学期授業/Spring 26
資格関係科目【C6806】情報サービス演習［菅原　真悟］年間授業/Yearly 27
資格関係科目【C6807】図書館情報資源概論［山口　洋］春学期授業/Spring 28
資格関係科目【C6808】図書館情報資源特論［山口　洋］秋学期授業/Fall 29
資格関係科目【C6809】情報資源組織論［山口　洋］春学期授業/Spring 30
資格関係科目【C6810】情報資源組織演習［山口　洋］年間授業/Yearly 31
資格関係科目【C6811】図書館演習［丹　一信］年間授業/Yearly 32
資格関係科目【C6812】学校図書館メディアの構成［有山　裕美子］春学期授業/Spring 33
資格関係科目【C6813】学校経営と学校図書館［松田　ユリ子］春学期授業/Spring 34
資格関係科目【C6814】学習指導と学校図書館［松田　ユリ子］秋学期授業/Fall 34
資格関係科目【C6815】読書と豊かな人間性［有山　裕美子］春学期授業/Spring 35
資格関係科目【C6816】情報メディアの活用［菅原　真悟］春学期授業/Spring 36
教職関係科目【K5177】倫理学A［齋藤　範］春学期授業/Spring 36
教職関係科目【K5178】倫理学B［齋藤　範］秋学期授業/Fall 37
教職関係科目【K5179】哲学A［齋藤　範］春学期授業/Spring 38
教職関係科目【K5180】哲学B［齋藤　範］秋学期授業/Fall 38
教職関係科目【K5275】日本史A［岩橋　清美］春学期授業/Spring 39
教職関係科目【K5276】日本史B［岩橋　清美］秋学期授業/Fall 40
教職関係科目【K5277】世界史A／外国史A［鈴木　茂］春学期授業/Spring 41
教職関係科目【K5278】世界史B／外国史B［鈴木　茂］秋学期授業/Fall 42
教職関係科目【K8005】人文地理学Ⅰ［濱田　博之］春学期授業/Spring 43
教職関係科目【K8006】人文地理学Ⅱ［松永　和子］秋学期授業/Fall 44
教職関係科目【K8007】自然地理学Ⅰ［原　芳生］春学期授業/Spring 45
教職関係科目【K8008】自然地理学Ⅱ［原　芳生］秋学期授業/Fall 46
教職関係科目【K8009】地誌Ⅰ［松永　和子］春学期授業/Spring 47

教職関係科目【K8010】地誌Ⅱ［濱田　博之］秋学期授業/Fall 48
教職関係科目【K8015】データベースと情報システム［坂本　憲昭］春学期授業/Spring 48
教職関係科目【K8016】情報メディアと画像処理［坂本　憲昭］秋学期授業/Fall 49
教職関係科目【K8017】情報と職業Ａ［高崎 茂］春学期授業/Spring 50
教職関係科目【K8018】情報と職業Ｂ［中島　円］秋学期授業/Fall 51
教職関係科目【L3101】教職入門［綿貫　公平］春学期授業/Spring 52
教職関係科目【L3102】教職入門［綿貫　公平］春学期授業/Spring 53
教職関係科目【L3103】教育原理［御園生　純］春学期授業/Spring 54
教職関係科目【L3104】教育の制度・経営［乾　彰夫］春学期授業/Spring 55
教職関係科目【L3105】教育原理［御園生　純］春学期授業/Spring 56
教職関係科目【L3106】教育の制度・経営［乾　彰夫］秋学期授業/Fall 57
教職関係科目【L3107】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall 58
教職関係科目【L3108】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall 59
教職関係科目【L3109】教育相談［沼田　あや子］春学期授業/Spring 60
教職関係科目【L3110】教育相談［沼田　あや子］秋学期授業/Fall 61
教職関係科目【L3111】社会・地歴科教育法［石出　法太］年間授業/Yearly 62
教職関係科目【L3112】社会・公民科教育法［桑山　俊昭］年間授業/Yearly 63
教職関係科目【L3113】情報科教育法［御園生　純］年間授業/Yearly 64
教職関係科目【L3114】道徳教育指導論［田中　智輝］春学期授業/Spring 65
教職関係科目【L3115】生徒・進路指導論［乾　彰夫］春学期授業/Spring 66
教職関係科目【L3116】生徒・進路指導論［乾　彰夫］秋学期授業/Fall 67
教職関係科目【L3117】特別活動論［桐島　次郎］秋学期授業/Fall 68
教職関係科目【L3118】特別活動論［桐島　次郎］秋学期授業/Fall 69
教職関係科目【L3119】教育課程論［三浦　芳恵］秋学期授業/Fall 70
教職関係科目【L3120】教育課程論［三浦　芳恵］秋学期授業/Fall 70
教職関係科目【L3121】教育方法論［酒井　英光］春学期授業/Spring 71
教職関係科目【L3122】教育方法論［酒井　英光］秋学期授業/Fall 72
教職関係科目【L3123】道徳教育指導論［水野　多満司］春学期授業/Spring 73
教職関係科目【L3125】教職実践演習（中・高）［御園生　純］秋学期授業/Fall 74
教職関係科目【L3127】教職実践演習（中・高）［高橋　繁］秋学期授業/Fall 75
教職関係科目【L3128】教職実践演習（中・高）［小嶋　常喜］秋学期授業/Fall 76
教職関係科目【L3129】教職実践演習（中・高）［平塚　眞樹］秋学期授業/Fall 77
教職関係科目【L3133】教育実習（事前指導）［御園生　純］秋学期授業/Fall 78
教職関係科目【L3135】教育実習（事前指導）［高橋　繁］秋学期授業/Fall 79
教職関係科目【L3136】教育実習（事前指導）［小嶋　常喜］秋学期授業/Fall 80
教職関係科目【L3137】教育実習（事前指導）［平塚　眞樹］秋学期授業/Fall 81
教職関係科目【L3138】教育実習（中・高）［平塚　眞樹］年間授業/Yearly 81
教職関係科目【L3139】教育実習（高）［平塚　眞樹］年間授業/Yearly 82
資格関係科目【L3151】社会教育計画［荒井　容子］年間授業/Yearly 82
資格関係科目【L3152】社会教育演習［江頭　晃子］年間授業/Yearly 83
資格関係科目【L3153】現代社会と社会教育［栗山　究］年間授業/Yearly 84
資格関係科目【L3155】視聴覚教育Ⅰ［有田　寛之］春学期授業/Spring 85
資格関係科目【L3156】視聴覚教育Ⅱ［有田　寛之］春学期授業/Spring 86
教職関係科目【L3160】特別な教育的ニーズの理解と支援［小池　雄逸］春学期授業/Spring 87
教職関係科目【L3161】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］秋学期授業/Fall 88
資格関係科目【L9001】メディアと人間Ⅰ／比較文化論Ⅰ［西　兼志］春学期授業/Spring 89
資格関係科目【L9002】メディアと人間Ⅱ／比較文化論Ⅱ［西　兼志］秋学期授業/Fall 89
資格関係科目【L9003】社会教育概論Ⅰ／生涯学習論Ⅰ［荒井　容子］春学期授業/Spring 90
資格関係科目【L9004】社会教育概論Ⅱ／生涯学習論Ⅱ［荒井　容子］秋学期授業/Fall 91
資格関係科目【L9005】福祉社会学Ⅰ［堅田　香緒里］春学期授業/Spring 92
資格関係科目【L9006】福祉社会学Ⅱ［堅田　香緒里］秋学期授業/Fall 92
教職関係科目【L9007】国際法［妻木　伸之］秋学期授業/Fall 93
資格関係科目【L9008】マス・コミュニケーション論［加藤　徹郎］春学期授業/Spring 94
資格関係科目【L9009】グローバル社会のローカリティ／地域社会学［中筋　直哉］秋学期授業/Fall 94
教職関係科目【L9010】国際政治論［白鳥　浩］春学期授業/Spring 95
資格関係科目【L9014】表象文化論Ａ［髙橋　愛］春学期授業/Spring 95
資格関係科目【L9015】表象文化論Ｂ［野田　吉郎］秋学期授業/Fall 96

教職関係科目【M9010】保健体育科教育法Ⅰ［林　園子］春学期授業/Spring 97
教職関係科目【M9011】保健体育科教育法Ⅰ［林　園子］春学期授業/Spring 98
教職関係科目【M9020】保健体育科教育法Ⅱ［林　園子］秋学期授業/Fall 99
教職関係科目【M9021】保健体育科教育法Ⅱ［林　園子］秋学期授業/Fall 100
教職関係科目【M9030】保健体育科教育法Ⅲ［永木　耕介］秋学期授業/Fall 101
教職関係科目【M9040】保健体育科教育法Ⅳ［林　園子］春学期授業/Spring 102
教職関係科目【M9120】教職実践演習［林　園子］秋学期授業/Fall 103
教職関係科目【M9121】教職実践演習［林　園子］秋学期授業/Fall 104
教職関係科目【M9210】教育実習（事前指導）［林　園子］秋学期授業/Fall 105
教職関係科目【M9211】教育実習（事前指導）［林　園子］秋学期授業/Fall 106
教職関係科目【M9310】教育実習（高）［林　園子］年間授業/Yearly 107
教職関係科目【M9320】教育実習（中・高）［林　園子］年間授業/Yearly 108
教職関係科目【N2511】教育実習（事前指導）［阿比留　久美］秋学期授業/Fall 109
教職関係科目【N2512】福祉科教育法［馬場　清］年間授業/Yearly 109
教職関係科目【N2513】教職実践演習（中・高）［阿比留　久美］秋学期授業/Fall 110

美術史（西洋）A

安藤　智子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀を中心としたフランス近代美術史を概観しながら、「近代性（モデルニテ）」とは何か、様々な角度から検証する.

【到達目標】
芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の政治や社会状況の考察を踏まえた上で、作品を多角的・重層的に捉える視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントで画像を映写し、レジュメ（資料・参考文献）を配布した上で講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第 2 回	美術史の概念と用語の解説 美術史とは？	美術史の基礎概念と用語 「裸婦の系譜〜美術史のケース・スタディーとして」
第 3 回	ロココ美術	宮廷文化、ヴァトー、ブーシェ、フラゴナール
第 4 回	フランス革命期の美術	ダヴィッドと新古典主義 アングルとアカデミー
第 5 回	ロマン主義	ジェリコー、ドラクロワ
第 6 回	レアリスム	バルビゾン派、クールベとレアリスム
第 7 回	マネと印象派の誕生	マネを中心としたポスト・レアリスムの美術から印象派へ
第 8 回	印象派の様相	印象派展 都市と田園との対比 オスマンのパリの都市改造計画と鉄道の発達
第 9 回	ポスト印象派 (1)	印象派の超越―セザンヌ
第 10 回	ポスト印象派 (2)	印象派の超越―ゴッホ、ゴーガン
第 11 回	ジャポニスム	日本美術の波及と西洋美術への影響
第 12 回	象徴主義とナビ派	象徴主義とは何か？ モローとルドンの絵画 ゴーガンによるナビ派の形成
第 13 回	新印象派	スーラによる色彩の筆触分割と点描方法 近代化と筆触の問題
第 14 回	まとめと質疑応答	１８世紀から１９世紀にかけてのフランスにおける、美術近代性を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国立西洋美術館の常設展など、19 世紀のフランス美術が展示してある場所に出向き、実際に美術作品を見てほしい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。各回の参考文献は授業中に紹介する。

【参考書】
『世界美術大全集　西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン 1―西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン 2 －西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（80 %）と、平常点（20 %）を参考に成績評価を決定する。フランス美術に関する基礎的知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含むが、履修人数によっては授業毎に提出してもらう記述コメント参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ作品の実物を見る機会を増やしてもらうために、授業中に、現在都内で見られる展覧会の紹介を行う。

【Outline and objectives】
We will examine the new art movements through 19th century, focusing on the topic of the 'Modernity' in the context of the Art History.

美術史（西洋）B

安藤　智子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
美術史の流れを大まかに捉えながら、前衛的な芸術運動がヨーロッパ諸国へと伝播していく過程を検討する。近代性 (モデルニテ) の重要な問題として、美術市場の形成についても考察する。

【到達目標】
美術史の流れを把握し、作品を重層的に考察する。
より能動的に芸術作品を見る姿勢を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
芸術作品の画像を見ながら、時系列に従って作品を解説する。あわせてその芸術作品が制作された社会状況を考察し、制作当時の鑑賞者の反応を検討することによって、作品の理解をより深める。学期中に１〜２回程度、授業中に紹介された芸術作品についての感想の提出を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と開催されている展覧会の案内
第 2 回	フォーヴィスム	マティスを中心とする画家たち
第 3 回	キュビスム	ピカソ、ブラックを中心としたセザンヌからの影響を受けた造形様式、絵画空間の変容
第 4 回	世紀末美術とエコール・ド・パリ	世紀末のパリに住む外国人画家たち
第 5 回	アヴァン・ギャルド芸術の諸動向	イタリア未来派、ダダからシュルレアリスム 第一次世界大戦と芸術動向との関連性
第 6 回	ドイツ表現主義	青騎士、ブリュッケ カンディンスキー
第 7 回	抽象芸術	無主題、無対象の芸術の展開 アメリカ抽象表現主義（ポロック、ロスコなど）
第 8 回	美術市場の形成（１）〜画商によるフランス近代絵画の伝播	デュラン＝リュエル、ヴォラールなどの画商の紹介
第 9 回	美術市場の形成（２）〜フランス近代美術のコレクション	コートールド・コレクションとバーンス・コレクション
第 10 回	美術市場の形成（３）〜イギリスでのロダン作品のプロモーション	コレクター、美術批評、芸術家のネットワーク ロダンの作品評価をめぐる美術論争
第 11 回	美術館の役割	収集、収蔵、研究、展示、教育など美術館が持つ機能と役割をロンドンの「ナショナル・ギャラリー」を例に考察
第 12 回	コンテンポラリー・アート	現在注目されている現代美術を紹介する
第 13 回	国立西洋美術館の常設展の見学	実際の作品を見て、１９世紀から２０世紀にかけての美術史の流れを確認する
第 14 回	まとめと質疑応答	これまでの総括 芸術における「近代性」とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できれば、春学期と通年で履修してください。
様々な美術展覧会に出向き、実際の芸術作品を鑑賞してください。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。授業内に資料を配付致します。

【参考書】
授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（80 %）と、出席状況や授業内コメント（20 %）を参考にして評価を出します。また、受講者の人数によっては、レポートでの評価に変更する可能性もあります。ただし、授業全体の 3 分の 1 を超えて欠席した場合、原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
開催中の展覧会などを積極的に紹介して行きます。

【Outline and objectives】
We will examine the new art movements through 19th century and 20th century. Especially in order to shed the light on the topic of the 'Modernity' in the context of the Art History, we will consider how the art market was formed in the modern era from the multiple points of view.

考古学概論

小倉　淳一

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】
日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業方法は講義形式による。板書と解説を中心とするので、受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席等）（30 %）、期末試験の成績（70 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】
プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】
※本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。
※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく考古学的研究方法の内容や成立過程について講義する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

日本考古学

小倉　淳一

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジア史の中に位置付けて講義する。
考古学資料にもとづく交流の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

【到達目標】
物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。
各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プリント等の資料も利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準 この授業で扱う時代概要の解説
第 2 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (1)	文化交流基盤の形成
第 3 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (2)	縄文文化形成への道程
第 4 回	旧石器・縄文時代の海洋利用	海を渡る丸木舟
第 5 回	弥生文化と対外交流（1）	弥生文化の外来的要素・在来的要素
第 6 回	弥生文化と対外交流（2）	稲作技術と集落遺跡
第 7 回	弥生文化と対外交流（3）	倭人の対外交渉のはじまり
第 8 回	弥生文化と対外交流（4）	『魏志』倭人伝の世界
第 9 回	弥生文化と対外交流（5）	玉生産と対外交流
第 10 回	古墳文化と対外交流 (1)	前方後円墳と舶載鏡
第 11 回	古墳文化と対外交流 (2)	ヤマト王権の対外交渉
第 12 回	古墳文化と対外交流 (3)	渡来系技術と遺物
第 13 回	古墳文化と対外交流 (4)	磐井の乱と朝鮮半島の墳墓
第 14 回	考古学からみた交流史	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』（1）〜（3）〈新版〉有斐閣、鈴木公雄（1988）『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第 01 巻〜第 03 巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

【成績評価の方法と基準】
成績の 70 %は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
準備学習に力を入れてほしい。また、各回の内容はレポートを書くための重要なヒントになっている。成績の高い学生は出席率も高く、授業の理解度が好成績に結びついている。
また、資格課程の関連科目として開講している関係もあるため、史学科以外の受講者も一定数を占めているが、受講にあたっては基礎知識を深めておく必要がある。概説書等の購読を推奨する。

【その他の重要事項】
※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials.

美術史（日本） A

稲本　万里子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、平安時代後期に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。
　この授業の目的は、視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】
　授業で取りあげた絵巻の基礎知識を修得し、技法と表現法について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期に制作された「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。
　また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 3 回	絵巻概説	絵巻の形態、鑑賞法
第 4 回	「源氏物語絵巻」Ⅰ	「源氏物語絵巻」概説
第 5 回	「源氏物語絵巻」Ⅱ	「源氏物語絵巻」柏木第一段〜御法段
第 6 回	「源氏物語絵巻」Ⅲ	「源氏物語絵巻」の情景選択法、竹河第一段〜東屋第二段
第 7 回	「源氏物語絵巻」Ⅳ	「源氏物語絵巻」蓬生段・関屋段、諸問題の検討
第 8 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅰ	「信貴山縁起絵巻」概説
第 9 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅱ	「信貴山縁起絵巻」飛倉巻、延喜加持巻
第 10 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅲ	「信貴山縁起絵巻」尼公巻、諸問題の検討、レポートの書き方
第 11 回	「伴大納言絵巻」Ⅰ	「伴大納言絵巻」概説
第 12 回	「伴大納言絵巻」Ⅱ	「伴大納言絵巻」上巻〜下巻、諸問題の検討
第 13 回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめⅡ	各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　事前学習の必要はないが、講義後、作品と作品名が一致するように、各自で参考図版を見ておくこと。ただし「源氏物語絵巻」については、『源氏物語』の内容を講義する時間がないので、あらかじめ物語のあらすじを把握しておくことが望ましい。参考書に記した『すぐわかる源氏物語の絵画』が便利。

【テキスト（教科書）】
　教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】
　入門書として、田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩『すぐわかる源氏物語の絵画』（東京美術、2009）、稲本万里子『源氏の系譜―平安時代から現代まで』（森話社、2018）、佐野みどり『じっくり見たい『源氏物語絵巻』』（小学館、2000）、泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』（小学館、2004）、黒田泰三『思いっきり味わいつくす伴大納言絵巻』（小学館、2002）。
　各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。
　筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
　前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】
　毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はない。

【その他の重要事項】
　時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

【Outline and objectives】
　This course introduces the basics of narrative scroll study to students taking this course.
　The aim of this course is to help students acquire an understanding of the analysis method of visual image.

美術史（日本） B

稲本　万里子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。秋学期は、どのような社会がどのような視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）を作り出したのかという問題に重点をおいて講義を進める。
　この授業の目的は、視覚表象をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】
　授業で取りあげた絵巻の基礎知識を修得し、技法と表現法について説明することができる。
　どのような社会がどのような視覚表象を作り出したのか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主など、視覚表象と社会をめぐる諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。
　また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究方法、ジャンル、時代区分
第 3 回	絵巻概説	絵巻の形態、鑑賞法
第 4 回	「鳥獣人物戯画」	「鳥獣人物戯画」の鑑賞と検討
第 5 回	「病草紙」	「病草紙」の鑑賞と検討
第 6 回	似絵	似絵作品の鑑賞と検討
第 7 回	「華厳宗祖師絵伝」	「華厳宗祖師絵伝」の鑑賞と検討
第 8 回	「北野天神縁起絵巻」	「北野天神縁起絵巻」の鑑賞と検討
第 9 回	「平治物語絵巻」	「平治物語絵巻」の鑑賞と検討
第 10 回	「男衾三郎絵巻」	「男衾三郎絵巻」の鑑賞と検討、レポートの書き方
第 11 回	「一遍聖絵」	「一遍聖絵」の鑑賞と検討
第 12 回	「春日権現験記絵巻」	「春日権現験記絵巻」の鑑賞と検討
第 13 回	「伊勢物語絵巻」	「伊勢物語絵巻」の鑑賞と検討
第 14 回	授業のまとめ	様式の展開と各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　事前学習の必要はないが、講義後、作品と作品名が一致するように、各自で参考図版を見ておくこと。

【テキスト（教科書）】
　教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】
　入門書として、若杉準治編『絵巻物の鑑賞基礎知識』（至文堂、1995）、榊原悟監修、佐伯英里子・内田啓一『すぐわかる絵巻の見かた』（東京美術、2004）。
　各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。
　筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
　前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】
　毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はない。

【その他の重要事項】
　時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

【Outline and objectives】
　This course introduces the basics of narrative scroll study to students taking this course.
　The aim of this course is to help students acquire an understanding of the analysis method of visual image.

民俗学Ⅰ

山本　志乃

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこで生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことである。民俗学は、そうした人々の記憶や行動の中に刻印された「文字化されにくい歴史」を、主にフィールドワークという手法を用いて掘り起こし、記録することを目的としている。日本の民俗社会は、とくに戦後の高度経済成長期を経て大きく変質し、かつて伝承されてきた習慣や風習なども変化を余儀なくされている。この授業では、日本人が培ってきた時間認識や空間認識、ことばと身体が織り成す豊かな伝承世界が民俗社会において果してきた役割などについて、自らの身近な生活や体験に照らし合わせながら、主体的に考え、発見することをめざす。

【到達目標】
この授業では、日本の民俗文化の特徴を、身近な具体例から実態的に理解することを目的とする。とくに高度経済成長期における生活文化の変遷に着目し、その背景となる社会変化をとらえる。また民俗学の主たる研究方法であるフィールドワークについて、その方法と意義を学ぶ。そして、日本文化の多様性を理解し、日本の地域社会の現状や国際社会との関係について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、必要に応じて受講者から意見を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	民俗学への誘い①	「民俗学」の誕生と研究方法
第 2 回	民俗学への誘い②	先人の軌跡Ⅰ・南方熊楠と柳田国男
第 3 回	民俗学への誘い③	先人の軌跡Ⅱ・渋沢敬三と宮本常一
第 4 回	住まう	住居の地域性と空間認識の特徴
第 5 回	食べる	高度経済成長期以前の食生活
第 6 回	祭る	年中行事とその意味
第 7 回	祀る	社寺の成り立ちとその原点
第 8 回	祈る	身近な言い伝えと祈願
第 9 回	語る	口承文芸の役割
第 10 回	うたう	民間芸能の担い手たち
第 11 回	あそぶ	娯楽と遊びの変遷と意味
第 12 回	商う	行商人の生活誌
第 13 回	身近な生活の記録	民俗文化財と地域博物館
第 14 回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期中に 1 回、簡単なフィールドワークとそれについてのレポート提出を課すので、指定する期日までに必ず提出すること（未提出者は履修放棄とみなします）。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】
『現代民俗学入門』佐野賢治他編、吉川弘文館、1996 年
『講座日本の民俗学』全 11 巻、雄山閣、1996 年
『日本民俗文化大系』全 14 巻、小学館、1985 年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）、レポート（25 %）、平常点（15 %）、さらに受講態度を加味して判断する

【学生の意見等からの気づき】
授業開始後の教室への出入りは、やむを得ない場合を除き、極力控えること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the understanding of the history of the common Japanese according to folklore research. This course introduces the study of nonwritten cultural materials(folk customs,public entertainments and traditional skills)in Japan.

民俗学Ⅱ

山本　志乃

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこで生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことである。その民俗の生成基盤である自然環境に着目し、日本人が自然環境とどのようにかかわってきたのかを、生業と信仰の両面から考える。これらは、人が自然に向かい合い、技術を駆使し、ことばを練り上げて思想へと高めていく「生きていく方法」としての民俗であり、現代的な課題でもある地域文化の再生にいかに寄与しうるのか、その可能性をあわせて考える。授業は「民俗学Ⅰ」を履修していることを前提に進める。受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表型式を取り入れながら進める。各自が問題意識を持って主体的に取り組むことを期待する。

【到達目標】
この授業では、春学期でとらえた民俗社会の基本事象をふまえ、日本社会の地域性と多様性について、具体的な事例から理解を深めることを目的とする。まず地域ごとに異なる自然環境に適応した複合生業の具体像を理解し、そのうえで、地域社会で培われてきた伝説・伝承をとおして、地域文化の多様性を実態的に理解する。さらには、身近な生活の歴史を学ぶことの意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式だが、受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	自然観の民俗	自然を知る
第 2 回	サトの暮らしと成り立ち①	稲作のムラ
第 3 回	サトの暮らしと成り立ち②	畑作のムラ
第 4 回	海付きのムラに生きる	百姓漁師と海女百姓
第 5 回	山に生きる	ヤマンドの世界
第 6 回	イチとマチ	物と人の交流
第 7 回	「聖地」の景観	神々の風景をよみとく
第 8 回	地域の伝説①	土地の成り立ち
第 9 回	地域の伝説②	旅する神々
第 10 回	地域の伝説③	川と水
第 11 回	地域の伝説④	語られる災害
第 12 回	地域の伝説⑤	怪異の世界
第 13 回	地域の伝説⑥	自然界の生き物
第 14 回	総括	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期内の前半に 1 回、レポートを提出する。レポート作成にあたっては、課題に従って各自で題材を設定し、参考文献を探して調べる（期限内にレポート未提出の場合は履修放棄とみなす）。作成したレポートに基づき、学期の後半で簡単な口頭発表をする場合がある。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】
『日本の民俗』全 13 巻、吉川弘文館、2008 年
『講座日本の民俗学』全 11 巻、雄山閣、1996 年
『神と自然の景観論』野本寛一、講談社学術文庫、2006 年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）、レポート（25 %）、平常点（15 %）、さらに受講態度を加味して判断する

【学生の意見等からの気づき】
授業開始後の教室への出入りは、やむを得ない場合を除いて極力控える。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the understanding of the history of the common Japanese according to folklore research. This course introduces the study of nonwritten cultural materials(folk customs,public entertainments and traditional skills)in Japan.

博物館概論

金山　喜昭

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化施設として「ミュージアムとは何か」について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】
将来博物館や美術館などに関連する仕事を志す者に対しては博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。他方、文化・教育関連、地域や NPO の仕事でも活躍できる知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法と関連法令などを取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館学の目的・方法・構成	授業ガイダンスに加えて、博物館ならびに学問としての博物館学について概説する。
第 2 回	博物館学史	博物館学の歴史を概観する。
第 3 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	海外の博物館の現状	英国をはじめ、海外の博物館・美術館の最新状況について説明する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	地域博物館論	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 11 回	博物館と地域コミュニティ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 12 回	博物館と現代社会	現代社会の諸課題に取り組む博物館の姿を紹介する。
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	博物館現地調査	東京および関東近郊の博物館にて、その業務について学芸員から解説指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館はキャンパスメンバーであるために常設展は無料で見学できるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】
金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）
金山 喜昭『公立博物館をＮＰＯに任せたら－市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）
金山 喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
出席 (授業数の 70 %以上）を前提として、学期末試験（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
授業計画の詳細や博物館見学会の日程は、授業中の指示、資格課程実習準備室の掲示等を留意すること。

【授業中に求められる学習活動】
B、D

【Outline and objectives】
This course aims to understand “What is a museum? as a cultural facility and learn its social role and significance.

博物館経営論

金山　喜昭

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージアムの経営の現状とその課題や改善について具体的に検討する。

【到達目標】
将来、ミュージアム（博物館や美術館などの文化施設）に関連する仕事を志す者が、ミュージアムの適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館や美術館の形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。特に、適切な管理・経営を遂行するミュージアムについて事例を学ぶとともに、実際のミュージアムの経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に、組織体や職種のほか、関連する行財政制度や人材育成面について、その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状Ⅰ（公立博物館・民間博物館）	公立博物館及び民間博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館の使命・社会的役割	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 5 回	博物館調査に入るためのガイダンス	博物館の経営調査をグループ・ワークで進めるための準備作業。調査から発表に至るまでの方法・プロセスや留意点を説明する。
第 6 回	博物館の計画・評価　Ⅰ	博物館における使命・理念・方針を踏まえた経営計画・経営評価について、最新の事例を交えながら、解説する。
第 7 回	博物館の計画・評価　Ⅱ	博物館における使命・理念・方針を踏まえた経営計画・経営評価について、最新の事例を交えながら、解説する。
第 8 回	博物館のコミュニケーション活動	内外の博物館における広報戦略、広告宣伝・マーケティング活動について、ミュージアム・グッズの開発・販売の事例を交えながら、解説する。
第 9 回	博物館における連携・ネットワークⅠ	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の最新事例を扱う。
第 10 回	博物館における連携・ネットワークⅡ	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の最新事例を扱う。
第 11 回	博物館経営調査（調査・分析）	実際にグループワークで博物館の経営状況について調査・分析し、その成果をまとめる。
第 12 回	博物館経営調査の実際Ⅰ（報告/討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する。
第 13 回	博物館経営調査の実際Ⅱ（報告/討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する。
第 14 回	本授業の総括と試験	本授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
実際にグループで調査するので授業時間だけでは足りません。曜日を決めて集まるなど、手間を惜しまずに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたら-市民、自治体、地域の連携』（同成社、2012）

【参考書】
金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
出席 (授業数の 70 %以上）を前提として、グループ調査の成果（30 %）、学期末試験（70 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
授業計画の詳細や博物館見学会の日程は、授業中の指示、資格課程実習準備室の掲示等を留意すること。

【授業中に求められる学習活動】
C、D、E、F、G、H

【Outline and objectives】
This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

博物館経営論

杉長　敬治

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、博物館経営についての基本知識を学習します。基本知識の習得後、学生は、日本の博物館の経営の現状と課題について学習し、経営上の課題を解決するためのスキルについて学びます。

【到達目標】
日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い, 博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館経営に関する基本事項について講義します。博物館の業種特性、博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）の現状と課題について理解を深め、博物館経営の望ましい在り方を考察していきます。①博物館制度論の観点からの考察、②博物館統計によるマクロな視点からの考察、③事例研究によるミクロな視点からの考察を行います。受講生には、講義内容を踏まえて、自身が選択した博物館について、フィールドワーク（講義外の時間を活用して博物館現場のリサーチを行う）などにより経営分析を行い、その成果をレポートにまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念、博物館の業種特性を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性について学習する。
2	博物館の経営資源について	博物館の主要な経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）について学習する。
3	博物館の経営資源から見た日本の博物館の特徴と課題	博物館の経営資源に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこと）を把握し、博物館の課題を考える。
4	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館のミッションがどのように設定されているかについて学習する。また、ミッションを達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
5	博物館の経営戦略について－マーケティング	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の経営戦略について－広報戦略・ブランド戦略	博物館の経営戦略のうち、広報戦略・ブランド戦略について学習する。
7	博物館の経営戦略について－連携・協力、支援組織	経営資源を豊かにする上で、連携・協力は極めて重要である。連携・協力の現状と課題について学習する。また、博物館の支援組織（友の会・後援会、ボランティア）について学習する。
8	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
9	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
10	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状と課題について学習する。主要国の代表的な博物館との比較を行い、各国の博物館経営の特徴について理解する。
11	公立博物館の経営－現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度とその導入事例、国の公立博物館に関する政策の動向について学習する。
12	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、時間をつくって博物館を見学し、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。博物館を調査し、経営分析を行ってもらい、成果をレポートにまとめてもらいますので、講義外の時間に博物館現場に出向くことが必須になります。また、参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいますので、積極的に読んでください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回プリントを配付します。

【参考書】
①公立博物館を NPO に任せたら、金山喜昭著、同成社、②博物館と地方再生：市民・自治体・企業・地域との連携、金山喜昭著、同成社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④「日本の博物館総合調査研究」報告書・基本データ集、http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/mirror_museum-census_jp/ に収録、⑤ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、⑥マネジメント、P．F．ドラッカー、ダイヤモンド社、⑦思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑧その他－授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題にどのように取り組んでいるかを判定するため、①期末レポート（50%）、②各回の講義内容に添った課題レポート（40%）、③平常点（10%）により評価します。①の期末レポートのテーマは、博物館の経営分析です。対象として取り上げる博物館について、調査 (現地調査を含む。)・分析をしてもらい、その成果をレポートにまとめてもらいます。②の課題レポートは、授業時に課題として出すものの中から選択してもらい、指定する時期までに提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。いただいた質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境（照明・温度）に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにより教材の配付や諸連絡を行います。授業毎に必ずアクセスをしてください。

【その他の重要事項】
この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目です。学芸員資格の取得を目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見があれば、出席表のコメント欄に書いてください。皆さんのコメントは、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く” そして “考える” がセットになった行動が必要不可欠です。経営分析のレポート作成を通して、皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思います。

【授業中に求められる学習活動について】
特になし

【Outline and objectives】
Students will learn basic knowledge about museum management. After mastering basic knowledge, students learn about the current state of management and tasks of Japanese museums and learn about the skills to solve management problems.

博物館資料論

田中　裕二

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】
博物館を、「資料」という観点から理解することを目ざす。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通した教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には、配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料（直接資料）について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料（関節資料）について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連した事例を各自が調べて発表する等の課題が適宜出されます。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入館料が発生する可能性があります）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】
授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）： 50 %
期末試験（論述）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
今年度から担当のためまだデータ無し。

【Outline and objectives】
Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

博物館教育論

荒川　裕子

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】
幼児から社会人まで、さまざまな年齢や立場の人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状を知るとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ミュージアム教育をめぐる基本的な理論を理解したうえで、歴史博物館や美術館など、それぞれのミュージアムの持つ資料や特性を生かして、どのような教育プログラムが実践されているのかを概観します。併せて、受講生自身が、ミュージアム教育のための講座やワークショップの立案を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第 2 回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第 3 回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第 4 回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の理論的枠組みを理解する。
第 5 回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第 6 回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第 7 回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第 8 回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通した情報公開について学ぶ。
第 9 回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について具体的に学ぶ。
第 10 回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第 11 回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 12 回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 13 回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、プリントを配布します。

【参考書】
黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、
ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（ディスカッションへの参加や課題の成果など）： 50 %
期末試験（論述）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【授業中に求められる学習活動】
B, C, D, E, F, G, H,

【Outline and objectives】
In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called 'museum education' from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it.

博物館教育論

山下　治子

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】
①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。 美術館での学び、ワークショップ
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。 自然史系博物館での学び①
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。 特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。 自然史系博物館での学び②
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。

【テキスト（教科書）】
『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】
雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（出席数＋リアクションペーパー）（50%）＋レポート (30%) ＋＋学期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

博物館資料保存論

今野　農

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における基本的な機能の１つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】
講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。適宜、リアクションペーパーの提出を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第２回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第３回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第４回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第５回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第６回	日本の伝統的保存法 日本の風土に根差して	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第７回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第８回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第９回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について解説する。
第１０回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第１１回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第１２回	歴史的建造物等の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第１３回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第１４回	まとめ	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・石﨑武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 10%、平常点： 60%程度、最終試験： 30%。

【学生の意見等からの気づき】
知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。

【Outline and objectives】
This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

博物館資料保存論

清水　久夫

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館・美術館では、どのように博物館資料・作品を保存し、後代へ伝えているのかを学ぶ。

【到達目標】
将来博物館・美術館の学芸員の仕事をするに際し必須である、博物館資料の保存・展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力を養うことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。博物館・美術館における資料の保存環境、環境保護と博物館の役割について具体的に取り上げる。毎回、授業の終了時、その日の講義で考ええたこと、感想、要望、質問等についてのコメントを提出してもらい、翌週の授業の冒頭で答える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	資料保存の意義	ガイダンスの後、博物館における資料保存の意義について解説する。
2	資料の状態調査、現状把握	博物館では、どのように資料の状態調査、現状把握をしているかについて解説する。
3	資料の修復・修理	主として美術館における資料（作品）の修復・修理について解説する。
4	資料の梱包と輸送	資料を移動させる際、どのように資料を梱包するかについて解説する。また、資料を館外へ搬出する際、どのように輸送するかを解説する。
5	資料保存に適した温湿度	博物館における温湿度管理について解説する。あわせて大気汚染の影響について解説する。
6	資料と照明	光（照明）が資料に与える影響について解説する。あわせて近年取り入れ始められたＬＥＤ電球についても取り上げる。
7	資料の生物被害	資料に害を与える虫、カビについて、ＩＰＭを中心に解説する。
8	火災、地震による被害	過去における火災、地震による資料の損傷とその予防策について解説する。
9	水害、盗難による被害	過去における水害、盗難とその予防策について解説する。
10	伝統的保存方法	日本の風土にあった伝統的な保存方法について解説する。
11	収蔵、展示等の保存環境	博物館における望ましい資料の収蔵、展示等の保存環境について解説する。
12	地域資源・文化財の保存と活用	エコミュージアムおよび景観、歴史的環境を含む文化財の保存と活用について博物館が果たす役割について解説する。
13	自然環境の保護	自然環境の保護について博物館が果たす役割について解説する。
14	まとめと振り返り	13 回目までの講義の「まとめ」と「振り返り」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館の活動は、実際に現場を見なければ理解しがたいところがある。授業で学んだことを念頭に置いて、休日等を利用し、できるだけ多くの博物館・美術館を訪れること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考書】
『博物館学Ｑ＆Ａ』清水久夫著。『続・博物館学Ｑ＆Ａ』清水久夫著。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業終了時に提出するコメント 50 %、レポート 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特にない

【その他の重要事項】
授業中のスマートフォンの使用を禁止する。

【授業中に求められる学習活動】
Ｃ，Ｄ

【Outline and objectives】
This course provides students with a knowledge of preservation of the museum materials.

博物館展示論

渡邉　尚樹

配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】
1．「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2．博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3．展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4．展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく実務に即した講義になるため、学生には新鮮な印象があったようだが、理解させるにはさらに工夫が必要と考える。

【Outline and objectives】
Learning about methods of museum's display through the exhibition of Arts and academic achievements.

博物館展示論

渡邉　尚樹

配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】
1．「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2．博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3．展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4．展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特に無し。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく実務に即した講義になるため、学生には新鮮な印象があったようだが、理解させるにはさらに工夫が必要と考える。

【Outline and objectives】
Learning about methods of museum's display through the exhibition of Arts and academic achievements.

博物館実習Ⅰ

藤田　直人

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館に関わる実務を学びながら、学芸員としての心構えや技能を習得することを授業の目的とします。博物館はもとより、文化・教育・メディアをはじめ地域社会・NPO など、関連分野で貢献できるアビリティーやスキルを磨きましょう。

【到達目標】
学芸員・キュレーターの職務は多岐にわたります。専門性を持ちながらも、博物館・ミュージアムの各理念・役割に応じて、臨機応変に対応できる人材が求められます。本学所蔵の実資料を取り扱いながら、観察・記録・整理・展示など一連の所作所用を習い、基本的な業務を段階的かつ体系的に学びましょう。この授業で学んだことは、博物館での館務実習やインターンシップなど次なるステップへの糧や備えとなりましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＜実習科目＞ですので、積極的な姿勢で臨めば、アクティブにラーニングできるような構成になっています。本学所蔵のコレクションを実際に取り扱うなかで「資料調査法」「資料化法」「資料展示法」などの技法を学びます。また、ワークショップ、エディトリアルデザイン、キュレーションなどのスキルを磨けるよう実践的な講座を配します。ミュージアム活動を積極的に学び、確実に課題を遂行していきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	事前指導・ガイダンス	①実習全体の事前指導②博物館概況③学芸員関連職務と心得・キャリア形成④課題・評価法など。※受講条件確認・抽選会あり。
2	資料取扱法〔実務実習を進めるための基礎〕	資料を取り扱う上での専門的知識・留意事項を身に付ける。特に教育史・遊戯史学的知見・表象を知る。
3	博物館資料取り扱いⅠ	資料〔民藝玩具〕の概要の理解
4	博物館資料取り扱いⅡ	資料〔民藝玩具〕の選択、調査方法・方針の設定
5	博物館資料取り扱いⅢ	資料〔民藝玩具・凧〕の観察・開梱・考察・収納
6	博物館資料取り扱いⅣ	資料〔民藝玩具・凧〕の実測・図化・由来
7	博物館資料取り扱いⅤ	資料〔民藝玩具・凧〕の比較考証・文献文化学的検討
8	博物館資料取り扱いⅥ	資料カード化（仮提出・一次評価・改善点・校正）
9	博物館資料取り扱いⅦ	資料調査ワークショップ（報告発表・考察・講評）
10	博物館資料取り扱いⅧ	資料の梱包・収納、資料カードの最終校正・課題提出
11	調査資料による展示展開	調査を基にキャプションづくり、撮影、報告展開
12	展示展開ワークショップⅠ	キュレーションゲーム：展覧会系ワークショップ（博物館ロゴ・展覧会企画デザイン）
13	展示展開ワークショップⅡ	キュレーションゲーム：展覧会系ワークショップ (プレゼン評価)
14	博物館見学ワークショップⅠ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
15	博物館見学ワークショップⅡ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
16	コレクション調査Ⅰ (調査報告)	夏季に現地調査したコレクション資料 (民藝玩具類) について成果報告
17	コレクション調査Ⅱ (調査報告)	夏季に現地調査したコレクション資料 (民藝玩具類) について成果報告（資料・資料カードの課題提出）
18	コレクション調査Ⅲ（資料化実習）	夏季に現地調査したコレクション資料 (民藝玩具類) の展示準備をする（キャプション案の提出）
19	コレクション調査Ⅳ（資料化実習）	夏季に現地調査したコレクション資料 (民藝玩具類) について成果を報告する（特別展準備・仮展示）
20	博物館資料の整理・管理実務Ⅰ	掛物・巻子・屏風、古文書類の取り扱い、展示、収納体験
21	博物館資料の整理・管理実務Ⅱ	写真の手技と解説（写真・カメラの原理、オールド〜最新カメラの実際、照明機材・撮影手法の基礎）
22	博物館資料の整理・管理実務Ⅲ	写真撮影の実際（アナログカメラ・デジタル一眼等による物撮り・照明設定の理解と実際）
23	博物館資料の整理・管理実務Ⅳ	博物館関連講座・イベントの取材・記録・資料化
24	博物館資料の整理・管理実務Ⅴ	コレクション資料・収蔵資料の梱包・搬出搬入
25	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻 (解説：文字・書体・フォント・篆刻落款史) と（実習：素材・用具・技法・刻前準備）
26	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻（実習：意匠・印稿作成)、課題指定と道具貸出）
27	博物館見学ワークショップⅢ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
28	事後指導 (まとめ・振り返り)	全課題内容および提出状況の確認。通年を通しての総括・講評・考察、貸出機材・道具の返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◇夏季調査課題：休暇中に「民藝玩具・凧玩等」の現地調査・資料収集 (具体的テーマ・調査報告法は当該授業で展開）◇冬季篆刻課題：刻印を仕上げ、印影落款を提出する

【テキスト（教科書）】
◇利用する資料プリント・文献、道具類は、適宜テーマ・コンテンツに即して授業前に配布または貸出する。

【参考書】
◇最新かつ着実な知見を提供すべく、推薦図書・参考書・図録・展覧会情報は関連トピックとして逐次紹介。

【成績評価の方法と基準】
①授業への貢献度（含むワークショップ・見学会）②授業内の取組姿勢、協調性、ディスカッションへの参画性　③日々の小課題・使用カード・リアクションペーパーのほか、テーマ課題・夏季課題・冬季課題などの状況…これらの視点で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
◇日々の研鑽・積み上げが個人のスキルや進捗にも反映されます。また、特性上、個人作業だけでなく協同作業が発生します。主体性及び協調性をもって実習に臨まれることを期待します。

【学生が準備すべき機器他】
◇必要に応じて、情報機器や実習関連用具を貸し出します。
◇日々の授業で、キャプションづくりや資料カードづくりのほか、文作・編集機会を設けます。メモ用スケッチブックや電子辞書などの活用を推奨しています。

【その他の重要事項】
◇毎回、学びのポイントやスキルアップの確認を目的に、リアクションペーパーや京大式カードを配布するほか、授業の内容に応じてディスカッション機会を設けます。受講生間の積極的な意見交換を期待します。※注意：実習室のスペース的与件もあり、希望者が多い場合、初回授業にて「受講確認・抽選会」を開催します。

【Outline and objectives】
Curators have to carry out variety of duties with high expertise. Most of Museums need human resources who can respond flexibly according to the ideals and roles. Let's learn the basic tasks in a step-by-step and systematic manner. While handling the actual materials in University,learning a series of work results such as observation,recording,arrangement,exhibition. The main purpose of this lesson is to actually hone up basic skills and abilities such as collection,handling,storage,exhibition,organization and classification of actual materials. Let's learn it as a provision for each next step such as the Museum practicum training and internships. This "In-campus Practical Training" allows you to deepen your understanding of the work of museums and the role of curators by putting cover "Museum Practice" at the final stage of the curator training course to the range.

博物館実習Ⅰ

金山　喜昭

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】
博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。将来、博物館などの文化施設のみならず、文化・教育関連、地域や NPO 等の分野でも活用できるスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期には大学のコレクションを用いた実務実習と教材製作を行う。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶ。この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：凧）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（凧）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（凧）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（凧）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（凧）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（凧）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（石器）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	石器の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	石器の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	石器の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	石器の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱いⅩⅠ	石器の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	現地調査。東京及び近郊博物館での学芸員からの業務解説で実態理解。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する。
第 16 回	コレクション調査　Ⅰ（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査　Ⅱ（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査（資料化実習）　Ⅲ	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査（資料化実習）　Ⅳ	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻　Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻　Ⅱ	篆刻の製作
第 28 回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
出席と課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】
This course aims to undertake a practicum for practical operations atthe museum.

博物館実習Ⅱ

小西　雅徳

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施の手法を学んでいきます。日本の博物館では、コレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象です。しかし、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、個人の企画力やグループ討議を通じて、企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界を一緒にのぞいて見ましょう。

【到達目標】
日本の博物館活動では、企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため、学芸員も企画展を前提に活動をすることが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え、基本となる企画展実施の工程、過程を学ぶ必要があり、この授業では 1 年間を通じて、企画展実施までの様々な手法やその時々の流行を捉え、博物館現場の実際を通じて学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築に加え、豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想し発表し到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程手順、③グループ発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが、後期はグループ発表準備にあてます。個々人の企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制を、グループワークを通じて体験します。発表ではパワーポイントを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス　博物館展示の世界・学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介します。
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的推移について（概説）	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証する。
第 3 回	日本の企画展	日本における企画展の実態を見て、将来的な展望を探ります。
第 4 回	世界の企画展	世界ではどのような企画展が行われているのか、その舞台裏をのぞいて見ます。
第 5 回	展示の種類と手法	常設展と企画展との実施手法の違いや意義を考えます。
第 6 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順―その 1 －展示のための素材探し、種- ヒントの探し方を考える。
第 7 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみること	企画展実施までの工程手順―その２－成功した企画展例を基に、自分なりにシュミレーションしてみること。
第 8 回	展示構想（企画書の作成）	展示構想の内容と要点について説明し、企画内容に盛り込むものを整理する。
第 9 回	企画展を構想する①	学生自身で企画展を構想提示し、発表する。
第 10 回	資料目録の作成手順	展示の第一歩は、出展目録の作成にある。１次候補から２次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始める。
第 11 回	借用交渉と調書	学芸員の力量は、資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。
第 12 回	展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示室の空間やケースの配置、照明計画を立てる。
第 13 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員存在理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。所謂ライターとしての学芸員像。
第 14 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。また、サイン作成も重要。
第 15 回	展示解説	学芸員は展示企画者であると同時に優秀な解説者でなければならない。
第 16 回	展示図録・パンフレット等の作成手順	図録やポスター等の印刷物作成手順を学ぶ。
第 17 回	企画展を構想する②	学生自身で企画展を構想提示し、発表する。優れた企画案について議論を深める。
第 18 回	情報端末導入について	大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 19 回	企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	５人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 20 回	企画展実施②　グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 21 回	企画展実施③　展示企画の具体像を提示していく	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 22 回	企画展実施④　観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における集客方法や展示の仕方・広がりを考える。
第 23 回	中間発表－まとめ	グループ発表の仮題目を決め中間発表を行う。展示構想を具体化していく。
第 24 回	企画展実施⑤　発表に向けた行動のはじめ	発表内容の構成やポイントを整理する。パワーポイント情報への整理を行う。
第 25 回	企画展実施⑥	発表の役割や手順を調整する。限られた時間内での発表を工夫していくこと。
第 26 回	企画展実施⑦　最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。レジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表　グループ数が多い場合は、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	各グループが１５分程度で発表する。パワーポイントやペーパーを用いて発表する。１年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企画展発表のためには、いろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を３回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し、自分の企画展発表のシーズ（種）を探してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業配布します。

【参考書】
展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】
出席７割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリテイを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。

【学生の意見等からの気づき】
机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいですね。

【学生が準備すべき機器他】
グループ討議では PC を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☒を活用してほしいです。

【その他の重要事項】
特にありません。

博物館実習Ⅱ

杉山　享司

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー（展覧会チラシ）の制作までを通して、学芸員の仕事の実際について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】
この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を企画して展覧会概要にまとめ、最終的にはそれをフライヤー（展覧会チラシ）として完成させ発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要となる知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の授業では、博物館における展覧会の意義や学芸員の役割を説明しつつ、各種の博物館施設における展覧会活動を映像資料を使って紹介し、どのようなプロセスで展覧会が作られていくのかを解説します。また、秋学期では、受講生各自が展覧会の企画を練り、開催概要の作成と発表を行い、それを基にしてフライヤー（展覧会チラシ）の制作を実施していきます。なお、発表の際には毎回受講生同士でディスカッションを行い、展覧会を企画する上での留意点や課題について、互いが学び合えるように進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館実習の目的・方法	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	展覧会と学芸員	学芸員の役割と展覧会の意義について解説する
3	展覧会からたどる博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本の博物館がどのように発展していったのかを解説する。
4	私立美術館における展示活動の紹介	日本民藝館の概要と展示活動について紹介する
5	公立美術館における展示活動の紹介	静岡市立芹沢銈介美術館の概要と展示活動について紹介する
6	国立博物館における展示活動の紹介	東京国立博物館の概要と展示活動について紹介する
7	動物園施設における展示活動の紹介	旭山動物園の概要と展示活動について紹介する
8	海外の博物館における展示活動の紹介	大英博物館の概要と展示活動について紹介する。
9	企画展の開催とその意義について	企画展の持つ意味やそれを開催するための方法等について解説する。
10	展覧会実施までのプロセス①	企画書の立案から作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	企画書の作成からプレゼンテーションまでの過程を解説する
12	展覧会実施までのプロセス③	展示の準備から展覧会実施までの過程を解説する
13	出品交渉の心得について	作品の借用交渉について説明する
14	展示の方法や種類について	展示方法の紹介やその作業について解説する
15	展覧会企画に向けて	春学期授業の内容確認と、展覧会の企画書の作成方法について説明する。
16	受講生による 1 回目の展覧会企画の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。
17	前回発表の振り返りと、受講生による 2 回目の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、特に展示内容とその構成の仕方について解説する
18	前回発表の振り返りと、受講生による 3 回目の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では特に展覧会会場の設定に関して解説する
19	前回発表の振り返りと、受講生による 4 回目の発表	受講生による 4 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、料金設定の仕組みについて解説する
20	前回発表の振り返りと、受講生による 5 回目の発表	受講生による 5 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定に関して解説する
21	前回発表の振り返りと、受講生による 6 回目の発表	受講生による 6 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、プレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会企画の発表の総括	受講生各自の発表を基に、問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る
23	展覧会見学	学芸員の案内による東京都内の美術館見学を行う
24	受講生によるフライヤーを用いた 1 回目の本発表	企画書を基にして作成したフライヤー（展覧会チラシ）の 1 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による 2 回目の本発表	展示内容に意識しながら 2 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による 3 回目の本発表	フライヤー（展覧会チラシ）のデザイン面に留意しながら 3 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による 4 回目の本発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら 4 回目の本発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による 5 回目の本発表	企画者としてのメッセージに留意しながら 5 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】
レジュメを授業中に配布します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）40 %、課題制作の評価 60 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.
In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

金山　喜昭

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは、ミュージアムでの実務実習である。そこで働くプロの仕事に触れることで、専門的で多様な技能を身につけるとともに社会人としてのコミュニケーション能力を養う。

【到達目標】
これまでに学んだ博物館に関する基礎知識や基本的技能をベースに、博物館での館務体験を通して、多様な業務を理解するとともに、学芸員として求められる実践的能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の 9 科目全てを取得した者のみを対象に、2 週間（10 日間）以上の館務実習を実施する。
実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び（2）法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が 10 日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計 5 回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する。(全員が対象)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ		内容
第 1 回	事前指導	①	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
第 2 回	個別指導	①	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する面談指導。
第 3 回	個別指導	②	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。
第 4 回	事前指導	②	「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内学外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
第 5 回	事前指導	③	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
第 6 回	館園実習	①	博物館施設での館務実習。（実習日数は、合計 10 日以上であること。実習内容の詳細は、各博物館での実習内容・日程に従う）
第 7 回	館園実習	①	博物館施設での館務実習。（同上）
第 8 回	館園実習	②	博物館施設での館務実習。（同上）
第 9 回	館園実習	②	博物館施設での館務実習。（同上）
第 10 回	館園実習	③	博物館施設での館務実習。（同上）
第 11 回	館園実習	③	博物館施設での館務実習。（同上）
第 12 回	館園実習	④	博物館施設での館務実習。（同上）
第 13 回	館園実習	④	博物館施設での館務実習。（同上）
第 14 回	館園実習	⑤	博物館施設での館務実習。（同上）
第 15 回	館園実習	⑤	博物館施設での館務実習。（同上）
第 16 回	館園実習	⑥	博物館施設での館務実習。（同上）
第 17 回	館園実習	⑥	博物館施設での館務実習。（同上）
第 18 回	館園実習	⑦	博物館施設での館務実習。（同上）
第 19 回	館園実習	⑦	博物館施設での館務実習。（同上）
第 20 回	館園実習	⑧	博物館施設での館務実習。（同上）
第 21 回	館園実習	⑧	博物館施設での館務実習。（同上）
第 22 回	館園実習	⑨	博物館施設での館務実習。（同上）
第 23 回	館園実習	⑨	博物館施設での館務実習。（同上）
第 24 回	館園実習	⑩	博物館施設での館務実習。（同上）
第 25 回	館園実習	⑩	博物館施設での館務実習。（同上）
第 26 回	事後指導	①	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状、実習成果報告及びプレゼンテーションに関する指導。
第 27 回	個別指導	③	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
第 28 回	事後指導	②	受講者全員による実習成果の発表会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布する。

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
ガイダンスを含めた授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）。
実習先での評価。
課題提出物を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
*第 1 回ガイダンス【受講準備】（前年度 12 月）
*個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】
*第 2 回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】（4 月）
*第 3 回ガイダンス【事前指導】（7 月）
*実地実習
*実習先への礼状の送付
*第 4 回ガイダンス【報告準備】（10 月）
*事後指導・実習報告会および情報交換会（12 月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定）形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。
なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】
学内実習の実務実習は、春学期（6 月）及び秋学期（10 月〜11 月）にそれぞれ 10 日間実地する。学外の各博物館の都合で実習日数が 10 日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline and objectives】
The theme of this course is a practicum for practical operations at a museum. This course aims to learn communication skills as a member of society as well as professional and diverse skills by training with the professionals at a museum.

図書館情報学概論 I

田村　貴紀

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館に関する入門的講義として次の諸点を学ぶ。
（1）図書館の基本的機能（資料収集・組織・提供・保存機能
（2）図書館の種類（国立・公共・大学・専門図書館の理念・制度・実態）
（3）図書館関係法規（図書館法ならびに関連法規）
（4）図書館員の役割（専門性と司書職制度、図書館の自由、図書館員の倫理綱領など）

【到達目標】
図書館概論は「図書館とはなにか」を学ぶためのいわば入門講座的な科目であり、司書課程全体への案内の意味をもつ。学習者は、図書館の機能や社会における意義や役割について理解する。また図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係などについて修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館における情報の収集・整理・利用を説明する。レファレンスサービスなどの基本サービスや、図書館と関わりがある各種の法規、地域の情報拠点としての図書館のあり方について学ぶ。基本的に講義であるが、必要に応じて実習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要や利用するネットワークシステムについて説明する。
2	図書館とは何か	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史，図書館の種類と役割・特徴などについて説明する
3	図書館の種類とその根拠法	国立図書館，公共 (公立) 図書館，大学図書館，学校図書館，専門図書館，その他の図書館など図書館の種類とその根拠法について学ぶ
4	協力・連携とネットワーク	高まる利用者のニーズに対して，自館の力の限界を越えてまでも応えていこうとすれば，そこで必要になるのは他の図書館との協力・連携である。図書館協力・ネットワークの歴史と仕組みについて学ぶ。
5	司書の専門性	図書館の理念・目的を具現化する担い手として，図書館職員のもつウエイトは大きい。図書館職員の有効・適切な働きがなければ，図書館は単なる建物 (場所) であったり，資料の集積にすぎないからである。専門職としての司書の職能・養成などについて学ぶ。
6	生涯学習と図書館	現在，生涯学習は，国・自治体をあげて教育改革の中核的な理念であり，学校教育をもその一環として包含する概念となっている。生涯学習の中に図書館を位置づける。
7	情報環境の変化と図書館	インターネットの広範な活用，携帯電話や続々と登場する新たな情報端末機の普 及に見られるこうした情報化の進展は，20 世紀末以来の科学技術の急速な進歩に 負うところが大きい。情報環境の変化への図書館の対応について学ぶ
8	出版文化と図書館	20 世紀を通じて，科学技術の進歩により多様な情報メディアが相次いで現れ，伝統的なメディアである書物に挑戦してきたが，本 (活字) のもつ特性を全面的に凌駕するものではなく，依然として本はその独自の役割を保持している。出版文化について学習する。
9	図書館の自由　1	日本の図書館界において，図書館利用者の知る自由を保障する図書館の責務を表現した基本的な文書である「図書館の自由に関する宣言」は，1954 年の全国図書館大会および日本図書館協会 (日図協) 総会で採択され，その後 1979 年の総会で改訂が承認され現在に至っている。現在の図書館活動の精神的支柱である図書館の自由について 2 回に分けて学ぶ。
10	図書館の自由　2	日本の図書館界において，図書館利用者の知る自由を保障する図書館の責務を表現した基本的な文書である「図書館の自由に関する宣言」は，1954 年の全国図書館大会および日本図書館協会 (日図協) 総会で採択され，その後 1979 年の総会で改訂が承認され現在に至っている。現在の図書館活動の精神的支柱である図書館の自由について 2 回に分けて学ぶ。
11	指定管理者制度	現在図書館運営上重要な問題になっている指定管理者制度について学ぶ。
12	様々な公共図書館　1	『つながる図書館: コミュニティの核をめざす試み (ちくま新書)』の事例から、様々な公共図書館の実態、改革の姿勢を知る。
13	様々な公共図書館　2	『つながる図書館: コミュニティの核をめざす試み (ちくま新書)』の事例から、様々な公共図書館の実態、改革の姿勢を知る。
14	情報リテラシー	デジタルデバイドや情報リテラシーの問題について解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配布の資料を読んでくること

【テキスト（教科書）】
レジュメ配布

【参考書】
塩見昇. (2015). 図書館概論 (4 訂版 版). 日本図書館協会.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %で採点する。

【学生の意見等からの気づき】
現代の図書館の持っている課題やチャレンジが、いきいきと伝わるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン・インターネットを常時使用します。
http://778689.com/ を利用して授業実施。

【Outline and objectives】
Learn the following points as an introductory lecture on libraries.
(1) basic functions of the library (collection of materials, organization, provision and preservation function
(2) Types of libraries (philosophy, institution, actual condition of national / public / university / special libraries)
(3) Library related laws (library law and related laws)
(4) Role of librarians (expertise and librarian system, freedom of library, code of ethics for librarians etc.)

図書館情報学概論Ⅱ

田村　貴紀

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【到達目標】
図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
コンピューター、インターネットを使用しながら講義と演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：図書館と情報技術	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。
2	図書館と情報技術―歴史	図書館における情報技術の変選について解説する
3	図書館と情報技術―実際編	図書館における情報機器の役割と実際について学ぶ
4	コンピューターの基礎知識	コンピュータおよびネットワークの基礎知識について学ぶ
5	コンピューターの基礎知識―歴史	コンピュータの仕組みとその歴史について学ぶ
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	情報と社会 1	基本的な情報概念について学ぶ
8	情報と社会 2	情報化について人々の暮らし・情報探索活動との関わりから学ぶ
9	情報検索の基礎	情報検索の基礎的技術について学ぶ
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	データベースの種類と歴史	データベースの種類と歴史について学び、演習を行う
12	リレーショナルデータベース	リレーショナルデータベースの概念と仕組みについて学び、演習を行う
13	電子資料	電子資料の種類と仕組みについて学び、演習を行う。
14	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布する資料を読んで予習し、授業後実際に検索などを行って確認する。

【テキスト（教科書）】
授業内にてレジュメ配布

【参考書】
河島茂生. (2013). 図書館情報技術論―図書館を駆動する情報装置. ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
平常点　30 %　期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
コンピューターが不得意が学生にもわかりやすく教える努力をします。

【学生が準備すべき機器他】
コンピューターとインターネットを使います。

【Outline and objectives】

In order to acquire the fundamental information technology necessary for the library work, we will explain the fundamentals of the computer etc, the library operation system, the database, the search engine, the electronic materials, the Internet, the information sociology theory, etc. and exercise as necessary .

図書館制度・経営論

丹　一信

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館運営の基礎となる図書館の諸制度や、図書館経営の基礎的知識を身につけます。前半は図書館法をはじめとする法律について学習します。後半は現代の図書館が抱える組織の問題、経営上の問題を中心に学びます。
司書として実務に就いた場合に、経験するであろう諸問題に対して、経営の観点から、合理的な判断ができるようになることが目的です。

【到達目標】
現代の図書館の管理及び運営について、経営的視点をもって理解が出来るようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館経営では人事・財務・PR・施設管理など多岐にわたります。
具体的な事例研究を平行して進める事により具体的な理解に努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館をめぐる法体系	1．日本国憲法 2．教育基本法 3．社会教育法 4．図書館法
第 2 回	図書館法逐条解説 (1) 総則	1．図書館法の目的と図書館の定義 2．図書館奉仕 3．司書および司書補 4．設置及び運営上望ましい基準
第 3 回	図書館法逐条解説　公立図書館および私立図書館	1．公立図書館の設置 2．公立図書館の職員 3．図書館協議会 4．入館料など 5．公立図書館の補助 6．私立図書館 7．図書館同種施設
第 4 回	地方自治体の図書館関連条例など	1．公共図書館の法的根拠２．地方自治体における関係法令 3．地方自治体における物品管理（図書館の場合）
第 5 回	他館種の図書館に関する法律など	1．他館種との連携 2．学校図書館 3．国立図書館 4．大学図書館 5．そのほかの図書館
第 6 回	図書館サービス関連法規	1．読書に関連する法律と図書館サービス 2．著作権法と図書館サービス 3．個人情報の保護に関する法律と図書館サービス 4．労働関連法規と図書館サービス 5．公益法人制度改革と図書館サービス
第 7 回	図書館政策（国，地方自治体）	1．国の生涯学習政策 2．国の図書館政策 3．都道府県の図書館政策
第 8 回	公共機関・施設の経営方法と図書館経営	1．経営とは何か 2．公共機関・施設の経営方法 3．公立図書館の経営
第 9 回	図書館の組織・職員 (1)	1．教育委員会 2．組織構成 3．図書館長の役割 4．人事管理
第 10 回	図書館の組織・職員 (2)	1．図書館協議会 2．図書館を支える住民団体 3．図書館ボランティア
第 11 回	図書館の施設・設備	1．図書館建築のあり方 2．図書館建築計画書の実践 3．図書館の設置及び運営上の望ましい基準における施設・設備 4．そのほかの基本的な留意点
第 12 回	図書館のサービス計画と予算の確保	1．図書館のサービス計画 2．予算の確保
第 13 回	図書館業務／サービスの調査と評価	1．図書館業務／サービスの調査 2．図書館業務／サービスの評価
第 14 回	図書館の管理形態の多様化	1．管理運営，業務の外部化 2．業務委託 3．指定管理者制度 4．ＰＦＩ 5．市場化テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習を行い授業に臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】
図書館制度・経営論 / 手嶋孝典編著. – 第 2 版. – 東京：学文社 , 2017.4. – 154p ; 挿図 ; 26cm. – (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 / 二村健シリーズ監修 ; 5)
ISBN 9784762027017

【参考書】
法政大学図書館が提供する新聞記事 DB、及び『図書館雑誌』

【成績評価の方法と基準】
平常点（15 %）、レポート（30 %）、期末試験（55 %）

【学生の意見等からの気づき】
履修者少人数の為、アンケート未実施です。

【学生が準備すべき機器他】
Hulic 及び PC

【その他の重要事項】
多摩キャンパスの『図書館演習』と関連する内容の科目です。

【授業中に求められる学習活動】
A,C,E,F

【Outline and objectives】
Lesson summary: Learn the fundamental knowledge about library system and management.
First half: Learn the law about the library.
Second half: Learn the basic knowledge of the organization and management of the library. I will also learn about problems.
Purpose of the lesson: To be able to make reasonable judgment from the viewpoint of management against various problems experienced in practice.

図書館サービス概論

有山　裕美子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一口に図書館サービスといっても、地域や館種によって様々な違いがある。本授業では、公共図書館を中心に、実際の図書館におけるサービスを例に挙げながら、図書館サービスの種類及び概略について知るとともに、それぞれのサービスのあり方について学ぶ。また、理論と実践を結びつけ、実際にサービス計画を立てることで、図書館というフィールドにおけるサービスのあり方、および課題解決に向けての方策について考察する。

【到達目標】
公共図書館を中心に、そのサービス概要について知るとともに、自身が図書館員となった時に、様々な角度から図書館サービスをとらえ、現状を評価分析し、課題を把握し、改善を提案していくことが出来ることを目標とする。また、自分が描くサービス内容およびその評価を具体化し、それらをわかりやすい形でまとめ、プレゼン等で他者に的確に伝えることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
随時、ワークショップやディスカッションを取り入れるので、各自興味関心を持って積極的に取り組んでほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	本講義の概要、進め方など。
第２回	図書館サービスの意義と役割	図書館サービスの概略を知るとともに、その意義と役割について考える。
第３回	図書館サービス計画の立案と工夫／公共図書館における情報ネットワーク	図書館サービス計画を立案する上での留意点や、工夫することなどについて考える。 公共図書館における役割分担や、情報ネットワーク、広域利用のあり方などについて学ぶ。
第４回	資料や情報を提供するための準備／排架の工夫と館内サイン／ディスプレイ	資料や情報提供する上での、資料の分類や目録、デジタル化などについて学ぶ。 図書館のレイアウトや排架の工夫、館内サインやディスプレイについて考える。
第５回	資料提供に関するサービス	貸出サービスや利用者登録、返却や督促、リクエストサービスなど、資料提供の意義と種類を知る。
第６回	情報提供サービス	レファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、オンライン・データベースを利用した情報検索など、情報サービスの意義と種類を知る。 利用者からの相談や質問回答サービス、インターネット活用等について考える。
第７回	広報活動と利用者サービスの展開・コミュニケーション／図書館利用教育と情報活用能力の育成	広報活動の意義と方法、種類などを知る。 利用者に対する接遇とコミュニケーションについて知る。 図書館利用教育の種類と方法、情報活用能力の育成について考える。
第８回	利用対象者別の図書館サービス①／児童サービス／ YA サービス	児童サービスや YA サービスについて考える。また、児童サービスの実演や、お話会のプログラム作成などを行う。
第９回	利用対象者別の図書館サービス②／高齢者サービス／障害者サービス	高齢者や障害者に対するサービスのあり方について考える。
第 10 回	利用対象者別の図書館サービス③／多文化サービス／外部機関との連携	多文化サービスや、学校図書館支援を始めとした外部機関との連携について考える。
第 11 回	図書館サービスをめぐる著作権問題／利用者とモラル	著作権制度について知るとともに、図書館における著作権の種類と概要について知る。 電子書籍など電子メディアに関する著作権について知る。
第 12 回	図書館サービス計画立案	今までの学びを通して、自分が興味を持った分野について実際に図書館サービスの立案を試みる。
第 13 回	図書館サービス計画立案プレゼンテーション	それぞれが作成した図書館サービスについての発表を行う。発表方法は、受講者数に応じて検討する。
第 14 回	まとめ 図書館サービスにおける課題	学習のまとめと振り返りを行うとともに、図書館サービスにおける課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後半部分で、実際のサービス計画を立案するので、そのことを意識しながら受講するとともに、休みの日を利用して近所の公共図書館等を積極的に活用すること。講義期間中に、実際に利用 (見学）した公共図書館に関わる課題を課す。各回の講義内容についても目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
図書館サービス概論　第２版　金沢みどり　ほか　学文社　2016 年　2160 円　978-4762025822

【参考書】
講義内で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートと期末レポート、レポートを元にしたプレゼンテーションを講義内で課す。これらにおいては、論点をしっかりと押さえた上で、自分なりの分析、および評価、課題提起ができているかどうかを評価する。また、授業内における参加態度、プレゼンテーションやディスカッションに積極的に参加しているか、また、課題に向けての準備がしっかりとできているか、問題意識がしっかりしているか、自ら進んで課題に取り組む姿勢があるか等、総合的に評価する。平常点（課題発表等を含む）60 点、課題・レポート 40 点

【学生の意見等からの気づき】
講義毎にリアクションペーパーを回収、生徒からの疑問や要望に応える。疑問点や、さらに深く学びたいことなど、是非積極的に発信して欲しい。

【Outline and objectives】
Even when the same term of library services are in use, those services differ depending on the areas or the library types. In this class, you will learn about library types and outlines, taking examples from actual services, mainly at public libraries. You will also study the way individual services will unfold. Also, by linking theory and practice and setting up prospective service plans, you will look into ideal services in the field of libraries as well as feasible measures to solve outstanding issues.

児童サービス論

松田　ユリ子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共図書館の専門職として司書が持つべき児童サービスについての知識の習得を目指す。公共図書館における子どものための図書館サービスについて広い視野から理解し、人々の生涯に渡る学習と楽しみのために子どものための図書館サービスが果たすべき役割について考える。

【到達目標】
(1) 図書館サービスの対象者である「子ども」について知る。
(2)「子ども」向けの図書館資料について知る。
(3)「子ども」と資料とを結びつける活動の企画や実施、評価方法について知る。
(4) 地域や学校などとの協働活動について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
乳幼児、児童、ヤングアダルトを対象にした図書館サービスの理念、意義、方法、評価について具体的な事例を通して解説する。受講生には多くの乳幼児、児童、ヤングアダルト向け資料を実際に読み、児童サービスが行われている図書館を実際に訪れることを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション / 児童サービスの理念と歴史	講義のすすめ方を説明する。公共図書館の意義と、そこにおける児童サービスの理念と歴史を概観する。
第２回	子どもの生活と読書	まず、「子ども」とは何か、次に子どもの発達段階と読書の関係について解説する。
第３回	児童サービスの資料１（絵本）	児童サービス資料のうち、絵本を具体的に取り上げ解説する。受講生は、お気に入りの一冊を紹介する。
第４回	児童サービスの資料２（フィクション）	児童サービス資料のうち、創作児童文学、昔話、伝承文学を具体的に取り上げ解説する。受講生は、お気に入りの一冊を紹介する。
第５回	児童サービスの資料３（ノンフィクション／その他の資料）	児童サービス資料のうち、絵本、フィクション以外の資料を具体的に取り上げ解説する。受講生は、お気に入りの一冊を紹介する。
第６回	児童コレクションの形成と管理	児童資料の選択、整理、およびコレクションの評価について解説する。
第７回	児童サービスの諸活動	児童のための情報サービス、フロアワーク、集会行事、展示、PR について解説する。
第８回	児童サービスの運営	児童サービスの計画・実施・評価、施設と設備の運営、著作権について解説する。
第９回	子どもと資料をつなぐ技術	読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトークの技術、お話会の運営について解説する。
第１０回	乳幼児サービス／ヤングアダルトサービス	小学生以下の乳幼児および中学・高校生を対象としてサービスと、そのためのコレクション形成と評価について解説する。
第１１回	子どもの読書活動推進とネットワーク／学習支援と学校図書館	さまざまな自治体の子どもの読書活動推進とネットワークについて、また学校図書館と連携して行う子どもの学習支援について解説する。
第１２回	発表のためのグループワーク	グループに分かれ、各自が調査してきた事例を享有し、どのような観点で問題提起するかを考える。
第１３回	児童図書館、公共図書館の児童コーナーの調査発表	グループごとに、児童図書館、公共図書館の児童コーナーの調査結果を発表し、相互評価する。
第１４回	まとめ	理想の児童サービスはどうあるべきか討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
児童図書館や公共図書館児童コーナーの体験調査
講義で取り上げられた資料を中心に、できるだけ多くの児童サービスのための資料を読むこと

【テキスト（教科書）】
堀川照代編著. 児童サービス論 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ-6). 日本図書館協会, 2014.

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席 10 回以上でかつ、発表を行うこととレポート提出が最低条件である。その上で、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）40 %・発表 20 %・レポート 40 %の総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
例年身近な公共図書館の児童サービスをできる限り現地で見聞きすることを課してきたが、施設によって担当者へのインタヴュー等が難しい場合があった。そこで、学生としてではなく、児童資料を利用する一利用者としての体験を課し、そこから分かったことを持ち寄って議論する方法を取ることとしたい。

【Outline and objectives】
The goal of this course is to provide students with the knowledge required to plan, implement and evaluate a program of public library services for children.

情報サービス論

田村　貴紀

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットが普及し人々の生活に浸透している現在、われわれの社会の中での情報の役割は飛躍的に拡大し、その重要性が格段に増している。一方で、私たちは、インターネットに安易に頼りがちにもなっている。そのため不確実な情報、危険な情報が広がる可能性もある。信頼性が高い、適切な情報を取捨選択することは、かえって手間がかかり知識を要することである。このような状況の中で、図書館司書が提供する情報サービスは、ますます重要なものとなっている。この授業では、図書館が提供する情報サービスの歴史、意義、種類について理解し、情報探索行動についての基本的理解を深める。

【到達目標】
図書館における情報サービスの意義を理解し、インターネットを利用した発信型情報サービスや、レファレンス質問に関する基礎的知識、技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
レジュメによる講義ないしは学生発表によって、情報サービスおよび、情報検索に関する基礎知識を得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報社会と図書館の情報サービス	情報社会における図書館の位置について解説する
第 2 回	図書館における情報サービスの種類	直接サービスと間接サービスなど図書館における情報サービスの種類について解説する
第 3 回	図書館における情報サービスの理論的展開	図書館の機能とレファレンスサービス理論を学ぶ
第 4 回	レファレンスサービスの理論と実践	図書館の教育機能と情報提供機などレファレンスサービスについてより深く学ぶ
第 5 回	レファレンスサービスの実際	レファレンスインタビューについて学ぶ
第 6 回	情報検索サービスの理論と方法	論理演算など検索に必要な知識を学ぶ
第 7 回	各種情報源の特質と利用法 1	書誌や目録などレファレンスツールの種類を学ぶ
第 8 回	各種情報源の特質と利用法 2	専門的な論文，学術・文化に関する記事の検索を学ぶ
第 9 回	各種情報源の特質と利用法 3	事項検索のレファレンスプロセスやネットワーク情報資源の特質について学ぶ
第 10 回	各種情報源の評価と解説	レファレンスブックの評価と解説
第 11 回	各種情報源の組織化	情報サービスにおける情報資源の組織化の意義と役割を学ぶ
第 12 回	発信型情報サービスの意義と方法	ウェブサイトやパスファインダーなど発信型情報サービスの意義と方法を学ぶ
第 13 回	情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識	著作権、肖像権など知的財産権について学ぶ
第 14 回	図書館利用教育と情報リテラシーの育成	公共図書館における情報リテラシーの育成について考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ホームページを使って配布する資料を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
レジュメ配布

【参考書】
二村健・竹之内禎. (2013). 情報サービス論. 東京: 学文社.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験またはレポート 70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
検索技術についてコンピューターが苦手な学生にもわかりやすく教えます。

【学生が準備すべき機器他】
PC、インターネットなど積極的に使用します。

【Outline and objectives】
Currently, the role of information in our society has expanded dramatically, and its importance has increased dramatically as the Internet spreads and permeates people's lives. On the other hand, we are also easily relying on the Internet. Therefore, uncertain information and dangerous information may spread. Choosing the appropriate information with high reliability is rather troublesome and requires knowledge.

情報サービス演習

菅原　真悟

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の 2 点を主に扱う。
1. 情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】
利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようになる。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習する。発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。図書館の情報サービスについて調査し発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第 2 回	図書検索 (1)	法政大学図書館 OPAC。
第 3 回	図書検索 (2)	検索演算子を使った検索演習。
第 4 回	図書検索 (3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第 5 回	情報サービス (1)	情報サービスの現状。
第 6 回	情報サービス (2)	レファレンス事例データベース。
第 7 回	カレント・アウェアネス	カレント・アウェアネス。
第 8 回	論文検索 (1)	CiNii を使った論文検索。
第 9 回	論文検索 (2)	CiNii を使った論文検索。
第 10 回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第 11 回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第 12 回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第 13 回	さまざまなデータベースを使う (1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第 14 回	さまざまなデータベースを使う (2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第 16 回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第 17 回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第 18 回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第 19 回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 20 回	理系論文検索 (1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (2)	医学系論文を探す。
第 22 回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第 23 回	発表会 (1) 情報サービスの現状	図書館の情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第 24 回	CMS 演習 (1)	CMS と図書館サイト構築の現状。
第 25 回	CMS 演習 (2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第 26 回	CMS 演習 (3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第 27 回	CMS 演習 (4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第 28 回	CMS 演習 (5)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。
http://lc.i.hosei.ac.jp/

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】
講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内演習への参加　30%
小レポートの提出（小レポートを数回出す予定）40%
グループまたは個人発表　30%
小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
発信型情報サービスについての理解を深めるために、CMS 演習の時間を増やします。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【授業中に求められる学習活動】
B,F,G,H

【Outline and objectives】
Purpose and Goal
1. Learn how to search information sources (databases).
2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

図書館情報資源概論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館資料の特質と、資料選択、収集、保存、蔵書管理に関わる業務について解説します。また出版流通や著作権、資料収集提供に関わる諸問題についても触れます。

【到達目標】
①図書館における各種資料の特徴を説明できる
②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義を基本とし、必要に応じて受講生の事前調査や討論を行う。また、随時受講生の意見を求めたり、リアクションペーパーの提出などを組み合わせ、受講生の授業内容に対する理解を深めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源	図書館情報資源とは何か？ 図書館におけるその意義を考える
第 2 回	情報資源の歴史	情報の記録化とメディアの歴史について解説する
第 3 回	印刷資料	図書館資料の中で印刷資料について解説する
第 4 回	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料について解説する
第 5 回	電子資料	パッケージ系電子メディアとネットワーク情報資源について解説する
第 6 回	出版流通システム	日本における出版流通の仕組みを解説し、図書館との関わりを考える
第 7 回	図書館の「知的自由」1	図書館の知的自由と図書館資料との関係を収集・提供の視点から考える
第 8 回	図書館の「知的自由」2	具体的な事例を検討して考える
第 9 回	資料の収集と選択 1	資料収集と選択の理論と実践を解説する
第 10 回	資料の収集と選択 2	収集方針の意義を実例から考える
第 11 回	蔵書管理	蔵書管理の意義と仕組みを解説する
第 12 回	資料の組織化	資料の受け入れ、登録、装備、予算管理について解説する
第 13 回	書庫管理	書庫管理の意義、蔵書点検、資料保存について解説する
第 14 回	まとめ	図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。参考図書や実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論　改訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ： 8)、日本図書館協会、2018
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2016

【参考書】
前川恒雄､石井敦共著『新版　図書館の発見』(NHK ブックス)、2006
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点および演習課題を 40%，期末試験を 60%として，以下の点を評価します。
①図書館における各種資料の特徴を説明できる
②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから普段から心がけましょう。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline and objectives】
Learn the characteristics of library materials and the work related to the selection, collection, storage, and collection management of library materials

図書館情報資源特論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館資料について、公立図書館で重視される逐次刊行物、政府刊行物、地域資料を中心に学習します。また資料の収集・提供に関する諸問題について検討します。

【到達目標】
①公共図書館における資料の特徴を説明できる
②各種資料の収集、運用方法を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義を基本とし、受講生の事前調査や討論を行う。また、随時受講生の意見を求めたり、リアクションペーパーの提出などを組み合わせ、受講生の授業内容に対する理解を深めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源	この授業で扱う図書館資料の図書館における意義を考える
第 2 回	図書資料と逐次刊行物	図書資料の特徴を確認する。逐次刊行物の特徴を解説する
第 3 回	逐次刊行物の運用	逐次刊行物の運用を解説する
第 4 回	政府刊行物 1	政府刊行物の特徴と種類を解説する
第 5 回	政府刊行物 2	政府刊行物の運用を解説する
第 6 回	地域資料 1	地域資料の特徴と種類を解説する
第 7 回	地域資料 2	地域資料の運用と組織化を解説する
第 8 回	障がい者サービスに関する資料	障がい者サービスを支える資料や仕組みを解説する
第 9 回	著作権	著作権と図書館のついて解説する
第 10 回	資料保存	資料保存と酸性紙問題について解説する
第 11 回	資料収集に関する諸問題 1	資料収集に関する実際の事例を検討する
第 12 回	資料収集に関する諸問題 2	近年の事例を検討する
第 13 回	資料提供に関する諸問題	資料提供に関する実例を検討する
第 14 回	まとめ	図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。参考図書や実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2016
適宜プリントを配布

【参考書】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ ； 8）、日本図書館協会、2018（図書館情報資源概論で使用したテキスト）
前川恒雄､石井敦共著『新版　図書館の発見』（NHK ブックス）、2006
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点および演習課題を 40%，期末試験を 60%として，以下の点を評価します。
①公共図書館における資料の特徴を説明できる
②各種資料の収集、運用方法を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから普段から心がけましょう。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline and objectives】
Learn the characteristics of Public library materials.

情報資源組織論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館における資料組織（分類や目録）の意義、目的と方法について解説する。到達目標は、資料組織について理解を深めるとともに、図書館司書として必要な知識や思考力を習得することに置く。なお、NDC 分類の暗記や図書館用語（略語）の習熟について小テストを活用して身につけられるよう配慮したい。

【到達目標】
①図書館における資料組織の意味を説明できる
②分類の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
③目録の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
④現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義を基本とし、必要に応じて演習を行う。また、受講生の意見を求めたり、リアクションペーパーの提出などを組み合わせ、受講生の授業内容に対する理解を深めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の意義と理論	資料組織の目的、意義について解説する。
第 2 回	主題分析・主題組織法 1（主題分析の意義）	主題分析・組織法の意義について解説する。
第 3 回	主題分析・主題組織法 2（分類法）	分類の歴史、基本原理、分類法の機能について解説する。
第 4 回	主題分析・主題組織法 3（分類法）	分類法の類型、各種分類法について解説する。また著者記号法など資料排架のための方法についても解説する。
第 5 回	主題分析・主題組織法 4（件名法）	件名法の基本原理、各種件名標目表について解説する。
第 6 回	書誌コントロールと標準化	書誌コントロールの歴史と意義、実際を概観する。
第 7 回	書誌記述法 1（目録法：NCR87 年版を中心に）	目録の目的、機能、形態、記入方式について解説する。
第 8 回	書誌記述法 2（目録規則と標準化）	書誌記述、典拠コントロール、各種目録規則について解説する。
第 9 回	書誌記述法 3（新 NCR を中心に）	FRBR の概念を解説する
第 10 回	書誌記述法 4（新 NCR を中心に）	NCR2018 年版を紹介する
第 11 回	書誌記述法 5	RDA（洋書目録規則）を紹介する
第 12 回	書誌情報システム	MARC、集中目録作業と協働目録作業について解説する。またオンライン閲覧目録（OPAC）についても解説する。
第 13 回	ネットワーク情報資源の組織化	メタデータ、ウェッブの組織化について解説する。
第 14 回	まとめ	情報資源組織の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容に応じて、事前に用語などの調査を指示があります。参考図書を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2016

【参考書】
志保田務編著『情報資源組織論：よりよい情報アクセスを支える技とシステム』（第 2 版），ミネルヴァ書房，2016
柴田正美著『情報資源組織論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III-9），日本図書館協会，2012
竹之内禎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』，ミネルヴァ書房，2016
榎本裕希子，名城邦孝，石井大輔著『情報資源組織論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 3），学文社，2012

【成績評価の方法と基準】
平常点および演習課題を 40%，期末試験を 60%として，以下の点を評価します。
①図書館における資料組織の意味を説明できるか
②分類の基礎知識（用語や概念）を修得しているか
③目録の基礎知識（用語や概念）を修得しているか

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、大学以外の公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから心がけてましょう。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline and objectives】
Explain the significance, purpose and method of the document organization (classification and catalog) in the library. The goal is to understand the document organization and master the knowledge and thinking skills necessary as a library librarian

情報資源組織演習

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、分類や目録作業を通して受講生が主題分析、分類付与の方法、目録作成の技術を習得し、図書館資料の組織化に関わる能力を身につけることを目標とします。具体的には、『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）の構成とその使用方法を学びます。

【到達目標】
① 『日本十進分類法』（NDC）を使用して、各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができる
② 『基本件名標目表』（BSH）を使用して、各主題分野に応じた適切な件名を与えることができる
③ 『日本目録規則』（NCR）に従って、各種情報資源に対する目録データを作成できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は技術の習得を目的とした演習形式で進めます。各回は最初に解説を行い、その後課題を利用して各人の技術習得を目指します。課題については受講生に発表する機会があります。また個別指導も行い、各人のスキルアップを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の意味	組織化の目的と仕組みの概観を解説する
第 2 回	『日本十進分類法』10 版（NDC10）	日本十進分類法の解説
第 3 回	分類規程と主題判断	分類規程と主題判断について解説、演習を行う
第 4 回	NDC10 の一般補助表	形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分の使用法
第 5 回	NDC10 の 0 類 1 類の分類法	NDC10 の 0 類（総記）1 類（哲学）の解説と演習
第 6 回	NDC10 の 2 類の分類法	NDC10 の 2 類（歴史）の解説と演習
第 7 回	NDC10 の 3 類の分類法	NDC10 の 3 類（社会科学）の解説と演習
第 8 回	NDC10 の 4 類の分類法	NDC10 の 4 類（自然科学）の解説と演習
第 9 回	NDC10 の 5 類の分類法	NDC10 の 5 類（技術．工学）の解説と演習
第 10 回	NDC10 の 6 類の分類法	NDC10 の 6 類（産業）の解説と演習
第 11 回	NDC10 の 7 類の分類法	NDC10 の 7 類（芸術）の解説と演習
第 12 回	NDC10 の 8 類の分類法	NDC10 の 8 類（言語）の解説と演習
第 13 回	NDC10 の 9 類の分類法	NDC10 の 9 類（文学）の解説と演習
第 14 回	分類の総合演習	NDC10 を利用して分類付与を行う。
第 15 回	図書記号と別置記号	図書記号と別置記号の解説。日本著者記号表の使い方
第 16 回	『基本件名標目表』（BSH）解説と件名作業	基本件名表目標の構造と件名作業の解説
第 17 回	一般件名規程	一般件名規程の解説と演習
第 18 回	特殊件名規程	特殊件名規程の解説と演習
第 19 回	件名付与演習	BSH を使った件名付与
第 20 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：単行書	『日本目録規則』（NCR87）の基本項目解説と単行書の記述方法
第 21 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：シリーズものの図書	シリーズものの図書の記述方法
第 22 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：分冊もの、構成部分を持つ図書	分冊ものや、構成部分を持つ図書の記述方法
第 23 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：標目	標目の解説とタイトル標目、著者標目の作成方法
第 24 回	『日本目録規則』（NCR）を用いた目録作成：総合演習	応用問題を中心に技術の錬成を目指す
第 25 回	洋書・地図の記述	NCR による洋書の記述，地図資料の記述
第 26 回	録音・映像・電子・継続資料の記述	録音資料の記述，映像資料の記述，電子資料の記述，継続資料の記述
第 27 回	RDA による目録記述	RDA を用いた洋書目録作成の紹介
第 28 回	まとめと展望	まとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習はテキストの該当箇所に目を通す程度で構いませんが、復習は繰り返し行い、習った内容が定着するように心がけてましょう。また、分類は日頃より図書館の書架を利用して親しむ様に心がけるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】
竹之内禎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』，ミネルヴァ書房，2016

【参考書】
小林康隆編著『NDC の手引き：「日本十進分類法」新訂 10 版入門』（JLA 図書館実践シリーズ： 32）、日本図書館協会、2017
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2016

【成績評価の方法と基準】
平常点および演習課題を 40%，期末試験を 60%として，以下の点を評価します。
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができるか
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，各主題分野に応じた適切な件名を与えることができるか
3)『日本目録規則』（NCR）に従って，各種情報資源に対する目録データを作成できるか

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
「情報資源組織論」を履修済みまたは履修中であることを前提として授業を進めます。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E,F,G

【Outline and objectives】
Learn subject analysis, classification method, cataloging skills.

図書館演習

丹　一信

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては「図書館情報学概論Ⅰ」「図書館情報学概論Ⅱ」を前年度までに修得しておくことが極めて望ましい科目です。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。
1. 図書館の調査等を行い、図書館を取り巻く環境や、図書館の現状について、総合的に学びます。
2. パスファインダーなどの作成を通じて、情報リテラシーの向上を目指します。
3. 情報検索のスキルの向上を目指します。
4. 専門図書館・データベース提供事業者の事業やサービスについて深く学ぶ。
5. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。
なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。

【到達目標】
春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定三級合格レベルとすることです。また実用的なパスファインダーを完成させます。
秋学期は、都内や近県の専門図書館を中心に調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について理解を深めます。また図書館の経営評価を実際に行えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーの作成を行います。
秋学期は、実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス 人数超過の場合は、選考を行います。
第 2 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 3 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報：一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 4 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 5 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 6 回	図書館サービスの実践１	情報収集と図書館サービスの実践　1 専門的な情報提供サービスに触れる
第 7 回	図書館サービスの実践２	情報収集と図書館サービスの実践　2 データベース提供事業者との関連について
第 8 回	図書館サービスの実践３	情報収集と図書館サービスの実践　3 利用者の属性やマーケット分析を基にしたサービス
第 9 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表① 相手の立場に立って情報提供する
第 10 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表① 相手の立場に立って情報提供する
第 11 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表② 手に取ってもらうためのデザイン
第 12 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表③ 情報資源の種類と特徴
第 13 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表④ ネットワーク情報資源の特徴
第 14 回	パスファインダー 夏季課題について	パス・ファインダーの製作と発表⑤ 夏季課題への取り組み方について
第 15 回	秋学期ガイダンス レポート論文の書き方	秋学期授業ガイダンス及びレポート論文の書き方について学びます。
第 16 回	事例研究１	特色あるサービスを行っている図書館の事例を記事を参考に議論・検証します（国内の図書館）
第 17 回	事例研究２	特色あるサービスを行っている図書館の事例を記事を参考に議論・検証します（海外の図書館）
第 18 回	事例研究３	企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。
第 19 回	専門図書館について１	専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します
第 20 回	専門図書館について２	調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成
第 21 回	専門図書館について３	実地調査の準備
第 22 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロデジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第 23 回	図書館の評価方法１	図書館の経営評価
第 24 回	図書館の評価方法２	評価方法の一つである ISO 図書館パフォーマンス指標について学びます。
第 25 回	図書館調査	任意選択した図書館への調査を行うための準備
第 26 回	図書館調査	実地調査について
第 27 回	図書館調査	調査結果をまとめる
第 28 回	発表	課題についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。
また第 21 回「図書館総合展」2019 年 11 月 12 日 (火) - 2019 年 11 月 14 日 (木)（パシフィコ横浜）への見学（課題）などが必須となります。
授業時間外の学習活動（主に見学）が重要となります。
また検索技術者検定 3 級受験を推奨します。
平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト. , 樹村房, 2018, ix, 144pp.

【参考書】
(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑. , 日本図書館協会, 2018, 冊 p.
(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
提出物（６０％）および平常点（４０％）　演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】
少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
「図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであることが必須です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。
初回授業時には必ず出席のこと。→ 履修者許可者の選抜を行います。初回授業に不参加の場合は、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）保持者としての実務経験をもとに情報検索演習を行い、情報リテラシー向上に向けた授業を行います。

【【授業中に求められる学習活動】】
F,G,H,I

【Outline and objectives】
The outline of the lesson is as follows.
1. We conduct surveys of libraries etc and learn comprehensively about the current state of the library.
2. We will aim for improvement of information literacy through creation of path finder and others.
3. We aim to improve the skill of information retrieval.
Four.　Learn deeply about the business and services of specialized libraries / database providers.
Five. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

学校図書館メディアの構成

有山　裕美子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の中で、読書支援はもちろん、探究型・課題解決型学習の意義を十分に生かし実践するためには、学校図書館に十分かつ適切なメディアが備わっていること、そしてそれが使いやすく組織化されていることが重要である。本講義では、学校図書館メディアの種類・特性、蔵書構成と選択、組織化について知るとともに、それを効果的に提供する方法について、実践的に学習する。

【到達目標】
学校図書館メディアについて、その基本的な事項を知るとともに、それらを効果的に活用することができる。基本的事項には、メディアの種類と特性を知る、メディアを組織化できる、蔵書構成と選択の方法を知る、メディアを効果的に活用することができる等の項目を含む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校図書館メディアの選書に重点を置きながら、メディアの種類と特性、蔵書構成、蔵書の評価と更新、分類と件名、目録、受入・装備、排架とディスプレイなどについて、総合的に学ぶ。実習や発表等を随時行い、受講生が主体的に学習に参加できるようにする。可能であれば、学校図書館見学および実習を行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、課題、評価の方法など。
第 2 回	学校図書館メディアの構成の視点と流れ	学校図書館の機能を整理すると共に、本講義で学ぶ内容についての概略を押さえる。
第 3 回	学校図書館メディアの種類と特性①	学校図書館にある基本的なメディアの種類を整理し、それぞれの特性を学ぶ。
第 4 回	学校図書館メディアの種類と特性②	学校図書館にある特徴的なメディアについて整理し、それぞれの特性を学ぶ。また、校種による特徴等について学ぶ。
第 5 回	教育改革と学校図書館メディア	現在に至るまでの学校図書館に関わる法規等を整理し、学校教育における図書館のあり方と、蔵書構成について学ぶ。
第 6 回	蔵書構成と選択①	蔵書の意義、収集方針や選定基準、蔵書の評価・更新などについて学ぶ。
第 7 回	蔵書構成と選択②	実際に演習を行いながら、選書についての考えを深める。大学図書館等を利用したワークショップを行う。
第 8 回	学校図書館メディアの分類①	分類の意義、NDC、請求記号等について学び、利用しやすい学校図書館を作る為にはどうすればよいか考える。
第 9 回	学校図書館メディアの分類②	前時の学習を振り返りながら、NDC を使って実際に分類作業を行う。
第 10 回	分類と件名	学校図書館メディアを効率よく排架し、利用しやすくするためにはどうすればよいか、件名の意義、効率的な利用方法についても考える。BSH の使い方を知る。
第 11 回	目録の意義・機能目録規則及び目録作業	目録の意義と機能の他、その種別や構成などの基本的事項を学ぶ。書誌の内容や登録方法などを例示し、その作成方法の他、OPAC の構築と提供方法について学ぶ。
第 12 回	図書館メディアの受入と装備	学校図書館のメディアはどのように受入され、装備されるのか、それぞれのメディアの特徴に触れながら学ぶ。
第 13 回	学校図書館メディアの排架	排架の原則や、館内レイアウト、別置やサインなど、学校図書館メディアの排架について学ぶ。 また、効果的な排架の方法や特集コーナーのつくりかたなどの実習を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	学習全体を通し、学んだことを振り返るとともに、司書教諭としてどのように学校図書館メディアを組織していくかについて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業で学んだことを復習し、次回の講義に備える。適宜プレゼンテーションや課題に向けての準備を行う。指示されたテキストを事前に読むなど。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
『学校図書館・司書教諭講習資料　第 7 版』全国学校図書館協議会・編 2012 年（2310 円)
『図書館学基礎資料　第 12 版』今まどか・著　2015 年　樹村房（1050 円）
『学校図書館メディアの選びかた』(はじめよう学校図書館)　高橋和尚・著　2012 年　全国学校図書館協議会（840 円）
『学校図書館サービス概論』小川三和子・著　青弓社　2018 年（1944 円）
ほか　講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業への参加態度、課題・レポート、試験を総合的に評価する。演習やディスカッション等、積極的に講義に取り組む姿勢は、特に高く評価する。平常点（課題発表等を含む）50 点、課題・レポート 20 点、期末試験 30 点。

【学生の意見等からの気づき】
講義等における学生の意見を尊重しながら、講義を進める。

【授業中に求められる学習活動】
D,E,F,G

【Outline and objectives】
In school education, libraries need to have sufficient and appropriate media and be organized in a user-friendly way so that they can build on the significance of the learning in pursuit of truth and solutions. During this lecture, you will learn about the types and characteristics of school library media, the composition, selection, and grouping of collections, and have a practical study of how to offer such services effectively.

学校経営と学校図書館

松田　ユリ子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】
講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義に加えて、講義の内容を受けての討議やワークショップを行う。リアクションペーパーの提出を、毎時間終了時に求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方／学校組織と学校図書館
第 2 回	学校図書館の歴史と制度（1）	学校図書館法
第 3 回	学校図書館の歴史と制度（2）	学校図書館専門職
第 4 回	学校図書館の機能（1）	リテラシーと学校図書館
第 5 回	学校図書館の機能（2）	情報リテラシーと学校図書
第 6 回	学校図書館の機能（3）	メディア・リテラシーと学校図書館
第 7 回	学校図書館の機能（4）	場所としての学校図書館
第 8 回	学校図書館運営の実際（1）	学校図書館環境の構築
第 9 回	学校図書館運営の実際（2）	学校図書館メディアの提供
第 10 回	学校図書館運営の実際（3）	教育課程と学校図書館
第 11 回	学校図書館運営の実際（4）	学校図書館におけるる諸活動
第 12 回	学校図書館運営の実際（5）	学校図書館における合理的配慮
第 13 回	事例研究	受講生による学校図書館調査報告
第 14 回	まとめ	討議：理想の学校図書館とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の出身校を中心に、実際に学校図書館の調査を行う。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（事例研究１回と最終レポートを含む全３回の予定）： 50 %
授業への積極的な貢献（発表等）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
母校の学校図書館訪問調査を無理なく行えるよう、早めに課題を提示する必要がある。

【Outline and objectives】
Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.
To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

学習指導と学校図書館

松田　ユリ子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えていくかを考える。

【到達目標】
授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義だけでなく、ワーク、発表、討論といった活動も行う。この授業自体が、学校図書館での学習指導の方法を体験する場となるはずである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のすすめ方　/　学校図書館における教科学習体験の共有
第 2 回	学校図書館と学習指導の関わり	戦後の教育政策と学校図書館
第 3 回	情報リテラシー教育	情報リテラシーの概念と情報リテラシー教育
第 4 回	メディア・リテラシー教育	メディア・リテラシーの概念とメディア・リテラシー教育
第 5 回	言語活動	言語活動と学校図書館
第 6 回	探究型学習	探究型学習を支える理論とツール
第 7 回	コラボレーション	探究型学習の支援におけるコラボレーション
第 8 回	学校図書館における授業の実際	学校図書館における授業事例
第 9 回	授業案を考える（1）	教科教諭の視点　司書教諭の視点
第 10 回	授業案を考える（2）	テーマ設定ワークショップ
第 11 回	授業案を考える（3）	パスファインダーづくりワークショップ
第 12 回	発表「こんな授業がやりたい！」1	授業案の発表および討議
第 13 回	ふりかえり	授業案再検討
第 14 回	まとめ	様々なリテラシー教育と学校図書館

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回プリントを配付する。

【参考書】
随時参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表を行うこととレポート提出が最低条件である。その上で、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）・発表・レポートの総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し

【Outline and objectives】
Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.
To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

読書と豊かな人間性

有山　裕美子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における読書活動について、「学び」と「読書」を軸にしながら、読書活動の意義と目的について押さえる。さらに、読書教育の歴史や児童文学の変遷について系統的に学ぶ。また、子どもの発達段階に応じた作品や指導方法を念頭に置きながら、心の教育としての読書、そして教育カリキュラムを支える読書のあり方についても考察する。

【到達目標】
学校図書館における読書活動について、その意義や実施方法等について多方面から考察するとともに、司書教諭としての基礎的、実践的な力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習や発表等を随時行い、受講生が主体的に学習に参加できるようにする。また、授業毎のリアクションペーパー提出の他、学生からの積極的な発信を期待する。可能であれば、実際に読書指導等を行っている場所への見学等を実施したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、課題、評価の方法など。
第 2 回	読書活動の意義と目的	読書とは何か、学校図書館における読書指導の意義とは何かについて考える。
第 3 回	読書教育の歴史	子どもの読書活動の歴史、および子どもの読書活動の法律の変遷について学ぶ。
第 4 回	児童文学の変遷	日本や海外における子どものための作品がどのような変遷をたどってきているかについて学ぶ。読み継がれてきた本、新しい本の動向について理解する。
第 5 回	読書能力の発達	子どもの発達段階に応じた、読書能力の発達と、読書興味の発達について学ぶ。
第 6 回	発達段階に応じた読書の指導計画①	読書の導入的指導について、楽しみや生き方に関わる読書を中心に、発達段階に応じた資料を提示しながら考える。
第 7 回	発達段階に応じた読書の指導計画②	読書の展開的指導について、調べ学習を中心に、教科指導や総合的な学習の時間等における指導に重点を置きながら学ぶ。
第 8 回	読書資料の多様化と種類	子どもを取り巻く読書環境の現状、様々な形態やジャンルの図書について学ぶ。
第 9 回	読書資料の選択	その発達段階に応じて、子どもに提供する本をどのように選んでいくかについて学ぶ。
第 10 回	読書の指導方法①	読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークなど、様々な読書の指導方法について学ぶ。
第 11 回	読書の指導方法②	実際に読書の指導方法についての実演を行う。
第 12 回	読書体験の表現と交流	読書感想文や読書会、ビブリオバトルなど様々な読書体験の方法について学ぶ。
第 13 回	読書活動の展開 家庭や地域、公共図書館との連携	学校図書館活動の中で展開する読書活動について、図書委員会活動や図書館活動などの広報活動を中心に学ぶ。 また、家庭や地域、公共図書館との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について学ぶ。
第 14 回	振り返りとまとめ 学校図書館における読書の現状と今後の課題	これまでの学習内容を振り返り、学校図書館における読書活動及び読書指導についてまとめるとともに、現状や今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業で学んだことを復習し、次回の講義に備える。適宜プレゼンテーションや課題に向けての準備を行う。指示されたテキストを事前に読むなど。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
『アプローチ児童文学』関口安義・編　2008 年　翰林書房（2160 円）
『子どもと絵本』藤本朝巳・著　人文書院　2015 年（2160 円）
『鍛えよう!読むチカラ―学校図書館で育てる 25 の方法』「読むチカラ」プロジェクト・桑田てるみ・編　2012 年（1944 円）
『読書イベント実践事例集: 学校図書館が動かす』牛尾直枝・高桑弥須子・著　少年写真新聞社　2016 年（1944 円）、ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加態度、課題・レポート、試験を総合的に評価する。演習やディスカッション等、積極的に講義に取り組む姿勢は、特に高く評価する。平常点（課題発表等を含む）50 点、課題・レポート 20 点、期末試験 30 点。

【学生の意見等からの気づき】
講義等における学生の意見を尊重しながら、講義を進める。

【授業中に求められる学習活動】
D,E,F,G

【Outline and objectives】
Regarding reading activities at school libraries, our course will focus on their meaning and purpose with a particular emphasis on the learning and reading. Besides, you will systematically learn about the history of reading education and the transition of child literature. While keeping in mind the school work and teaching method corresponding to children's formative stage, you will view reading as an education of the brain and look into the way it can support the curriculum.

情報メディアの活用

菅原　真悟

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
司書教諭資格を取得しようとしている学生を対象に、学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法を学ぶことをめざす。

【到達目標】
学校図書館における様々な情報メディアの特性を理解する。データベースを用いた情報検索スキルを身につける。CMS を用いたウェブサイトからの情報発信について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報メディアに関する知識を習得するだけでなく、様々な情報メディアを実際に活用できるように演習を行い、スキルを身に着けることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業支援システム「HULiC」の説明
第２回	情報メディアの特性	学校図書館と情報メディア
第３回	情報化社会と学校図書館	学校教育の情報化，情報リテラシー，情報化社会の発展
第４回	AI 時代の読解力	AI 時代に求められるリーディングスキル
第５回	コンピュータの構成要素	コンピュータの基礎知識
第６回	電子書籍の基礎	電子書籍の特性について理解する演習
第７回	インターネットの基礎	インターネットの歴史。インターネットで使われる基本的技術（IP アドレス,DNS, パケット通信, など）
第８回	情報検索演習 (1)	新聞データベースを使った情報検索演習
第９回	情報検索演習 (2)	インターネットを使った情報検索演習
第 10 回	情報検索演習 (3)	その他のデータベースを使った情報検索演習
第 11 回	知的財産	著作権をはじめとする知的財産制度
第 12 回	CMS 演習 (1)	学校ホームページからの情報発信
第 13 回	CMS 演習 (2)	CMS（NetCommons）を用いた学校ホームページ作成演習
第 14 回	データベースの構築	データベースの構築方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の資料提示・連絡・課題提出には。図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。
http://lc.i.hosei.ac.jp/

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】
講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）　30%
小レポート（授業中に課題を数回出す予定）　40%
期末レポート　30%
レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【特になし】
特になし

【Outline and objectives】
We learn how to utilize information, media, and technology in school libraries.

PHL200CA

倫理学 A

齋藤　範

サブタイトル：倫理学 I
配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生が主として教職に就くことを前提とし、「自己と他者」をめぐるテーマをケーススタディとして示しながら、倫理学の基礎となる考え方や諸問題について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して概説し、倫理学が何を問題とし、またどのような方法を用いて議論と考察を展開するか、講義する。変化の激しい現代社会においては人々の倫理的判断も多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、自己、他者、文化、宗教、家族、地域社会、国際社会、自然環境にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき社会や民主政治の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	倫理学の基本的構図①	課題と方法について
3	倫理学の基本的構図②	考察と実践について
4	倫理学の基本的構図③	事例と判断について
5	倫理学の基本的構図④	幸福や利益について
6	倫理学の主要な学説①	功利主義の基礎
7	倫理学の主要な学説②	功利主義の展開
8	倫理学の主要な学説③	義務論の基礎
9	倫理学の主要な学説④	義務論の展開
10	現代社会の倫理学①	社会と公共をめぐる諸問題について
11	現代社会の倫理学②	国際社会をめぐる諸問題について
12	現代社会の倫理学③	環境をめぐる諸問題について
13	現代社会の倫理学④	自己と他者をめぐる諸問題について
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
小坂国継・岡部英男（2005）『倫理学概説』ミネルヴァ書房、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、倫理的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

PHL200CA

倫理学Ｂ

齋藤　範

サブタイトル：**倫理学Ⅱ**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生が主として教職に就くことを前提とし、「生命・健康・医療・教育」に関わる問題をテーマとしながら、倫理学的思考や背景となる事実問題について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、生命をめぐる倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して講義する。変化の激しい現代社会において、とりわけ生命をめぐる人生観や死生観は複雑に多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、生命、医療、技術、健康、家族、宗教、そして人生観と死生観にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき人間の生き方と生命の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	生命倫理学の基礎①	課題と方法について
3	生命倫理学の基礎②	考察と実践について
4	死生観をめぐる倫理①	現代の生と死をめぐって
5	死生観をめぐる倫理②	脳死と臓器移植について
6	死生観をめぐる倫理③	尊厳死と安楽死について
7	医療と技術をめぐる倫理①	現代の社会と病をめぐって
8	医療と技術をめぐる倫理②	遺伝子と医療について
9	医療と技術をめぐる倫理③	家族と生殖について
10	生命と誕生と家族をめぐる倫理①	現代社会と出生をめぐって
11	生命と誕生と家族をめぐる倫理②	妊娠中絶について
12	生命と誕生と家族をめぐる倫理③	生命と人格の問題について
13	障害と福祉をめぐる生命の倫理について	障害学の展開
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
今井道夫（2017）『生命倫理学入門［第４版］』産業図書、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、倫理的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

PHL200CA

哲学Ａ

齋藤　範

サブタイトル：**哲学Ⅰ**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生が教職に就くことを前提とし、「世界とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、古代から近世までの哲学と思想文化全般について時代を追って解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。過去のそれぞれ哲学は、一方では各々の時代背景や社会情勢に固有な特殊性を有しつつも、他方ではどんな時代や社会にも通底し、現代においても十分参照する価値のある普遍性を有している。この授業では、そうした特殊性と普遍性の両方を広く視野に入れながら、世界観や人間観に関してこれまでどのような議論や考察がなされ、また現代においてもなされつつあるか、概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	哲学の草創期と初期自然学	古代ギリシアとソクラテス以前の哲学者たち
3	アテナイ古典哲学①	哲学者ソクラテス
4	アテナイ古典哲学②	プラトンの哲学
5	アテナイ古典哲学③	アリストテレスの哲学
6	ヘレニズム期の哲学①	キュニコス派・エピクロス派の哲学
7	ヘレニズム期の哲学②	ストア派・懐疑派の哲学
8	ローマ帝政期の哲学	新プラトン派の哲学
9	ユダヤ・キリスト教の思想	宗教思想と哲学
10	中世の哲学①	教父哲学とスコラ哲学
11	中世の哲学②	神学と哲学・普遍論争
12	ルネサンス期の哲学①	宗教や文化や芸術をめぐる新しい思想
13	ルネサンス期の哲学②	フィチーノやクザーヌスらの新しい人間観と世界観
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布される文献のプリントを読解し、要旨や考えたことをまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
内山勝利・中川純男（1996）『西洋哲学史（古代・中世編）』ミネルヴァ書房
加藤信朗（1996）『ギリシア哲学史』東京大学出版会、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、哲学的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

PHL200CA

哲学Ｂ

齋藤　範

サブタイトル：**哲学Ⅱ**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生が主として教職に就くことを前提とし、「人間（あるいは「私」）とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、近代から現代までの哲学と思想文化全般について解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。近代以降の哲学は、科学を初めとする他学問や社会状況の変化とより緊密に連携・連動し、これらはそのまま現代の人間、社会、世界をめぐる諸問題として、いまなお活発に考察と議論がなされている。この授業では、これらの哲学的問題を現代を生きる自らの課題として引き受け、さらに多様化する現代哲学・現代思想に学びながら、共に考察しつつ講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	近代哲学の課題	哲学と科学
3	大陸合理論の哲学①	デカルト
4	大陸合理論の哲学②	スピノザ、ライプニッツ
5	イギリス経験論の哲学①	ロック、バークリ
6	イギリス経験論の哲学②	ヒューム
7	ドイツ観念論の哲学①	カント
8	ドイツ観念論の哲学②	ヘーゲル
9	生の哲学	ニーチェ
10	実存主義の哲学	キルケゴール、サルトル
11	現代哲学の諸相①	精神分析と言語学
12	現代哲学の諸相②	現象学と身体論
13	現代哲学の諸相③	構造主義以降
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布される文献のプリントを読解し、要旨や考えたことをまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
峰島旭雄（1989）『概説 西洋哲学史』ミネルヴァ書房
山本巍・宮本久雄（1993）『哲学 原典資料集』東京大学出版会、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、哲学的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

HIS200CA

日本史Ａ

岩橋　清美

サブタイトル：**日本史Ⅰ**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史の調べ方、歴史的なものの見方や考え方を養うことをめざす。教科書の記述のもとになった学説を取り上げ、関連史料を読み解きながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。具体的には、先行研究や関連文献・史料を読み解きながら歴史像を構築する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、政治史を中心としながら、国際環境や地理的条件などと関連づけながら講義する。各時代の特色とその変遷の総合的な考察を通じて日本の伝統形成過程を考える。授業は講義を中心に進め、基本的な知識の習得につとめるとともに、近年の日本史研究の成果も紹介し、より専門的な事柄についても学ぶ。史料や文献の調べ方、読み方、および文献・史料に基づいて歴史像を構築する力を養うために、授業中に、適宜、史料を提示し、履修生の意見を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	日本列島への人類の到来	気候変動／旧石器人の生活／縄文人の生活
2	弥生時代から古墳時代へ	弥生時代の始期／水田稲作と金属器／巨大古墳の出現
3	律令国家の成立と展開	乙巳の変と諸政策／白村江の戦い／戸籍と軍団制
4	摂関政治と地方の争乱	対外関係の変化／摂関政治／東国の自立の伝統／西国武士の特色
5	鎌倉幕府と中世国家	東国国家／幕府と朝廷／承久の乱／中世的枠組みの成立
6	モンゴルの襲来	モンゴル帝国の世界への影響／幕府による統合／経緯と影響
7	南北朝の動乱	諸国の反乱／南北朝の分裂／後醍醐天皇の死と人物論
8	織豊政権	検地と刀狩／惣無事令／秀吉の対外政策
9	東アジアと近世社会	幕藩体制／長崎貿易／朝鮮と琉球・蝦夷
10	近世社会の変容	三大改革の捉え方／自然災害と復興／地域社会の自立
11	近代国家の成立	憲法制定と国会開設／日清戦争と三国干渉／日露戦争
12	第一次世界大戦と日本	大正政変／政党政治の成立／ワシントン体制と協調外交
13	満州事変からアジア太平洋戦争へ	満州事変／軍部の台頭／日中戦争／戦局の拡大
14	占領から国際社会への復帰	占領政策／サンフランシスコ平和条約／５５年体制／デタント期の政治と外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成。
②『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
③授業中に提示した参考文献に目を通しておくこと。
④図書館や博物館などを利用して史料を収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成にむけた準備を行う。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』全 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の大きな流れを把握し、知識を深めることを心がけてください。
『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
試験・小レポート・授業への取り組みを総合して評価します。
試験（60 %）
レポート（30 %）
平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
日本史の専門用語や学説について、できるだけ、わかりやすい説明を行います。基本的な文献の探し方、教案（授業案）作成に必要な文献についても紹介します。

【その他の重要事項】
興味・関心をもって授業にのぞんでほしいと思います。
『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）に読んでおくこと。

【Outline and objectives】
We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

HIS200CA

日本史Ｂ

岩橋　清美

サブタイトル：**日本史Ⅱ**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は中学校社会科・高等学校地理歴史の教員を目指すにあたり、必要な専門的知識の習得と諸資料を用いて歴史像を構築する力を養うことを目的とする。あわせて、歴史史的なものの見方や考え方を身につけることを目標とする。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。
先行論文や諸資料などを読み解きながら歴史像を構築できるようになる。
大きな歴史の流れを理解すると同時に、各時代の特質をとらえられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、社会経済史を中心にしながら国際環境や地理的条件などと関連づけながら考える。各時代の特色とその変遷の統合的な考察を通じて、日本の伝統文化の形成過程を学ぶ。教科書記述の基盤となっている学説の紹介、さらには近年の新しい研究成果も取り上げ、一つの歴史事実に対して様々な見方や考え方があることを述べる。また、文献史料だけではなく、絵画や地図・写真などを用いて文化財・文化遺産に関する理解を深める。
授業は基本的には講義形式で行うが、適宜、史料等を提示して、履修生に意見を求める。文献・史料の調べ方・読み方を身につけるため、レポートを作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本文化の黎明とヤマト政権	旧石器の遊動生活／縄文・弥生人の生活と信仰／巨大古墳と副葬品／倭の五王の外交
2	律令国家と天平文化	律令と官僚制／初期荘園／遣唐使と正倉院宝物
3	摂関政治と国風文化	国際関係の変化／国文学の発達／浄土の信仰／荘園の発達
4	鎌倉幕府の成立と展開	武士の生活／中世百姓の地位と権利／定期市と見世棚／鎌倉仏教
5	室町幕府と東アジア	南北朝統一／勘合貿易／婆娑羅の文化／北山文化と東山文化
6	戦国の争乱と天下統一	戦国大名の地域政策／鉄砲と木綿／南蛮貿易／桃山文化
7	江戸幕府の成立と構造	幕府と藩／村と百姓／三都の発展／農業生産の上昇と諸産業の発展
8	江戸幕府の展開と動揺	自然災害と飢饉／藩士と百姓の帰属意識／開国と幕末の動乱
9	明治国家の成立	国民国家の形成／文明開化と殖産興業／方言と標準語
10	戦間期の日本	大戦景気と恐慌／都市と農村／関東大震災／大衆文化
11	満州事変と日中戦争	満州事変の経緯／国際連盟脱退／軍部の台頭
12	第二次世界大戦	戦争拡大の理由／戦局の展開／戦時下の生活と文化／開拓民の生活
13	占領期の日本	民主化政策／日本国憲法の制定／生活の混乱と闇市
14	高度経済成長の時代	朝鮮特需と経済復興／高度経済成長／大衆消費社会の出現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成
②『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
③授業時に提示した参考文献に目を通しておくこと。
④図書館や博物館などを利用して史料の収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成に向けた準備を行う。

【テキスト（教科書）】
授業中にプリントを配布する。

【参考書】
『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』第 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の基礎知識の習得を心がけてください。

【成績評価の方法と基準】
試験・レポート・平常点を総合して評価します。
試験（60 %）レポート（30 %）平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
歴史学の専門用語や研究史等で難解なものがあるので、わかりやすく説明します。
文献や史料の探し方について指導し、教案（授業案）作成にむけた知識とスキルの習得をめざします。

【その他の重要事項】
興味・関心を持って授業に出席してほしいと思います。『高等学校学習指導解説　地理歴史編』（文部科学省）に目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】
We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

HIS200CA

世界史Ａ／外国史Ａ

鈴木　茂

サブタイトル：**外国史Ⅰ**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すか、その方法について、受講者とともに考えます。また、史料（文字史料、映像）を用いた世界史教育の方法について、史料の読解のスキルや映像を利用する際に必要となるメディアリテラシーについて、実践的に学ぶ。今学期は「世界史における隷属」を軸として、古代〜近代までの社会経済の変化、その政治的背景を中心に学びます。

【到達目標】
　この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（1）歴史への関心を引き出す方法、（2）史料を使った歴史教育の方法、（3）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
A. 通常のの授業は次のように行います。（1）授業の冒頭の２０〜３０分を使い、資料読解・購読を行います。一次史料、研究書、教科書など、各回のテーマに即した配布資料に基づき、指定する課題について小レポートをまとめ、授業内に提出してもらいます。（2）講義。前回の課題レポートの講評を含みます。（５０〜６０分）、（3）授業についてのリアクションペーパー作成。
B. 映像鑑賞の回は、授業の終わりにコメントをリアクションペーパーとして提出してもらい、鑑賞した次の回に小レポートを提出してもらいます（８００字程度）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	変わる歴史教育	戦後学制改革と「社会科　世界史」の誕生。新学習指導要領の理念。
第 3 回	史料から考える世界史	史料を使った世界史教育の方法。
第 4 回	世界史における「隷属」	地中海世界、東アジア、南北アメリカの比較
第 5 回	地中海世界の成立と古代の奴隷制度。	共和政ローマにおける奴隷制社会と奴隷反乱。
第 6 回	映画鑑賞	映画「スパルタカス」（1960）鑑賞。
第 7 回	近世のグローバル化	世界システム論の観点から大航海時代の意味を考える。
第 8 回	大西洋世界の成立	ラテンアメリカ、カリブ海地域の植民地化。
第 9 回	南北アメリカの黒人奴隷制度	大西洋奴隷貿易の歴史的意味。
第 10 回	大西洋世界における北アメリカ	「南北戦争・再建」の時代。
第 11 回	映画鑑賞２	マーガレット・ミッチェルと「南部史観」と映画「国民の創生」（1914）鑑賞。
第 12 回	歴史教育とメディアリテラシー	「南北戦争の南部史観」から歴史における記憶を考える
第 13 回	近代アジアをめぐる人の移動	日本からの海外移住と多文化化する現代日本社会
第 14 回	まとめ	隷属から見た世界史からわかること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定する参考文献を読むこと。
高校時代に使用した「世界史」の教科書を通読しておくとよい。

【テキスト（教科書）】
歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。この本の中から３章を選び、小レポートを提出してもらいます。できる限り、自分で購入して、レポートの課題とならなかった章も読んでください。教職希望者は、必ず購入して熟読してください。

【参考書】
各自の高等学校世界史教科書。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』全５冊、新潮文庫、1977 年。
本田創造『新版　アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991 年。
土井正興『新版　スパルタクスの蜂起』青木書店、1988 年。
弓削達『地中海世界とローマ帝国』岩波書店、1977 年。
弓削達『ローマ帝国とキリスト教』河出書房新社、1989 年。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』全５冊、新潮文庫、1977 年。
本田創造『新版　アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991 年。
青木冨貴子『「風とともに去りぬ」のアメリカ』岩波新書、1996 年。
ナタリー・Z・デーヴィス（中條献訳）『歴史叙述としての映画』岩波書店、2007 年。
森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。
津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。
桃木至朗『わかる歴史　面白い歴史　役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。
大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく　歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の授業時に実施する課題　50%（2）教科書の中から指定した３本の論考に関する小レポート 30%（3）授業で鑑賞する映像に関する小レポート 10%、（4）平常点（授業内での発表等、授業への参加度）10%。なお、期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】
高校で「世界史 B」を履修してしていない受講者にもできるだけ配慮して授業を進めます。世界史の基本的な知識が足りないと自覚している履修者は、高校「世界史 A」で使用した教科書を読み直しておくことを勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。
（2）出席を重視します。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。やむを得ない場合は、事後でも構いません。
（3）秋学期開講の「世界史 B」も履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
Since several years ago, Junior and senior high school students' "aversion to the world history" became apparent. In this class, we will think about how to draw out the interest to the world history together. Students will acquire skills of reading and comprehension of historical materials and the media literacy using movies. In this class, we will think about world history focusing various types fo "servitude" in the history.

HIS200CA

世界史Ｂ／外国史Ｂ

鈴木　茂

サブタイトル：**外国史Ⅱ**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すか、その方法について、受講者とともに考えます。また、史料（文字史料、映像）を用いた世界史教育の方法について、史料の読解のスキルや映像を利用する際に必要となるメディアリテラシーについて、実践的に学ぶ。今学期は近代世界の成立を軸として、「地理上の発見」以降のヨーロッパの膨張と世界各地の政治、社会経済の変化、思想・文化の創造を中心に学びます。

【到達目標】
この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（1）歴史への関心を引き出す方法、（2）史料を使った歴史教育の方法、（3）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
A. 通常のの授業は次のように行います。（1）授業の冒頭の２０〜３０分を使い、資料読解・購読を行います。一次史料、研究書、教科書など、各回のテーマに即した配布資料に基づき、指定する課題について小レポートをまとめ、授業内に提出してもらいます。（2）講義。前回の課題レポートの講評を含みます。（５０〜６０分）、（3）授業についてのリアクションペーパー作成。
B. 映像鑑賞の回は、授業の終わりにコメントをリアクションペーパーとして提出してもらい、鑑賞した次の回に小レポートを提出してもらいます（８００字程度）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	「社会化世界史」の誕生と新学習指導要領	高校「世界史A」と「世界史B」の考え方の異同、新学習指導要領の「歴史的思考力」。
第 3 回	「グローバルヒストリー」とは何か	新しい世界史の枠組み。
第 4 回	歴史としての 20 世紀	「短い 20 世紀」と「長い 20 世紀」
第 5 回	映画鑑賞	映画「ここで君たちを待っている」鑑賞。
第 6 回	ルネサンス・宗教改革・地理上の発見１	モア『ユートピア』から「地理上の発見」の影響を考える。
第 7 回	「ルネサンス・宗教改革・地理上の発見２	デフォー、スウィフトの旅から近代世界成立を考える。
第 8 回	産業革命と大西洋交易圏	スミス『国富論』から見える産業革命直前の世界。
第 9 回	近代資本主義とカリブ海	「周辺」の視点から、近代世界を捉え直す。
第 10 回	世界システムと日本	「世界システム」から見る日本近世・近代。
第 11 回	植民地主義の歴史をどう考えるか	フランツ・ファノン『黒い皮膚と白い仮面』を読む。
第 12 回	映画鑑賞	映画「マルチニックの少年」（1983）。
第 13 回	一国史観と世界史	大塚久雄「横倒しの世界史」の問題点。
第 14 回	まとめ	「近代世界」は２１世紀に何を残したか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校で使用した「世界史」教科書をじっくり読んでおくことを勧めます。

【テキスト（教科書）】
歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。教職希望者は必ず自分で購入して全巻読むでください。

【参考書】
各自の高等学校世界史教科書。
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。
大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014 年。
木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書、2014 年。
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。
村井章介『海から見た戦国時代』ちくま新書（1997 年）。
森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。
津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。
桃木至朗『わかる歴史　面白い歴史　役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。
大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく　歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の授業時に実施する課題　50%（2）教科書の中から指定した３本の論考に関する小レポート 30%（3）授業で鑑賞する映像に関する小レポート 10%、（4）平常点（授業内での発表等、授業への参加度）10%。なお、期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】
高校で「世界史 B」を履修していない履修者にも配慮して、授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。
（2）出席を重視します。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。やむを得ない場合は、事後でも構いません。
（3）秋学期開講の「世界史 B」も履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
Since several years ago, Junior and senior high school students' "aversion to the world history" became apparent. In this class, we will think about how to draw out the interest to the world history together. Students will acquire skills of reading and comprehension of historical materials and the media literacy using movies. In this class, we will think about world history focusing on the formation of modern world since "expansion" of Western Europe.

HUG200CA

人文地理学Ⅰ

濱田　博之

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では中学社会および高校地歴の地理的分野を学ぶにあたって基本となる、地図に関する知識や技能の習得を目標とする。

【到達目標】
中学校や高等学校における「地理」は地図の利用が前提とされており、指導にあたっては地図に関する深い造詣が求められる。本講義では読図など地図の利用に関する技能のみならず、地図利用の意義を歴史的な経緯を含め深く学んでいく。さらに統計資料などをもとに地図を作成し地域理解に利用する手法や、情報通信ネットワークや GIS（地理情報システム）等の活用が重視されている現状から、これらの技術的な概説と利用についても触れていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を基本とし、毎回の授業の最後にはまとめとしてリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	中学校・高等学校における地理の指導と地図活用の現状
2	方向感覚と空間認知	人間や他の動物における原始的なナヴィゲーション
3	地図の原理Ⅰ	緯度経度や時差など地球上での位置決定における基礎事項
4	地図の原理Ⅱ	球体である地球を平面で表現するのに用いられる地図投影法
5	地図の歴史Ⅰ	古代ギリシア〜ルネサンス期の主にヨーロッパにおける地球観と地図
6	地図の歴史Ⅱ	仏教の影響を強く受けた室町時代以前の日本における地球観と地図
7	地図の歴史Ⅲ	主に江戸幕府による地図作成事業と庶民の間に流布した地図
8	測量技術の発展Ⅰ	三角測量に代表される近現代の測量とそれにより作成された地図
9	測量技術の発展Ⅱ	航空機や人工衛星を用いることで正確さを増した現代の測量技術
10	地図とコンピュータⅠ	GIS に関する技術的な概説と実生活における利用
11	地図とコンピュータⅡ	主に教育現場における GIS 活用の利点と実践事例
12	国家の領域Ⅰ	地図を用いることで決定される国家の領域と現代の国際関係
13	国家の領域Ⅱ	日本の国土の範囲と周辺に存在する領土問題
14	まとめと試験	これまでの内容の復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は求めない。毎講義ごとに前回の復習を簡単に行うが、理解を深めるためにも、各自が積極的に復習をしてほしい。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
地図の歴史については、織田武雄『地図の歴史 世界編・日本編』講談社現代新書などが参考となる。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー (50%)、学期末の試験 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
教育現場等における地図やコンピュータの活用について、実際の事例を紹介していきたい。

【Outline and objectives】
In this lecture, we learn about the history of map and knowled of the map. It is a basic part in learning geography at junior high school and senior high school. Map is the most basic field of geography and it is a field to be learned whenever teaching geography as faculty.

HUG200CA

人文地理学Ⅱ

松永　和子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学に視点をおきつつ、地理学独自の視点を大切にします。世界的な課題である環境・人口・食糧問題の原因を説き、その解決方法を探ります。身につけた内容を教育実践できることを目標とします。

【到達目標】
地図・統計の読み方、利用についての知識を身につけて、地理学の基本的知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義を中心に、一部映像資料やプリント作業で構成します。
毎回リアクションペーパーの提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代世界と地理	講義の方針と世界的課題を地理学の視点で学ぶ意義について
第 2 回	地球の大きさと地図	経度・緯度、時差などについて メルカトル図法と正距方位図法の違いについて
第 3 回	災害と人間 東日本大震災	震災被害の実態と復興過程について ハザードマップの活用
第 4 回	地域からの断絶	人権侵害である「ハンセン病」を地域からの隔絶という観点で考える
第 5 回	環境問題 世界遺産について	世界自然遺産登録と保護のあり方について考える
第 6 回	沖縄と現代	米軍基地と戦後沖縄の経済について考える
第 7 回	アジアと日本 多文化共生について	地域にねざす在日コリアンとの共生を、大阪から学ぶ
第 8 回	世界のエネルギー政策	エネルギー資源の分布・利用 原発の「安全神話」の背景とこれからのエネルギーについて
第 9 回	領土と国境	国境の島に生きる人々を中心に、領土問題を考える
第 10 回	世界の食糧問題	世界の食糧生産、食料自給率、セカンドハーベストについて
第 11 回	世界の人口問題	世界の人口動態と高齢化社会について
第 12 回	森は海の恋人 漁師とともに山に木を植える	山の植林と海の環境に関わる気仙沼の漁師の取り組みを中心に、林業・水産業の将来を考える
第 13 回	地球温暖化と日本	変化する地球の自然災害と日本の対応について
第 14 回	自然災害と子どもたち まとめと試験	子どもたちの目（作文）を通して過去の災害を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地図帳に常に触れ、判読できる態勢を作る。新聞を読み、社会問題に注目する。

【テキスト（教科書）】
高校地図帳を必ず持参してほしい。毎回テーマに関するプリントを配布します。

【参考書】
『地理授業で使いたい教材資料』（地教研編・清水書院）
『地理を楽しく！ 子どもを引きつける 60 のポイント』（地教研編・高文研）
『第５版　授業のための日本地理』（地教研編・古今書院）
『知るほど面白くなる日本地理』（地教研編・日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験５０％、小テスト・レポート課題・平常点（毎回の出席確認と授業への取組を重視します）５０％
学期末に試験を実施します。教育（介護）実習以外への出席配慮はしません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤとＶＴＲを使用します。

【その他の重要事項】
授業計画はあくまでも予定であり、変更もあります。
教育実習、介護実習の予定を事前に知らせてください。

【Outline and objectives】
While keeping a point of view on social science, we value our own viewpoint of geography. We will explain the causes of environmental problems, global population and food problems, and explore how to solve them. I will aim to be able to teach and practice what I learned.

GEO200CA

自然地理学Ⅰ

原　芳生

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校社会科地理的分野・高等学校地理歴史科の教科内容のうち、自然地理学分野の、気候学的内容についての基礎的な考え方・知識を学ぶ。それらの考え方や知識は教材研究のために必要なものである。中・高の教科書の記述内容や指導要領にも触れながら、気候学の基礎知識をもとに、気候環境（大気現象）と人間生活の関わりについて考察する。

【到達目標】
地理の教科内容の自然地理学的内容のうち地球的規模の環境問題とも関わる「気候学」的項目を主たるテーマとする。自然地理学的な基礎が理解でき、人文地理学的及び地誌学的内容をより一層を理解しやすくなり、地理分野全体の教科内容を深めることができるようになる。中学校や高等学校の地理分野において示されている気候学的教科内容を科学的に理解し、それを活かした教材研究ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義は教科書を用い、その内容の説明と補足を教員が行っていく授業形式となる。毎授業、簡単なリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	地理学、自然地理学とは。自然環境の捉え方。	地理学及び自然地理学の学問体系と社会科教育の中の自然地理学。惑星としての地球でおこる自然現象の捉え方。
2	気候要素と気候因子。	大気現象を自然地理学的に捉える方法。
3	気候表現の方法。	気候データ利用と気候景観の利用。
4	地球のエネルギー収支と大気大循環。	地球的な規模での大気現象とその成因。
5	世界の気候区分①。	中等社会科教育での気候区分。経験的な気候区分の方法。
6	世界の気候区分②。	総観的な気候区分の方法。
7	日本の気候の特徴①。	時間的な変化から見た日本の気候。
8	日本の気候の特徴②。	空間的な特性から見た日本の気候。
9	気象災害。	気象災害の素因と誘因。防災教育の視点。
１０	地域スケールの気候①。	都市気候の成因と特徴。
１１	地域スケールの気候②。	局地循環による局地気象。
１２	気候の変化や変動。	自然史の中での大気の変化。
１３	地球的規模の環境問題。	地球の温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊。
１４	今学期の総復習と試験。	まとめと試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義内容については前の回の終わりに指示するので、その範囲について教科書を読んでくる。わからない語句などは、指示された辞書・事典などの参考文献で、まず自分で調べてみる。質問があればその都度明らかにする。

【テキスト（教科書）】
『自然地理学概論』　高橋日出男・小泉武栄編著，朝倉書店, 2008, ￥3,300。

【参考書】
「気候学入門」　水越允治・山下脩二著，古今書院。
「環境気候学」　吉野正敏・福岡義隆編著，東京大学出版会。
「最新気象百科」　ドナルド・アーレン, 丸善。
「日本の気候景観」増補版　青山高義他編，古今書院。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（80 %）と平常点＜毎回提出してもらう, その日の講義内容に関する質問のリアクションペーパー＞（20 %）を総合して評価する。
＊毎時間出席の確認をするので、各種実習や就職活動等で欠席する場合は、必ず書面で届を提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容は使用テキストの内容以外にも拡げ、興味のある受講生には自分で進んで調べるきっかけにして欲しい。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては多少の授業計画の変更はある。

【Outline and objectives】
This course is prepared for the students who want to get the teacher's license. The lecture aims to understand the field of physical geography which involved in the contents of Geography Field in Social Studies at Junior High School and Geography and History subject at Senior High School in Japan. Especially, in this semester, the contents of the lectures are focused on the field of climatology. By the climatological point of view and knowledges, students will be able to consider about the relationship between natural environment and human activities. In other words, this is the main topic for geographical studies of Social Studies in Japanese High School.

GEO200CA

自然地理学Ⅱ

原　芳生

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校社会科地理的分野・高等学校地歴科地理の教科内容のうち、自然地理学分野の、地形学的内容についての基礎的な考え方・知識を学ぶ。それらの考え方や知識は地理の教材研究のために重要かつ必要なものである。中・高の教科書の記述内容や指導要領にも触れながら、地球表面の形態である地形の成因を考察することによって、環境要素としての地形、生活の舞台である土地の性質を理解し、地震や洪水などの自然災害ともかかわる「地形学」的項目を取り上げ、その理解を深め、人間生活との関わりを考える。

【到達目標】
地理の教科内容のうち、自然地理学的内容のうち地形学的教科内容について理解を深めることを主なテーマとする。自然地理学的基礎が理解できると、人文地理学的・地誌学的内容をより一層理解することができるようになる。中学校社会科地理的分野・高等学校地歴科地理の教科内容として示されている、地形学的内容について理解し、それを活かした教材研究ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義は教科書を使用し、その内容の解説と補足の説明を教員が行っていく講義形式をとる。講義修了後に、毎時間簡単なリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	地理学、自然地理学とは。	地理学及び自然地理学の学問的体系。自然環境の捉え方。社会科教育の中の自然地理・地形の内容。
2	地形の基本的な捉え方①	地形の認識と営力論的な地形の考え方。
3	地形の基本的な捉え方②	自然史から考える地形の発達論的考え方。
4	大地形の形成。	大地形の形成とプレートテクトニクス。
5	日本列島の成り立ち。	日本列島の山と平地の地形発達史。
6	内的営力による地形形成。	火山活動、断層地形、活断層。断層と地震災害。
7	山地と丘陵。	組織地形や斜面形成。
8	気候変化と地形。	気候地形の基本的な考え方。
9	氷河・周氷河地形。	世界各地の氷河・周氷河地形の性質。
10	平野・台地の形成①	沖積平野の地形的特徴。
11	平野・台地の形成②	台地の発達とその特徴の利用。
12	地形の改変。	人工的な地形の改変とその問題点
13	地形災害	地形変化が発生する自然災害。社会科の中での防災教育。
14	本学期の総復習と試験。	まとめと試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義内容については前の回の終わりに指示するので、その範囲について教科書を読んでくる。わからない語句などは、指示された辞書・事典などの参考文献で、まず自分で調べてみる。質問があればその都度明らかにする。

【テキスト（教科書）】
『自然地理学概論』　高橋日出男・小泉武栄編著，朝倉書店, 2008, ￥3,300。

【参考書】
『東京の自然史』　貝塚爽平著，講談社学術文庫
『技術者のための地形学入門』　熊木洋太他編著，山海堂
『日本地誌 1・日本総論 I（自然編）』　中村和郎他編，朝倉書店
『地形がわかるフィールド図鑑』　青木正博他著，誠文堂新光社
『写真と図で見る地形学』　貝塚爽平他編，東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（80 %）と平常点＜毎回提出してもらう，その日の講義内容に関する質問のリアクションペーパー＞（20 %）を総合して評価する。
＊毎時間出席の確認をするので、各種実習や就職活動等で欠席する場合は、必ず書面で届を提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容は使用テキストの内容以外にも拡げ、興味のある受講生には自分で進んで調べるきっかけにして欲しい。

【その他の重要事項】
授業の展開や、社会の現象によっては多少の授業計画の変更はある。

【Outline and objectives】
This course is prepared for the students who want to get the teacher's license. The lecture aims to understand the field of physical geography which involved in the contents of Geography Field in Social Studies at Junior High School and Geography and History subject at Senior High School in Japan. Especially, in this semester, the contents of the lectures are focused on the field of geomorphology, study of landforms. By the geomorphological point of view and knowledges, students will be able to consider about the relationship natural environment and human activities. In other words, this is the main topic for geographical studies of Social Studies in Japanese High School.

GEO200CA

地誌Ⅰ

松永　和子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学に視点をおきつつ、世界の諸地域の課題を地域の目線で理解することを目的とします。国際理解のためにも諸地域の文化、社会、経済、政治状況を多角的に学習します。

【到達目標】
地理学の基礎的知識を学び、地図や統計から地域の特徴を読み取る方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義を中心に、一部映像資料やプリント作業などで構成します。
毎回リアクションペーパーの提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代世界と地理 講義の方針、地域区分	地理学と地理教育、地域区分などについての概論
第 2 回	環境問題Ⅰ 東日本大震災からみる災害・防災・減災	大震災と人間生活との関連について、学校でどのように生徒の命を守るかを考える
第 3 回	環境問題Ⅱ 水俣病 60 年	戦後最大の環境破壊（公害）問題から、産業発展と人権について考える
第 4 回	アフリカ 南北問題について	エチオピアのコーヒー生産と消費の関係から南北問題を考える
第 5 回	アジアⅠ イスラム世界を知る	アラブ地域とイスラム世界を文化圏として捉え、国際理解のあり方を考える
第 6 回	アジアⅡ 中国	経済大国に向かう中国の経済拡大と地域格差について考える
第 7 回	ヨーロッパⅠ ヨーロッパの国々	自然環境、宗教と言語からみるヨーロッパ文化について
第 8 回	ヨーロッパⅡ 拡大するＥＵ	ヨーロッパ統一の歴史と、岐路に立つヨーロッパの現状についてＥＵを軸に考える
第 9 回	アメリカⅠ 多民族国家	移民の拡大で成長してきたアメリカの歴史と「公民権運動」について
第 10 回	アメリカⅡ 農業大国アメリカ	世界をリードするアメリカの農牧業と世界の食糧分配について
第 11 回	ラテンアメリカ 日系移民	熱帯林が減少するブラジルで、環境保全の先頭に立ち持続可能な農業をめざす日系移民について
第 12 回	オセアニア	オーストラリアの資源開発と、日本との関係について
第 13 回	高地・極地	ヒマラヤに住む人々・グリーンランドに住む人々の暮らしについて
第 14 回	沖縄の歴史と現代 まとめと試験	離島の暮らしと歴史（沖縄戦から学ぶ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
都市と農村の地域をテーマとして歩く。地図帳を繰り返して読み、判読できる態勢を作る。地理・歴史・公民など社会科関連の学習会への積極的参加を求める。

【テキスト（教科書）】
高校地図帳を必ず持参すること。毎回テーマに関するプリントを配布します。

【参考書】
『地理授業で使いたい教材資料』（地教研編・清水書院）
『地理を楽しく！ 子どもを引きつける 60 のポイント』（地教研編・高文研）
『第５版　授業のための日本地理』（地教研編・古今書院）
『知るほど面白くなる日本地理』（地教研編・日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験５０％、小テスト・レポート課題・平常点（毎回の出席確認と授業への取組を重視します）５０％
学期末に授業内試験を実施します。教育（介護）実習以外の出席配慮はしません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ・ＶＴＲを使用します。

【その他の重要事項】
授業計画はあくまでも予定であり、変更もあります。
教育実習、介護実習の予定を事前に知らせてください。

【Outline and objectives】
It aims to understand the problems of various regions of the world from the viewpoint of the region while keeping a point of view on social science. In order to understand international understanding, we will learn culture, society, economy and political situation of various regions diversely.

GEO200CA

地誌Ⅱ

濱田　博之

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界各地の生活や文化、自然環境などの多様性についての理解を深める。

【到達目標】
世界各地の文化的・自然的景観についてリアリティをもってその多様性を把握する。さらにはそこで発生している諸課題について、いかなる背景によってもたらされたものかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、授業の前半では対象となる地域・テーマに焦点をあてたドキュメンタリー番組などの映像を紹介し、各地で起こっている問題について具体的なイメージを把握する。その上で後半では、それらの問題が引き起こされた背景について解説する。まとめとして毎回の授業においてリアクションペーパーの提出を求める。
下記の授業計画は、時事的な状況をみて内容を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	中等教育における地誌と映像教材の意義
2	東アジアⅠ	中国における少子高齢化の進展と一人っ子政策の廃止
3	東アジアⅡ	韓国における経済格差の拡大と若者を中心とした失業率の悪化
4	東南アジア	ASEAN の結成とインドシナ半島における経済交流の拡大
5	南アジア	インドにおけるカースト問題の現代的課題
6	西アジア・北アフリカ	サウジアラビアにおけるイスラム文化
7	ヨーロッパⅠ	ギリシアにおける中東からの難民流入と住民対立
8	ヨーロッパⅡ	ドイツにおけるベルリンの壁崩壊と東西冷戦の終結
9	ロシアと周辺諸国	ロシアにおける大統領制の背景
10	北アメリカⅠ	アメリカにおける中南米からの子供移民の増加
11	北アメリカⅡ	アメリカにおける IT 企業の増加と経済格差の拡大
12	南アメリカ	ブラジルにおけるサッカーワールドカップの開催と経済格差の拡大
13	アフリカ	エジプトにおけるナイル川流域大規模開発と遺跡の保護
14	オセアニア	ツバルにおける海面上昇への対応と移民の増加

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に予習は求めないが、普段から新聞やニュースなどに注意し、世界の社会情勢についての認識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
各国・各地域についての詳細については朝倉書店「世界地誌シリーズ」（現在 9 冊刊行）などが参考となる。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー (50%)、学期末のレポート (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
時事的な社会情勢の理解の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。

【Outline and objectives】
We will deepen our understanding of diversity such as life, culture and natural environment around the world.

COT300CB

データベースと情報システム

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 情報システム概観を学ぶとともに，データベースの役割を理解します。例えば図書館システムにおけるデータの流れやデータベースシステムを取り上げます。(2) 正規化を学び，基礎的なリレーショナルデータベースを設計します。そのために正規化を学びます。(3)Access を使用した実習により，データベースを管理・運用する技術を学びます。あわせて SQL 言語を習得します。(4) 実社会において構築されたデータベースの情報が社会に及ぼす影響と課題を理解し，情報セキュリティの確保，利用者の個人認証や暗号化などの技術的内容や情報セキュリティポリシーの策定など情報セキュリティを高めるための様々な方法を習得します。

【到達目標】
情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し，データベースを中心とした情報システムに関する知識を習得します。情報システムの設計・管理分野などの基本知識を習得し，基礎的なデータベースを設計できるようになります。問題解決においてデータベースを活用しているビジネス事例を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パソコン実習室にて，講義のほかに，実際に演習しながらデータベースの設計および構築をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報システム概観	情報システム概観，インフラとして社会におよぼす影響，セキュリティについて
第 2 回	情報システムにおけるデータベースの位置付け	情報システムとデータベースについて，情報の保護について
第 3 回	データベースの基本構成	実際のデータベースの紹介と要求定義から詳細設計について
第 4 回	データベース製品とデータセンター	リレーショナルデータベースの実際の商品とデータセンターの紹介
第 5 回	正規化を学ぶ	統計データとデータファイルの違い，正規化の必要性
第 6 回	正規化の実習	表計算ソフトを用いて正規化手法を実習
第 7 回	リレーショナルデータベースの構成	データベースの設計演習
第 8 回	SQL 言語	SQL 言語とは
第 9 回	SQL 言語の実習	SQL に関する演習問題
第 10 回	データベースファイルの構築	表計算ソフトウェアによるデータファイルの設計とデータ入力
第 11 回	データベースシステムの作成実習，基礎構築	Access の操作方法
第 12 回	データベースシステムの詳細設計	Access による SQL 演習
第 13 回	データベースシステムの構築実習	Access によるデータベースの作成
第 14 回	総合演習問題	振り返りと総合演習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベース製作のためのデータ収集および無駄なデータの削除などを授業時間外に作業します。オフィスソフトの操作方法を事前に確認しておきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】
西村めぐみ，Access ではじめるデータベース入門，技術評論社，2017
奥野幹也，理論から学ぶデータベース実践入門〜リレーショナルモデルによる効率的な SQL，技術評論社，2015

【成績評価の方法と基準】
実習の成果物を 100 点満点 (100%) として，60 点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】
データベース作成の実習制作規模を縮小し，理解度を高めます。

【Outline and objectives】
This course aims at understanding information technology centered around information system. You will acquire basic knowledge such as an outline of an information system, information technology system, and important points on planning, which is essential in this modern society.
• Understand the overview of the information system and the role of the database. For instance, we will discuss data flow and database system in a library system.
• Learn normalization and design a basic relational database.
• Gain skills to manage and operate a database through practices using Access. Learn the SQL language as well.
• Understand the power and problems of database information which is built in real society, and find various means to ensure information security, such as personal authentication, encryption of users, and its formulation.

FRI300CB

情報メディアと画像処理

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 講義により，情報メディア・情報デザイン・表現メディア・情報コンテンツが社会や情報産業に果たしている役割を理解します。(2) 実習により，アナログデータをディジタル化することからネット配信まで情報コンテンツ等に関する知識と技術を習得します。(3) 知的財産権の学習により，著作権，音や映像，形状などが法律により保護されていることを学びます。(4) 実際のビジネス事例を研究します。情報を表現し伝達する業種について，時間を超えて情報を伝達するビジネスモデル，空間を超えて情報を伝達するビジネスモデルを紹介します。

【到達目標】
情報メディアに関する知識と技術を習得し，情報コンテンツの制作・発信を適切に行うために必要となる特性等を理解します。実習により実際に適切かつ効果的に活用できるように，実践的な能力を身に付けます。また，個人情報の保護や著作権に関する内容等，情報コンテンツを取り扱う際に，技術や情報に関する守秘義務や法令遵守などの社会的な責任や知的財産権を習得します。最近の関連する情報産業のビジネスモデルを把握します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パソコン実習室にて講義のほかに，フリーソフトや表計算ソフトなどにより，実際に操作演習しながら画像データの処理をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報メディアの概観	情報メディアが社会や情報産業に果たしている役割
第 2 回	情報メディアの種類	情報メディアのほか，デザイン・表現メディア・コンテンツなど関係する種類と特性
第 3 回	情報メディアのハードウェアに関する基礎知識	情報メディアを活用するためにデータ収集，分析，発信などにおいて基礎的な知識
第 4 回	関連する最近のビジネスモデル	新しい情報産業，インターネットを活用したビジネスモデルの事例紹介
第 5 回	知的財産権	知的財産権について最近のマルチメディアに関する保護の学習と事例紹介
第 6 回	マルチメディアに関する定石	ポスター，新聞，雑誌などのデザイン，Web デザインの定石について
第 7 回	ディジタルデータの取り扱い	音声や映像アナログデータのディジタル化実習
第 8 回	音声編集	音声編集の実習
第 9 回	映像編集	映像編集の実習
第 10 回	音声・映像と Web との連携実習	情報コンテンツの各種アプリケーションソフトウェアの紹介と基本的な操作実習
第 11 回	情報コンテンツの実習	情報コンテンツのアプリケーションソフトウェアによる実習課題の取り組み
第 12 回	ディジタルデータの保存および運用管理について基礎実習	ディジタルデータの配信について実習
第 13 回	演習問題	情報コンテンツに関する資格試験の紹介，サンプル問題の取り組み
第 14 回	情報産業の事例紹介	振り返りと情報産業の事例紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習素材となる写真の準備や編集等については授業時間外に準備します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】
ウェブデザイン技能検定，色彩検定，CG クリエイター検定，マルチメディア検定，ディジタル技術検定など「デザイン・クリエイティブ」に関する資格試験の教材，実施協会・団体のホームページにある練習問題など

【成績評価の方法と基準】
実習および課題の成果物を 100 点満点 (100%) として 60 点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】
Excel の操作に戸惑うことがないように適宜復習をしながら実習を進めます。

【Outline and objectives】
This course aims at understanding information technology centered around information system. You will acquire basic knowledge such as an outline of an information system, information technology system, and important points on planning, which is essential in this modern society.
• Understand the role of information media, information design, expressive media, and information contents in society or information industry in lectures.
• Gain knowledge and skills on information contents from the digitization of analog data to online distribution in practical lessons.
• Understand that laws protect copyright, sounds, images, shapes, and so on by studying intellectual property rights.
• Study actual cases in business. From industries that express and communicate information, we discuss some business models which convey information beyond time and space.

FRI300CB

情報と職業 A

高崎 茂

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々が住んでいる情報社会についてその良い点と問題点を探り、情報社会における倫理観とはどのようなものかを把握して、情報社会で快適に暮らしていくために倫理観がいかに大事であるかを理解して頂くことである。

【到達目標】
本講義の到達目標は情報社会のよい点と問題点を理解すると共に、情報社会のおける倫理観とは何かについての理解を深めることである。特に、様々な情報技術が集約されているインターネットに焦点を当てて、その光の部分や影の部分を理解して、今後益々必要となってくる倫理観を深めてもらうことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現代社会は IT 化 (Information Technology 化) がいたる所に浸透し、それによる恩恵は想像の域を越える領域に到っている。特に、インターネットの普及は目を見張るものがあるが、その利便性 (光の部分) と共に注意しなければならないのが、影の部分 (被害、犯罪等) である。本講義では情報社会におけるインターネットに主に焦点を当て、インターネットの光の部分と共に現実に起こっている影の部分を十分に理解する事で、被害者にならないようにする事や、更に他者への配慮を行い加害者にならないようにする事について学習し、今後の情報社会における情報倫理のあり方についての理解を深める。更に、情報社会を歴史的に見て、今後の情報社会は社会／産業構造をどの様に変革していく可能性を持つかについての理解を深めると共に今後の情報社会に対応する職業観・倫理観を培ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報社会と情報倫理の概要	本講義をどんな内容で実施していくかについて全体概要を説明する。また現在学生諸子が情報社会や情報倫理についてどんな意識を持っているかについて現状を把握していく。
第 2 回	インターネットと情報	インターネットがどのようにして生まれてきたのかについての歴史を述べると共に、インターネットの良い面や問題点について考察する。
第 3 回	情報とその扱われ方、IT 化との関係	情報が歴史的に見てどのように取り扱われて来たかについて述べると共に、現代社会において情報システムがどのように効果的に使われているかについて説明していく。
第 4 回	インターネットと個人情報及び知的財産権との関係	インターネット時代に注意すべき点として個人情報を取り上げると共に知的財産権との関係 (特に侵害／注意点等) について述べていく。
第 5 回	インターネットと生活 (1) －パケット通信方式の活用法	インターネットで使われているパケット通信の原理とはどのようなものかを知ってもらい、従来方式との違いや利点等について説明していく。
第 6 回	インターネットと生活 (2) －インターネットの各種利用形態	インターネットがどの様に我々の生活に入り込んでいるかを各種の利用形態から見ていく。
第 7 回	インターネットとビジネス	インターネットを使ったビジネスとはどのような形態があるかについて具体的にみていく。
第 8 回	情報社会と教育の関係	情報社会で仕事をしていくとはどの様なことであるかについて社会構造と仕事の関係から見ていく。
第 9 回	ネットワーク社会とコミュニケーション	ネットワーク社会でコミュニケーションをとっていくことを心理面から考察すると共に電子メールの効果的な使い方や注意点を見ていく。
第 10 回	インターネットとセキュリティ (1)	インターネットを安全に使えることが大事であるが、その第一歩として現状の問題点 (不正アクセス、ウイルス被害等) を把握し、その対策を理解してもらう。
第 11 回	インターネットとセキュリティ (2)	インターネットの安全性対策として使われている暗号化技術や認証技術とはどんなものかについて理解してもらう。

第 12 回	インターネットと犯罪	インターネット時代の犯罪としてどのようなものがあるかを具体例を通して把握してもらう。
第 13 回	インターネットと情報倫理	インターネットを安全かつ有効に活用して行くためには、これを使用する各個人の倫理意識が極めて大事であることを理解してもらう。
第 14 回	全体のまとめと理解度試験及び解説	今までの授業全体のまとめを行い、重要な部分についての理解度を客観的に確認すると共にその解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の事前学習。提示課題の実施、演習問題の予習・復習等。

【テキスト（教科書）】
講義用資料は講義時に提供する

【参考書】
情報化社会と情報倫理 (辰巳丈夫、三共出版 2004 年)、情報と職業 (近藤勲編著、丸善 2002 年) 他

【成績評価の方法と基準】
講義内容の大事な点について、小テスト（途中段階）や確認テスト（最後）を行う。
※評価基準
平常点（約 25 %）、途中の小テスト（約 25 %）、及び確認テスト（約 50 %）を総合して評価する。
詳細は講義時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
情報処理の重要な技術や倫理について、今まである程度知ってはいるが正しく理解していない学生がそれなりの比率でいると思われるので、基礎的な項目について学生の理解度を授業を通して把握しながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
必要なし。

【Outline and objectives】
The outline and objectives are first to understand good and bad points of the present information technology society, and then to consider various methods for the comfortable living in the information society from the viewpoint of ethinics.

FRI300CB

情報と職業 B

中島　円

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術の進化を背景に、これからの情報化社会を生きるべき膨大な情報に対する的確な選択と判断を行う必要性を理解する。
具体的には、コンピュータやモバイル、情報ネットワーク、ソーシャルメディア等のツールを正しく理解して 適切に活用し、主体的に情報を選択・処理・発信出来る能力を身に付け、情報に関する職業人（IT プロフェッショナル）としての在り方を身に付けていく。

【到達目標】
1．IT が実社会でどのように利用されているのか、また、どのような歴史的背景をもち、どのような企業や研究機関、人物が築いてきたのか、さらには日本のみならずシリコンバレーやインドにおける情報産業の実態について説明することができる。
2．IT や最新のスマートフォン技術に触れ、利用するだけでなく、実社会においてどのようにデザイン、開発、管理されているのか調査・分析し、情報発信することができる。
3．IT 発展のその影と言われるインターネット犯罪やプライバシー保護の問題、情報倫理について意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義の前半は、IT が実社会においてどのように使われるているかについて、多くの実例とともに進める。
講義の後半は、最新のインターネット技術とインターネット犯罪、セキュリティについて議論する。
毎回の講義の流れは、IT トピックス、スライド説明、ディスカッション、DVD 上映、小レポートとなっている。ディスカッションの時間をできるだけ多く取り、活発に意見を出し合えるよう進行していく。
■ IT トピックス： アイスブレイクとして、毎週起きた出来事、IT やエレクトロニクス、経済を中心に、ディスカッションする。
■ スライド説明： 授業計画に掲げたテーマに沿って、スライドで説明する。話が一方的にならないよう、常時対話をしながら進める。
■ DVD 上映： 毎回、IT 企業や情報リテラシーに関する DVD を上映する。
■ 小レポート： 箇条書き、図解、表による整理方法、情報処理試験問題など、毎回講義にあわせて出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報通信技術とは、IT 革命とは、IT が企業や生活に及ぼす影響	・オリエンテーションとして、授業の目標、進め方、評価を伝える。 ・情報通信技術の発展と企業や生活に及ぼす影響に関して学ぶ。
2	情報化社会における企業での職業の種類と役割	国内外の情報通信業界ならびに関連の職種や仕組みについて理解する。
3	政府・地方自治体の情報化 - IT 戦略/電子政府/オープンガバメント -	日本国内を中心とした IT 戦略、例えばマイナンバー等の仕組みや課題について学ぶ。
4	IT 産業構造の変化、ビジネスの変化、企業情報システム部門の構成	通信技術の発展により産業構造やビジネスがどのように変化しているかについて習得する。
5	IT 利活用：マネージメント、流通・生産、金融サービス	情報通信技術の利活用として、企業経営、SCM などの流通・生産、金融について理解する。
6	企業経営を変える最新の IT 手法、企業教育・e ラーニング	企業経営の戦略的ツールである ERP や人材育成に欠かせない e ラーニングについて学ぶ。
7	IT が働く環境に及ぼす影響・課題、コミュニケーションの変化	前半の授業を振り返り、疑問点をクリアにする。また、情報通信技術により働き方の変化について理解する。
8	IT 産業における国際規格とグローバル化	IT と標準の関係とさまざまな国際規格の役割について習得する。
9	インターネットの出現からクラウドコンピューティングまで	インターネットの歴史を振り返り、その基礎的な技術を確認し、今後の発展性について学ぶ。
10	スマートフォン、ソーシャルメディア、IoT（Internet of Things）への展開	スマートフォンやソーシャルメディアの登場と IoT が今後どのように発展していくかについて理解する。

１１	IT ベースの知的財産権、情報化社会における法律	情報処理技術の保護に欠かせない知的財産権について、その役割と課題を習得する。
１２	情報化社会におけるリスクとセキュリティ	情報化社会におけるさまざまなリスク、例えば情報漏洩やネット犯罪などについて理解する。
１３	情報倫理：情報の収集・発信・公開・保護と個人の責任	インターネットの発展にともない、新たな情報倫理や情報モラル等の問題が発生している事実を知り、その対応について学ぶ。
１４	ITSS（IT スキル・スタンダード）、関連資格と資格試験	情報通信技術のスキル体系と関係する資格について知り、キャリアパスについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。投映資料（PowerPoint）を使用し、そのファイルは授業後に公開する。参考書は授業中に示す。

【参考書】
情報教育シリーズ情報と職業（丸善）、IT 活用の基本（日本経済新聞）、情報社会（NTT 出版）、ウェブ進化論（ちくま）、新ソーシャルメディア完全読本（アスキー）、第 4 の産業革命（朝日新聞）、センサーシティー（インプレス R & D）

【成績評価の方法と基準】
小レポート提出、最終レポート、授業への積極性等を見て総合的に評価
評価配分：平常点　40 %　毎回小レポート・最終レポート　60 %

【学生の意見等からの気づき】
以前のアンケートからの気づき：アンケートでは「思考力」「判断力」のポイントが低かったので、なぜこの技術が必要なのか、なぜこのような問題が起きているのか、常に自分で考え判断して発言できように、ディスカッションの時間を多く取る。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器使用 DVD 利用（講師のみ）

【Outline and objectives】
You can understand the necessity of making the appropriate selection and decision over the huge information and profession which should be useful in a future information society, in evolution of information and communication technology.

教職入門

綿貫　公平

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「学校のいま」と、子どもたちとともに生きる「教師の困難と希望」、これからの学校と教育の課題、教職の意義及び教員の役割を学び合い、語り合い、その在り方を問う。
※授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【到達目標】
教職を将来の選択肢の一つとして考え、教職の意義、教員の役割、職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。
今なお「競い合う」学校と教育は強化され、その政策動向は社会的に大きな論争的課題となっている。当時、就学前だった（であろう）学生のみなさんと、可能な限り具体的に「教職」の現状と課題を考えること。みなさん一人ひとりがテーマを持って「教職」に一歩踏み出す、近づいていただくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＊教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を、講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークも加えて、実践的に考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	自己紹介…教職の意義及び教員の役割を考える。４年間の学びをイメージする。
②	教師の一日	教職の困難と希望「学校は、子どもたちは変わったのか」
③	教科指導	ともに学ぶ「勉強は何のために？」
④	生徒指導	ともに学ぶ「うざい、きもい、むかつく、死ね！」N 子との出会い。
⑤	生徒指導	ともに学ぶ「登校拒否• 不登校」の問題から考えること。
⑥	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（１）生徒会活動
⑦	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（２）「道徳」の時間に
⑧	生徒指導	学校給食：「食の教科書としての…」
⑨	特別活動	学校行事をつくる
⑩	特別活動	「部活動」をどうする？！
⑪	進路指導	「キャリア教育」心がけたこと〜つなぎ• つなげる• つながる学校と地域
⑫	進路指導	「キャリア教育」教師としての転換点：同時代• 同世代を生きること
⑬	進路指導	「キャリア教育」文学や映像作品に学ぶ「人間的成長」
⑭	まとめ、期末テスト	今日の学校と教育の課題（今日的課題整理、あらためて教員の職務内容など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分自身の「小学校／中学校／高校時代」を、その時々・事前のアンケート等で思い起こしてほしい。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。内容に即して毎回検討資料を配布する。

【参考書】
全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／２００６）、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）、朝日新聞教育チーム『いま、先生は』（岩波書店／２０１１）、学習指導要領、生徒指導提要（文部科学省※ PDF でダウンロード可能）他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢、授業への貢献（RP 用紙）７０%、「中間レポート」及び講義のまとめとしての「期末考査」３０%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
＊学生の指摘もあり、「グループワーク」の機会を増やし、今日的課題なテーマも取り上げた。引き続き、教職を目指す学生らしい、目的意識的な参加を求めたい。

【学生が準備すべき機器他】
DVD、ビデオ等。

【その他の重要事項】
講師は、２０１２年まで都内公立中学校に３５年間勤務した。定年退職後は、子ども• 若者の支援を主とする NP O法人理事兼若者支援事業スタッフとして、引きこもっていた若者の就労に向けた活動をおこなっている。また、全国進路指導研究会の世話人として、学校現場に資する研究活動を続けている。２００７～２０１４年：法政大学キャリアデザイン学部で兼任講師「キャリア教育／学校論」を担当した。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

綿貫　公平

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「学校のいま」と、子どもたちとともに生きる「教師の困難と希望」、これからの学校と教育の課題、教職の意義及び教員の役割を学び合い、語り合い、その在り方を問う。
※授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【到達目標】
教職を将来の選択肢の一つとして考え、教職の意義、教員の役割、職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。
今なお「競い合う」学校と教育は強化され、その政策動向は社会的に大きな論争的課題となっている。当時、就学前だった（であろう）学生のみなさんと、可能な限り具体的に「教職」の現状と課題を考えること。みなさん一人ひとりがテーマを持って「教職」に一歩踏み出す、近づいていただくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＊教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を、講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークも加えて、実践的に考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	自己紹介…教職の意義及び教員の役割を考える。４年間の学びをイメージする。
②	教師の一日	教職の困難と希望「学校は、子どもたちは変わったのか」
③	教科指導	ともに学ぶ「勉強は何のために？」
④	生徒指導	ともに学ぶ「うざい、きもい、むかつく、死ね！」N 子との出会い。
⑤	生徒指導	ともに学ぶ「登校拒否• 不登校」の問題から考えること。
⑥	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（１）生徒会活動
⑦	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（２）「道徳」の時間に
⑧	生徒指導	学校給食：「食の教科書としての…」
⑨	特別活動	学校行事をつくる
⑩	特別活動	「部活動」をどうする？！
⑪	進路指導	「キャリア教育」心がけたこと～つなぎ• つなげる• つながる学校と地域
⑫	進路指導	「キャリア教育」教師としての転換点：同時代• 同世代を生きること
⑬	進路指導	「キャリア教育」文学や映像作品に学ぶ「人間的成長」
⑭	まとめ、期末テスト	今日の学校と教育の課題（今日的課題整理、あらためて教員の職務内容など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分自身の「小学校／中学校／高校時代」を、その時々・事前のアンケート等で思い起こしてほしい。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。内容に即して毎回検討資料を配布する。

【参考書】
全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／２００６）、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）、朝日新聞教育チーム『いま、先生は』（岩波書店／２０１１）、学習指導要領、生徒指導提要（文部科学省※ PDF でダウンロード可能）他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢、授業への貢献（RP 用紙）７０％、「中間レポート」及び講義のまとめとしての「期末考査」３０％で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
＊学生の指摘もあり、「グループワーク」の機会を増やし、今日的課題なテーマも取り上げた。引き続き、教職を目指す学生らしい、目的意識的な参加を求めたい。

【学生が準備すべき機器他】
DVD、ビデオ等。

【その他の重要事項】
講師は、２０１２年まで都内公立中学校に３５年間勤務した。定年退職後は、子ども• 若者の支援を主とする NP O法人理事兼若者支援事業スタッフとして、引きこもっていた若者の就労に向けた活動をおこなっている。また、全国進路指導研究会の世話人として、学校現場に資する研究活動を続けている。２００７～２０１４年：法政大学キャリアデザイン学部で兼任講師「キャリア教育／学校論」を担当した。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教育原理

御園生　純

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】
教育の理論的・歴史的背景の理解
学校の制度的な位置づけ
教員の職制と専門性の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。　また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し，そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際，とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題 (1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題 (2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階―関係性のなかで学ぶ (1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階―関係性のなかで学ぶ (2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在―おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在―発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う (1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う (2)	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかなる、というものでもありません。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業中に指示するレポートや感想文の総合評価

ちなみに私は出席は取りません。いろいろとご意見はあると思いますが、断固として取る気はありませんので。

【学生の意見等からの気づき】
双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した twitter のハッシュタグ等を利用したリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

乾　彰夫

配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみ、その歴史を理解し考えることである。もう一つは、生徒の学習と生活を枠づけている学校の組織・経営の具体的な諸側面について歴史や国際的視野も含めて理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携、父母参加・生徒参加なども取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
公教育と学校をめぐり現代社会で課題となっている諸課題を切り口にしながら、公教育・学校のしくみや機能、課題を検討していく。基本は講義であるが、数回の授業内ミニレポートやディスカッションをおりまぜる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本科目の目標と概要、進め方などについて
2	公教育のしくみと課題１	教育と現代社会：公教育と平等（教育行財政制度と無償化を含む）
3	公教育のしくみと課題２	教育を保障する原理（１）（憲法・教育基本法と学校制度を含む）
4	公教育のしくみと課題３	教育を保障する原理（２）（教育行政システムの集権・分権を含む）
5	公教育のしくみと課題４	教育を保障する原理（２）（教育行政システムの集権・分権を含む）
6	公教育のしくみと課題５	教育における権利・義務・自由（２）（教員の職務・職能と研修を含む）
7	学校の制度・組織と課題１	学校制度（１）中等教育の単線型・複線型（学校制度体系の類型を含む）
8	学校の制度・組織と課題２	学校制度（２）日本の中等教育のメリット・デメリット
9	学校の制度・組織と課題３	学校組織（１）学校の組織と教職員（学校組織のしくみ・教職員の同僚性・「チーム学校」を含む）
10	学校の制度・組織と課題４	学校組織（２）子どもの人権と安全（子どもの人権と教員の指導文化・学校の危機管理と安全対策を含む）
11	学校の制度・組織と課題５	学校組織（３）学級・ホームルーム・クラス（基礎単位としての学級と経営を含む）
12	学校の制度・組織と課題６	学校組織（４）開かれた学校づくりと教育参加（地域に開かれた学校づくりを含む）
13	学校の制度・組織と課題７	学校組織（５）学校と教員の評価
14	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
開講時に参考文献を配布するほか、授業中にも資料等を配布する。
それらをもとに問題関心を深めるとともに、自分たちがこれまで受けてきた学校教育等について振り返り、捉え直すような作業を進めることを期待する。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない

【参考書】
横井敏郎『教育行政学：子ども・若者の未来を拓く』八千代出版
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の小レポート（３０%）、定期試験 (７０%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内ミニレポートや発言では、毎回、興味深い意見が寄せられる。積極的な意見表明を求めたい。

【その他の重要事項】
ミニレポートの記載内容は、授業内に匿名で紹介することがある。

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育原理

御園生　純

配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】
教育の理論的・歴史的背景の理解
学校の制度的な位置づけ
教員の職制と専門性の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。　また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し，そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際，とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？　その起源と学校〜近代以前	学校の始まり〜ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？　その起源と学校〜近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世〜近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題 (1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題 (2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階―関係性のなかで学ぶ (1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階―関係性のなかで学ぶ (2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在―おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在―発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う (1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う (2)	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかなる、というものでもありません。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業中に指示するレポートや感想文の総合評価

ちなみに私は出席は取りません。いろいろとご意見はあると思いますが、断固として取る気はありませんので。

【学生の意見等からの気づき】
双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した twitter のハッシュタグ等を利用したリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

乾　彰夫

配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみ、その歴史を理解し考えることである。もう一つは、生徒の学習と生活を枠づけている学校の組織・経営の具体的な諸側面について歴史や国際的視野も含めて理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携、父母参加・生徒参加なども取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
公教育と学校をめぐり現代社会で課題となっている諸課題を切り口にしながら、公教育・学校のしくみや機能、課題を検討していく。基本は講義であるが、数回の授業内ミニレポートやディスカッションをおりまぜる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本科目の目標と概要、進め方などについて
2	公教育のしくみと課題１	教育と現代社会：公教育と平等（教育行財政制度と無償化を含む）
3	公教育のしくみと課題２	教育を保障する原理（１）（憲法・教育基本法と学校制度を含む）
4	公教育のしくみと課題３	教育を保障する原理（２）（教育行政システムの集権・分権を含む）
5	公教育のしくみと課題４	教育を保障する原理（２）（教育行政システムの集権・分権を含む）
6	公教育のしくみと課題５	教育における権利・義務・自由（２）（教員の職務・職能と研修を含む）
7	学校の制度・組織と課題１	学校制度（１）中等教育の単線型・複線型（学校制度体系の類型を含む）
8	学校の制度・組織と課題２	学校制度（２）日本の中等教育のメリット・デメリット
9	学校の制度・組織と課題３	学校組織（１）学校の組織と教職員（学校組織のしくみ・教職員の同僚性・「チーム学校」を含む）
10	学校の制度・組織と課題４	学校組織（２）子どもの人権と安全（子どもの人権と教員の指導文化・学校の危機管理と安全対策を含む）
11	学校の制度・組織と課題５	学校組織（３）学級・ホームルーム・クラス（基礎単位としての学級と経営を含む）
12	学校の制度・組織と課題６	学校組織（４）開かれた学校づくりと教育参加（地域に開かれた学校づくりを含む）
13	学校の制度・組織と課題７	学校組織（５）学校と教員の評価
14	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
開講時に参考文献を配布するほか、授業中にも資料等を配布する。
それらをもとに問題関心を深めるとともに、自分たちがこれまで受けてきた学校教育等について振り返り、捉え直すような作業を進めることを期待する。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない

【参考書】
横井敏郎『教育行政学：子ども・若者の未来を拓く』八千代出版
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の小レポート（３０%）、定期試験 (７０%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内ミニレポートや発言では、毎回、興味深い意見が寄せられる。積極的な意見表明を求めたい。

【その他の重要事項】
ミニレポートの記載内容は、授業内に匿名で紹介することがある。

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業の後半はカウンセリングの実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業の後半はカウンセリングの実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育相談

沼田　あや子

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育相談活動の基礎知識、方法、対人援助のための姿勢を学ぶ

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義中心となります。ただし、教育相談においては意見の多様性が大切ですので、ディスカッションもおこないます。学校現場の具体的な事例をもとに、子どもの理解と対処方法を一緒に考えていきましょう。ゲストを招いての講義を１回おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と成績評価方法についての説明。教師がカウンセリングについて学ぶ意味を考える。
2	スクールカウンセリングの実際：問題の見方、対策の立て方	具体的な相談事例をもとに、学校内外との連携について学ぶ。
3	幼児期、児童期の発達	身体、思考、対人関係の発達など、人間の発達の基礎知識について学ぶ。
4	思春期、青年期の発達	思春期、青年期の心理発達の諸理論を学び、現代の若者理解について考える。
5	発達障害とは	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の基礎知識について学ぶ。
6	発達障害をもつ子への支援	発達障害をもつ児童生徒に対して、学校現場での具体的な支援について学ぶ。
7	精神障害と虐待	気分障害、身体表現性障害、統合失調症について学ぶ。また、PTSD の背景にある児童虐待について学ぶ。
8	カウンセリングの諸技法	カウンセリングの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
9	グループカウンセリングの諸技法	グループワークの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
10	学校現場で “問題” とされていること①　〜不登校・いじめ	不登校、いじめの現状と支援について考える。
11	学校現場で “問題” とされていること②　〜非行・問題行動	非行・少年犯罪とはなにか、その背景、支援について考える。
12	若者支援の実際	学校での学習につまずいた若者の多様な背景と支援実践を知る。
13	部活動における支援	スポーツ障害をめぐる心理、身体と心の関係を学び、部活動において児童生徒とどう向き合うか考える。
14	まとめ	自分が教師になったとき、どのような教師でいたいか、児童生徒とどう向き合うかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介する文献、自分の興味のあるトピックに関するニュースや本を積極的に読みましょう。そしてどんなテーマのものでも、自分の感想、自分の考えをもつよう心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考書】
都築学（編）『やさしい心理学』ナカニシヤ出版
文部科学省『学習指導要領』
※その他、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中毎回リアクションペーパーの提出を求めます。成績評価は学期末１回のレポート（60 %）、授業時のリアクションペーパー（40 %）、平常点によりおこないます。レポートとリアクションペーパーは、正解はあるような課題は出しませんが、自分で考えて自分の言葉で書けているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
スクールカウンセリングの現場の話題、ディスカッションを多く取り入れます。

【その他の重要事項】
ゲスト講義の日程調整のため、授業スケジュールが前後する可能性があります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

沼田　あや子

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育相談活動の基礎知識、方法、対人援助のための姿勢を学ぶ

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義中心となります。ただし、教育相談においては意見の多様性が大切ですので、ディスカッションもおこないます。学校現場の具体的な事例をもとに、子どもの理解と対処方法を一緒に考えていきましょう。ゲストを招いての講義を１回おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と成績評価方法についての説明。教師がカウンセリングについて学ぶ意味を考える。
2	スクールカウンセリングの実際：問題の見方、対策の立て方	具体的な相談事例をもとに、学校内外との連携について学ぶ。
3	幼児期、児童期の発達	身体、思考、対人関係の発達など、人間の発達の基礎知識について学ぶ。
4	思春期、青年期の発達	思春期、青年期の心理発達の諸理論を学び、現代の若者理解について考える。
5	発達障害とは	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の基礎知識について学ぶ。
6	発達障害をもつ子への支援	発達障害をもつ児童生徒に対して、学校現場での具体的な支援について学ぶ。
7	精神障害と虐待	気分障害、身体表現性障害、統合失調症について学ぶ。また、PTSD の背景にある児童虐待について学ぶ。
8	カウンセリングの諸技法	カウンセリングの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
9	グループカウンセリングの諸技法	グループワークの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
10	学校現場で “問題” とされていること①　〜不登校・いじめ	不登校、いじめの現状と支援について考える。
11	学校現場で “問題” とされていること②　〜非行・問題行動	非行・少年犯罪とはなにか、その背景、支援について考える。
12	若者支援の実際	学校での学習につまずいた若者の多様な背景と支援実践を知る。
13	部活動における支援	スポーツ障害をめぐる心理、身体と心の関係を学び、部活動において児童生徒とどう向き合うか考える。
14	まとめ	自分が教師になったとき、どのような教師でいたいか、児童生徒とどう向き合うかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介する文献、自分の興味のあるトピックに関するニュースや本を積極的に読みましょう。そしてどんなテーマのものでも、自分の感想、自分の考えをもつよう心がけましょう。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考書】
都築学（編）『やさしい心理学』ナカニシヤ出版
文部科学省『学習指導要領』
※その他、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中毎回リアクションペーパーの提出を求めます。成績評価は学期末１回のレポート（60 %）、授業時のリアクションペーパー（40 %）、平常点によりおこないます。レポートとリアクションペーパーは、正解はあるような課題は出しませんが、自分で考えて自分の言葉で書けているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
スクールカウンセリングの現場の話題、ディスカッションを多く取り入れます。

【その他の重要事項】
ゲスト講義の日程調整のため、授業スケジュールが前後する可能性があります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

社会・地歴科教育法

石出　法太

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着けます。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書と学習方法などを具体的に学びます。授業は講義と質疑、模擬授業、学生による発表です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業予定の確認	1 年間の授業計画の提示やアンケート、現在の社会と教育の問題をとりあげる。
2	社会・地歴科とは何か	社会・地歴科教育の現状と課題をとりあげる。
3	社会科前史	近代教育の出発と国定教科書をとりあげる。
4	戦争と教科書	戦争と教育とのつながりを考える。
5	敗戦と教育	敗戦がもたらしたものと戦後教育の出発点を考える。
6	社会科の成立	教育改革と社会科、学習指導要領の成立を考える。
7	戦後の社会科	日本の教育、社会科の変化を冷戦という視点から考える。
8	社会科のあゆみ	学習指導要領の変遷と教科書の変化をとりあげる。
9	教科書問題	「うれうべき教科書の問題」などを社会の変化から考える。
10	教科書裁判	家永教科書裁判と検定の問題をとりあげる。
11	社会科の課題	80 年代以降の社会科につながる問題をとりあげる。
12	地歴科の課題	今日につながる歴史認識にかかわる問題をとりあげる。
13	授業案の作成	歴史の授業をどうつくっていくのか模擬授業も含め考える。
14	春学期のまとめとレポートの作成	春学期のまとめとしてレポートを授業内で作成、夏季課題の説明をおこなう。
秋学期		
回	テーマ	内容
15	秋学期の授業予定の確認	夏季の課題の提出と後期授業の進め方についてのオリエンテーションをおこなう。
16	現代をどうとらえるか	社会・地歴科の授業につながる現在の世界と日本の出来事について考える。
17	学習指導案と授業	夏季課題の授業案と模擬授業を含め授業の検討を行なう。
18	授業研究　その 1 日本とアジア	指導案の実例と検討を アジアからの視点でおこなう。
19	授業研究　その 2 アジアと世界	指導案の実例と検討を アジアと世界の視点でおこなう。
20	授業研究　その 3 民族問題	指導案の実例と検討を 民族という視点からおこなう。
21	授業研究　その 4 植民地支配	指導案の実例と検討を 植民地支配をあげて世界と日本からおこなう。
22	授業研究　その 5 第一次世界大戦	指導案の事例と検討を 帝国主義という視点から考える。
23	授業研究　その 6 民族運動	指導案の実例と検討を アジアの民族運動という視点からおこなう。
24	授業研究　その 7 ファシズムの問題	指導案の実例と検討を現代的・政治的な視点からおこなう。
25	授業研究　その 8 第二次世界大戦	指導案の実例と検討を戦争の加害と被害という視点からおこなう。
26	実践授業研究　その 1 戦後史の模擬授業	指導案と模擬授業の検討を日本の敗戦と戦後の出発点から考える。
27	実践授業研究　その 2 現代世界の模擬授業	指導案と模擬授業の検討を現在世界でおこっている出来事から考える。
28	秋学期のまとめ	授業のふりかえりとレポートの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてください。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事の一つともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もあります。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
授業中の文献を紹介、プリントを配布します。学習指導要領や中高の教科書は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、毎時間提出の感想・レポート・学習指導案の提出（30 %）、二回の試験（60 %）を総合的に勘案して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】
毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】
授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline and objectives】
While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,
Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies
We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research)
Through returning to learn perspective of improving classes.

社会・公民科教育法

桑山　俊昭

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。
社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	公民科と教師の力量形成
2	公民教育の意義と役割	公民的資質とは何か
3	公民教育の歴史	学習指導要領の変遷
4	学習指導要領と公民科	社会科、地理歴史科、公民科の全体構造
5	公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討 (1)	中学校公民的分野
7	実践事例の検討 (2)	高等学校公民科
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材研究・教材開発の視点・方法	教材とは
10	学習指導の工夫	情報機器及び教材の効果的な活用
11	学習指導の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討 (1)	中学校公民的分野
13	学習指導案の検討 (2)	高等学校公民科
14	前期のまとめ	振り返り

秋学期

回	テーマ	内容
15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
16	実践研究　中学校公民的分野	グループによる提案と質疑
17	実践研究　高等学校「公民」	グループによる提案と質疑
18	実践研究　高等学校「倫理」	グループによる提案と質疑
19	実践研究　高等学校「政治・経済」	グループによる提案と質疑
20	模擬授業　中学校公民的分野	現代社会を捉える視点
21	模擬授業　中学校公民的分野	社会にみられる課題の解決
22	模擬授業　高等学校「公共」	人間と社会のあり方
23	模擬授業　高等学校「公共」	公共的な空間に見られる課題の解決
24	模擬授業　高等学校「倫理」	人間としてのあり方生き方
25	模擬授業　高等学校「倫理」	現代の倫理的諸課題の解決
26	模擬授業　高等学校「政治・経済」	社会のあり方
27	模擬授業　高等学校「政治・経済」	社会に見られる課題の解決
28	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心をもち、報道や論説に注目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領　社会、公民」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
平常点（25 %）、宿題・予習課題（40 %）、夏期・冬期のレポート課題（35 %）によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思います。

情報科教育法

御園生　純

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ⅰ．教科「情報」の概要と意義
Ⅱ．情報活用の実践力・情報の科学的理解
Ⅲ．情報化社会に参画する態度
Ⅳ．教科「情報」における学習指導
Ⅴ．教科「情報」のカリキュラム・指導計画作成
以上 5 つの項目について、以下授業の構成の内容で講義・実習をおこなう。

【到達目標】
実際に高校での授業運営が可能な実践的な教職能力の習得。
授業指導案の作成能力の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。後期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。
また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校教科「情報」設置の歴史的背景と目的	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景について理解する。
第 2 回	高等学校の教育課程の理論と構造	他科目・教育課程全体との関係の構造的理解
第 3 回	高校「情報教員」に必要な資質	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
第 4 回	普通教科「情報」の授業運営	何を習得させ、どのように計測〜評価するのか。
第 5 回	専門教科「情報」の授業運営	普通教科との差異と共有するもの。
第 6 回	情報活用とメディアの種類	あたらしい IT 技術・メディアに取り組むために
第 7 回	デジタル信号とアナログ信号	AD 変換の理論的基礎〜サンプリング・リッピング
第 8 回	2 進数・10 進数・16 進数について	2 進数〜10 進数〜16 進数の変換方法
第 9 回	機械制御とコンピュータ、情報の表し方、論理記号とその機能について	論理回路の基礎
第 10 回	ネットワーク構築の理論	インターネットの基礎と IP アドレスについて
第 11 回	プログラム（ソフトウエア）について	プログラムとは？ 手続き言語とオブジェクト志向
第 12 回	アルゴリズムとプログラミング	論理的な問題解決とは
第 13 回	Web コンピューティング・プログラミング、CG の理論、ネットワークの理論と構築	クラウド・そして web の可能性
第 14 回	システム設計の理論と実際	システムを設計する意味と問題〜何に配慮しなければならないのか？

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	情報社会に参画する態度Ⅰ〜受益者・受信者として。	E コマースなどの消費者としての取り組み
第 16 回	情報社会に参画する態度Ⅱ〜発信者として。	SNS などの発信者としての取り組みと問題。
第 17 回	メディアリテラシー、電子コミュニケーション	SNS などの活用と実際
第 18 回	情報と職業	IT 技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第 19 回	あたらしい労職業専門性と労働のスタイル、電子決済や仮想通貨について	消費者教育としての情報教育
第 20 回	情報教育の理論〜キーコンピテンシーとしての情報教育	あたらしい基礎リテラシーとしての情報教育
第 21 回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第 22 回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第 23 回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第 24 回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第 25 回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第 26 回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する〜偏差値の重要性
第 27 回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口〜なにを習得させるのか？
第 28 回	学習計画の作成	年間指導計画の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特にありませんが、定期的に課題を課します。

【テキスト（教科書）】
高等学校学習指導要領「総則」編
高等学校学習指導要領「情報」編

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
出席及びレポート、指導計画の策定などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく、実際に教壇に立った時に必要となる実践的な授業運営方法について模擬授業などを通じて学びます。

【その他の重要事項】
担当者のメールアドレスと web サイトです。
miso@misonou.com
http://misonou.com

【Outline and objectives】
The aims of this lecture is basic knowledge as a teacher of subject information and acquisition of educational technology.

道徳教育指導論

田中　智輝

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半部では、道徳教育の歴史やその理念、実践に必要となる基礎的な知識や方法を学ぶことを中心とする。後半部では、道徳教育に関する実践力を養うための様々な材料を提供したい。授業の進め方としては、講義形式を中心として行なうが、講義内容についての意見交換の機会を設けることで道徳教育を考える多様な視点を獲得してほしい。また、適宜資料を配布し必要に応じて DVD 等の視聴覚資料も使用することで、道徳性や道徳教育に対するより深い理解を促したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	道徳教育をめぐる近年の動向をふまえつつ、道徳教育について学ぶ意義を考える。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	①学習指導要領における教育の位置づけ ②「教科化」をめぐる論争 ③教科化の要点
3	道徳教育の歴史	①戦前の道徳教育 ②戦後の道徳教育
4	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	①心の教育は必要か ②心の教育は（いかに）可能か
5	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	①生の教育・死の教育 ②いのちの教育の実践事例の検討
6	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	①人権とは何か ②人権教育としての道徳教育
7	道徳性の発達理論	①コールバーグによる道徳性の発達理論 ②ギリガンによる道徳性の発達理論
8	悪の体験と子どもの発達	①悪の体験と自己の変容 ②悪の体験と教育の限界点
9	情報モラル	①情報モラルとは何か ②情報モラルに関する実践事例
10	シティズンシップ教育について	①政治性と道徳性 ②シティズンシップ教育としての道徳教育
11	モラルジレンマ型の道徳教育	①モラルジレンマ型授業の意義 ②モラルジレンマ資料を用いた実践事例の検討
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	①指導案の書き方 ②発問について ③評価の方法について
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	①模擬授業の実施 ②実践例の紹介
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深める。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』ナカニシヤ出版、2016 年。
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？ ―「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター、2011 年。
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業を通じて作成する学習指導案（50 %）と期末に提出するレポート課題（50 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容と関わって取り上げてほしいテーマや社会問題などがあれば担当教員に申し出てほしい。可能なかぎり授業に反映させたいと考えている。

【その他の重要事項】
授業の進め方については、履修者と相談したうえで必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

生徒・進路指導論

乾　彰夫

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1．生徒指導の意義を理解し、集団指導と個別指導それぞれの場面における指導方法の違いと共通点を理解し、適切な指導方法を身につける。
2．生活現実に主体的に働きかけ、他者とともにより良く生きていこうとする意欲と行動力を持った子どもを育てる上で、必要な指導力を養う。
3．進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
集団指導も個別指導も、見通しを持った教師の意図的・計画的な指導が不可欠である。同時に予期せぬトラブル・事件もまた、日常的に生じるが、いずれも教師として欠かせない指導課題である。中・高教師の実践記録をもとに、具体的な事例を検討し、多様な場面に応じた指導方法について知る。実践記録検討においては予めレポート提出を求め、レポートをもとにグループディスカッション等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講座の目標と概要）	学校体験をふりかえる－小・中・高で受けた生徒指導と指導要領 生徒指導提要（文科省）の概要
2	生徒指導の意義と役割 (1)	教育課程・指導要領・生徒指導提要に示された内容を理解する 子ども理解を理解する－発達段階から・対人関係から・生育歴から他
3	生徒指導の意義と役割 (2)	「指導」とは何か 指導と管理－違いとそれぞれの機能を理解する 指導が成立する－指導における科学性 多様な指導場面とその具体的な方法
4	生徒指導における集団指導 (1)	なぜ集団なのか 集団として機能する学級を育てる
5	生徒指導における集団指導 (2)	様々な指導場面－小グループの指導・リーダーとフォロアーの指導及び 話し合いの指導
6	生徒指導における集団指導 (3)	自治的活動の指導－生徒会活動・委員会活動
7	生徒指導における個別指導 (1)	問題行動に学校・学年・担任としてどう取り組むか
8	生徒指導における個別指導 (2)	いじめ問題に学校・学年・担任としてどう取り組むか
9	生徒指導における今日的諸問題への対応	保護者・地域との信頼関係づくり
10	進路指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ・キャリア教育の意義と概要 進路指導の内容と方法
11	進路指導・キャリア教育における集団指導	ガイダンスの役割と方法 職場体験
12	進路指導・キャリア教育における個別指導 (1)	キャリアカウンセリングの意義と内容
13	進路指導・キャリア教育における個別指導 (2)	将来設計とポートフォーリオの活用
14	授業の補足とまとめ	教師の仕事－子どもの成長・発達に重い責任を負う仕事 受講生からの疑問・質問に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
数回のレポート提出（授業支援システムによる）を求める。学校、教育、子育てなどに関するニュースに関心を持ち、自分の意見・見解を持って授業に臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】
指定せず

【参考書】
・「学習指導要領」(中学校・高等学校) < 文部科学省>
・折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（40 %）および試験（60 %）により評価を行う。試験は大問題による論述形式で、授業内容の理解とそれに基づく思考表現について評価する。個々の事項の暗記等を求めるものではないが、内容を各自がどれだけ自分のものとして理解できているかを問うものである。

【学生の意見等からの気づき】
レポートや発言の中には、毎回、みんなで共有すべき重要な内容がある。ときには授業担当者自身もはっと気づかされるような鋭いものもある。積極的な発言を求めたい。

【その他の重要事項】
課題レポート、授業内レポートについては、その一部ないしは全文について匿名化した上で、グループ討論等の資料として印刷・配布することがある。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

乾　彰夫

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1．生徒指導の意義を理解し、集団指導と個別指導それぞれの場面における指導方法の違いと共通点を理解し、適切な指導方法を身につける。
2．生活現実に主体的に働きかけ、他者とともにより良く生きていこうとする意欲と行動力を持った子どもを育てる上で、必要な指導力を養う。
3．進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
集団指導も個別指導も、見通しを持った教師の意図的・計画的な指導が不可欠である。同時に予期せぬトラブル・事件もまた、日常的に生じるが、いずれも教師として欠かせない指導課題である。中・高教師の実践記録をもとに、具体的な事例を検討し、多様な場面に応じた指導方法について知る。実践記録検討においては予めレポート提出を求め、レポートをもとにグループディスカッション等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講座の目標と概要）	学校体験をふりかえる－小・中・高で受けた生徒指導と指導要領 生徒指導提要（文科省）の概要
2	生徒指導の意義と役割 (1)	教育課程・指導要領・生徒指導提要に示された内容を理解する 子ども理解を理解する－発達段階から・対人関係から・生育歴から他
3	生徒指導の意義と役割 (2)	「指導」とは何か 指導と管理－違いとそれぞれの機能を理解する 指導が成立する－指導における科学性 多様な指導場面とその具体的な方法
4	生徒指導における集団指導 (1)	なぜ集団なのか 集団として機能する学級を育てる
5	生徒指導における集団指導 (2)	様々な指導場面－小グループの指導・リーダーとフォロアーの指導及び 話し合いの指導
6	生徒指導における集団指導 (3)	自治的活動の指導－生徒会活動・委員会活動
7	生徒指導における個別指導 (1)	問題行動に学校・学年・担任としてどう取り組むか
8	生徒指導における個別指導 (2)	いじめ問題に学校・学年・担任としてどう取り組むか
9	生徒指導における今日的諸問題への対応	保護者・地域との信頼関係づくり
10	進路指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ・キャリア教育の意義と概要 進路指導の内容と方法
11	進路指導・キャリア教育における集団指導	ガイダンスの役割と方法 職場体験
12	進路指導・キャリア教育における個別指導 (1)	キャリアカウンセリングの意義と内容
13	進路指導・キャリア教育における個別指導 (2)	将来設計とポートフォーリオの活用
14	授業の補足とまとめ	教師の仕事－子どもの成長・発達に重い責任を負う仕事 受講生からの疑問・質問に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
数回のレポート提出（授業支援システムによる）を求める。学校、教育、子育てなどに関するニュースに関心を持ち、自分の意見・見解を持って授業に臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】
指定せず

【参考書】
・「学習指導要領」(中学校・高等学校) < 文部科学省>
・折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（40 %）および試験（60 %）により評価を行う。試験は大問題による論述形式で、授業内容の理解とそれに基づく思考表現について評価する。個々の事項の暗記等を求めるものではないが、内容を各自がどれだけ自分のものとして理解できているかを問うものである。

【学生の意見等からの気づき】
レポートや発言の中には、毎回、みんなで共有すべき重要な内容がある。ときには授業担当者自身もはっと気づかされるような鋭いものもある。積極的な発言を求めたい。

【その他の重要事項】
課題レポート、授業内レポートについては、その一部ないしは全文について匿名化した上で、グループ討論等の資料として印刷・配布することがある。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

特別活動論

桐島　次郎

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編
（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーと参加姿勢（６０％）、課題レポートの内容（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

桐島　次郎

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編
（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーと参加姿勢（６０％）、課題レポートの内容（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

教育課程論

三浦　芳恵

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	実際のカリキュラムづくりを通して、教育課程の構成要素を把握します。
3	教育内容の選択	実際のカリキュラムづくりを通して、「文化からの選択」について検討します。
4	学習指導要領とは	学習指導要領に関して、歴史的にどのような議論があったのかを把握します。
5	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の成立から、1970 年代までの変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	定時制高校の教育実践から、生徒の実態に即した教育課程づくりについて検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりのあり方について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】
指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（30 %）、中間レポート（30 %）、試験（40 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの時間を有意義なものにできるよう、問いの立て方や受講者たちへの接し方を工夫したいと思います。

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

三浦　芳恵

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	実際のカリキュラムづくりを通して、教育課程の構成要素を把握します。
3	教育内容の選択	実際のカリキュラムづくりを通して、「文化からの選択」について検討します。
4	学習指導要領とは	学習指導要領に関して、歴史的にどのような議論があったのかを把握します。
5	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の成立から、1970 年代までの変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	定時制高校の教育実践から、生徒の実態に即した教育課程づくりについて検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりのあり方について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】
指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（30 %）、中間レポート（30 %）、試験（40 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの時間を有意義なものにできるよう、問いの立て方や受講者たちへの接し方を工夫したいと思います。

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育方法論

酒井　英光

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、教育の方法及び技術を学ぶ。(情報機器及び教材の活用を含む)特に、「授業」とは何か、「授業」はいかにあるべきか、「授業」をいかに準備し、実践するかということに重点を置く。

【到達目標】
実際に授業を準備し、イメージ豊かに組み立て・展開する力をつけ、指導案の形で表現し、実際に授業をおこなう能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この講義では、いくつかの授業例を紹介し、分析・評価をしてゆく。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法等についても説明する。板書の要領、プリントの作成などについても話すつもりでいる。授業例としては、受講生の取得希望免許科目と講師の経験的制約のため、公民や地歴、社会科系の授業の紹介が多くなる。情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君には、最低でも一回はそれぞれの教科の授業事例を取りあげるので、許容していただきたい。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定など。時事問題の仮想小試験。
2	授業実践例１と授業論	「中学地理的分野」授業紹介、分析。授業の成立要件。
3	授業実践例２と授業論	「高校世界史」授業紹介、分析。授業のあり方。
4	授業の諸類型とその特徴	授業の諸類型とその特徴。講義型、問答型、討論型など。
5	授業実践例３「情報」科の授業論	「情報」の授業紹介。「情報」科授業の目標。
6	第１回「時事問題小試験」授業評価の視点	第１回「時事問題小試験」実施。世界の動き、授業評価の視点。
7	授業実践例４と「福祉」科の授業論	「福祉」科授業紹介、分析。「福祉」科授業の目標等。
8	授業実践例５と「健康・保健」の授業論	「健康・保健」の授業紹介、分析。「保健」授業の目標等。
9	授業実践例６と「歴史」の授業論	「高校日本史または中学歴史的分野の授業」紹介、分析。
10	授業準備の手順	一時間の授業をどう準備するか、事例をあげて解説。
11	授業構成と指導案の書き方	歴史教育の実践例紹介。授業の構成、指導案の書き方。
12	授業評価の視点その２	模擬授業例の紹介、分析・検討。授業評価について。
13	模擬授業　授業実践と批評　評価の視点	２本の模擬授業を実施。分析の視点について解説。
14	第２回「時事問題小試験」授業評価の視点	第２回「時事問題小試験」。世界の動き、授業評価の視点。大レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞を毎日読み、テレビのニュースなどを視聴すること。

【テキスト（教科書）】
佐藤学『教育の方法』2010 年刊　放送大学叢書　左右社　￥1524(税別)

【参考書】
文部省「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」
『新版　社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著　2009 年　梓出版刊

【成績評価の方法と基準】
「指導案」を主とする最後の大レポートが最も大きな評価の材料となる。「時事問題小テスト」を実施。紹介した授業に関する小レポートも書いていただく。何回かはその授業内に感想・批評を書いていただくこともある。模擬授業を引き受けた場合、相当の得点が与えられる。授業内の感想・批評、小テストの得点、小レポートの内容、模擬授業に対する批評はいずれも評価の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】
以前よりも大幅に課題を縮小した。現在の課題は適量の模様である。

【その他の重要事項】
時事問題の得点が低い場合、他の評価材料にも影響する。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

酒井　英光

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、教育の方法及び技術を学ぶ。(情報機器及び教材の活用を含む)特に、「授業」とは何か、「授業」はいかにあるべきか、「授業」をいかに準備し、実践するかということに重点を置く。

【到達目標】
実際に授業を準備し、イメージ豊かに組み立て・展開する力をつけ、指導案の形で表現し、実際に授業をおこなう能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この講義では、いくつかの授業例を紹介し、分析・評価をしてゆく。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法等についても説明する。板書の要領、プリントの作成などについても話すつもりでいる。授業例としては、受講生の取得希望免許科目と講師の経験的制約のため、公民や地歴、社会科系の授業の紹介が多くなる。情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君には、最低でも一回はそれぞれの教科の授業事例を取りあげるので、許容していただきたい。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定など。時事問題の仮想小試験。
2	授業実践例１と授業論	「中学地理的分野」授業紹介、分析。授業の成立要件。
3	授業実践例２と授業論	「高校世界史」授業紹介、分析。授業のあり方。
4	授業の諸類型とその特徴	授業の諸類型とその特徴。講義型、問答型、討論型など。
5	授業実践例３「情報」科の授業論	「情報」の授業紹介。「情報」科授業の目標。
6	第１回「時事問題小試験」授業評価の視点	第１回「時事問題小試験」実施。世界の動き、授業評価の視点。
7	授業実践例４と「福祉」科の授業論	「福祉」科授業紹介、分析。「福祉」科授業の目標等。
8	授業実践例５と「健康・保健」の授業論	「健康・保健」の授業紹介、分析。「保健」授業の目標等。
9	授業実践例６と「歴史」の授業論	「高校日本史または中学歴史的分野の授業」紹介、分析。
10	授業準備の手順	一時間の授業をどう準備するか、事例をあげて解説。
11	授業構成と指導案の書き方	歴史教育の実践例紹介。授業の構成、指導案の書き方。
12	授業評価の視点その２	模擬授業例の紹介、分析・検討。授業評価について。
13	模擬授業　授業実践と批評　評価の視点	２本の模擬授業を実施。分析の視点について解説。
14	第２回「時事問題小試験」授業評価の視点	第２回「時事問題小試験」。世界の動き、授業評価の視点。大レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞を毎日読み、テレビのニュースなどを視聴すること。

【テキスト（教科書）】
佐藤学『教育の方法』2010 年刊　放送大学叢書　左右社　￥1524(税別)

【参考書】
文部省「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」
『新版　社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著　2009 年　梓出版刊

【成績評価の方法と基準】
「指導案」を主とする最後の大レポートが最も大きな評価の材料となる。「時事問題小テスト」を実施。紹介した授業に関する小レポートも書いていただく。何回かはその授業内に感想・批評を書いていただくこともある。模擬授業を引き受けた場合、相当の得点が与えられる。授業内の感想・批評、小テストの得点、小レポートの内容、模擬授業に対する批評はいずれも評価の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】
以前よりも大幅に課題を縮小した。現在の課題は適量の模様である。

【その他の重要事項】
時事問題の得点が低い場合、他の評価材料にも影響する。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

道徳教育指導論

水野　多満司

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子ども達の置かれた現状を把握し、子どもを理解し、子ども同士、他とどうつながっていけばよいかを考えていきます。「人権を身につける」活動を行います。
「道徳」とは何かを考え、また、道徳は「生き方探し、自立への道」「ステキでつながる」をテーマとします。また、地域についての理解や伝統文化や先人の知恵にも学んでいきます。

【到達目標】
道徳の教科化を踏まえ、子どもへの肯定感、自分への肯定感を養い、子どもを信じ、子どもの考えや言動を受け入れ、「優しく待てる」先生、伝統文化を伝えられる先生を目ざします。子どもの人権を尊重し、子ども心のあり方や理解の方法、手段を学び、様々な構想ができることがその到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
子どもの現状を踏まえ（様々な事例を紹介します）受講生の体験や思いを取り上げ、子ども達の心の成長、自立をどう応援するか、考えます。また、道徳の指導案の例や実践の紹介を通して授業作りをを検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	道徳とは何か、生き方を考える 授業のすすめ方
2	テーマ設定	心の発達と人権・環境・平和のテーマを提示し、自身の重点テーマ選ぶ
3	道徳とは何か１	教科化を踏まえて、子供理解、ステキ探しの実践から考える
4	道徳とは何か２	命の大切さ、自分は大事・他人も大切の感覚、人権感覚についてかんがえる
5	指導案の研究１	指導案の作り方、及び実践の検討
6	子ども理解１	環境と子どもの関係の事例検討
7	子ども理解２	子どもの純粋さを信じ、子どもの伸ばし方を考える
8	子ども集団を作る 道徳実践１	ステキでつながる人間関係の構築を考える
9	子どもの活動から１ 道徳実践２	人権の調べ学習と意見表明を学ぶ
10	子どもの活動から２ 道徳実践３	人権・環境の意見表明から学ぶ
11	子どもの活動から３ 道徳実践４	人権・環境・平和の意見表明から考える
12	表現すること 子どもの心を知る	意見表明の「場」を作る構想を考える
13	道徳指導案の研究２ 指導案２本を示し、比較検討する	共感を広げる授業の作り方を検討する 子どの活動を生かした指導案の研究１・２
14	まとめ、論述試験	命。人権・環境・平和の大切さのまとめ 人権・環境・平和をテーマに論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
道徳のあり方や人権・環境・平和を日常のテーマとし、各種のニュースに関心を持ち、自分としての意見をもてるようにしましょう。また、自分が設定したテーマに関して、調べたり読書しておくことをお願いします。

【テキスト（教科書）】
実践で用いた「学年だより」、講義のためのレジュメ・プリントなどを用います。

【参考書】
特に指定しませんが、人権問題、環境問題、平和について道徳的観点から常に関心を持って、文献・ニュース等に触れてください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・発言・提出物）と論文試験（自己テーマの意見表明）を評価の対象とします。
※提出物 → 毎回、講義の内容についての、当日レポート（質問・感想・意見・要望など、どれか一つ以上）を書いて提出します。

【学生の意見等からの気づき】
講義ごとの、学生の意見・感想・質問を反映し、交流、参加の講義をさらに目指します。前授業の振り返りと本時とのつながりが大切なことを再度確認したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
この授業は春期のみです。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

教職実践演習（中・高）

御園生　純

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、以下のいくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、４年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化、
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、
④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定、
⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上、
の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、最終報告 (プリゼンテーションや報告) の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と性格について	本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート (1500 字程度) の提出（あるいはその指示）。 ②本「演習」の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告」「後輩に残す教科教材の作成」「教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	①各自のふりかえり交流（１回目） ②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
3	各自のふりかえり交流（２回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている 3 年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3 年生との応答をおこなう。(グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする)
5	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案 ②　期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育」「生徒指導」「学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
6	グループディスカッション①	グループディスカッションに向けた準備作業。
7	グループディスカッション②	「教科教育」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
8	グループディスカッション③	「生徒指導」「学校・学級運営」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
9	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。以下第 13 回、14 回も同様。
13	期末課題発表会②	期末課題発表会②
14	期末課題発表会③	期末課題発表会③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーション時に提示した課題への取り組み
模擬授業の準備

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しない

【参考書】
初回に提示する

【成績評価の方法と基準】
教職総合演習は通常の評価をおこなう。実習教科ですので、評価にあたっては、出席、授業への積極的参加・発言、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われる。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業への相互の講評を今後も大事にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
この授業では、授業支援システムの利用を予定している。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

高橋　繁

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、４年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定
⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、期末課題の発表会などによって構成されます。授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	①本講義の概要説明。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポートの提出の指示。②本演習の期末課題に関する説明。
第２回	各自のふりかえり交流	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第３回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	３年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、応答をおこなう。
第４回	「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐるグループディスカッションのテーマの起案。	テーマ設定にあたっては、「教科教育」「生徒指導」「学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第５回	グループディスカッション準備	ディスカッションに向けた準備。
第６回	グループディスカッション①	「教科教育」を通した専門職性をめぐる討論
第７回	グループディスカッション②	「生徒指導」「学校・学級運営」を通した専門職性をめぐる討論
第８回	期末課題製作作業①	第 11 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこなう。
第９回	期末課題製作作業②	第 12 回発表予定者は中間報告
第 10 回	期末課題製作作業③	第 13 回発表予定者は中間報告
第 11 回	期末課題発表会①	期末課題の発表会。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
第 12 回	期末課題発表会②	第 11 回と同様
第 13 回	期末課題発表会③	第 11 回と同様
第 14 回	まとめ	これまでの授業をふりかえるとともに、課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・７月にオリエンテーションを行いますので必ず参加下さい。
・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
・教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に数回参加して、模範授業の実施、後輩の模擬授業づくりへのサポートをおこないます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
・必要文献、資料などを適宜指定、紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】
①期末課題とその発表・報告に対する評価②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションなどを通して、目標がより深化するよう努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
この授業では授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

小嶋　常喜

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、いくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、４年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定
⑤コミュニケーションと発表・プリゼンテーションの技能向上
の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、最終報告(プリゼンテーションや報告) の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	①本講義の目標と性格について――本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認②本「演習」の期末課題に関する説明	「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート(1500 字程度) の提出（あるいはその指示）。課題は「教育関係者のヒアリング報告」「後輩に残す教科教材の作成」「教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
第 2 回	①各自のふりかえり交流（１回目）②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第 3 回	各自のふりかえり交流（２回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
第 4 回	次年度実習予定者へのプリゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている 3 年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3 年生との応答をおこなう。(グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする)
第 5 回	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案。②期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育」「生徒指導」「学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第 6 回	グループディスカッションに向けた準備作業	準備作業。
第 7 回	グループディスカッション①	「教科教育」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論。
第 8 回	グループディスカッション②	「生徒指導」「学校・学級運営」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論。
第 9 回	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
第 10 回	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
第 11 回	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
第 12 回	期末課題発表会①	完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。以下第 13 回、14 回も同様。
第 13 回	期末課題発表会②	第 12 回と同様。
第 14 回	期末課題発表会③　まとめ､期末課題の提出	第 12 回と同様。　まとめと課題提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・７月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります。

【テキスト（教科書）】
・特に指定しません。毎回必要文献、資料など指定、あるいは配布します。

【参考書】
・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
・教育実践記録（講義の最初に指示する）
・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】
特に期末テストは行わない。期末課題の提出をもって、終了とする。①期末課題とその発表・報告に対する評価、②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況、を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。

【学生の意見等からの気づき】
あり

【学生が準備すべき機器他】
あり

【その他の重要事項】
上記以外に別途、次年度教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に各自数回参加して､模範授業の実施、ないしは後輩の模擬授業づくりへの指導・サポートをおこなう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、将来の教育専門職に相応しい知識、技能などの理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
学習の目標は以下の通りです。
①学校現場における授業づくりの実践力量の深化、
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
③生徒理解や学級・学校運営に関する実践力量の深化、
④教育職に関する理解の深化と各自の目標の設定、
⑤教育専門職としての他者との関わり・自己表現の深化、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同学習、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、期末報告の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　本講義の目的と位置づけ	①本講義の性格、課題、到達目標の確認。②本演習の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告」「後輩に残す教科教材の作成」「教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	教職課程のふりかえり交流（1回目）	これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、報告と討論を行う。
3	教職課程のふりかえり交流（2回目）	前回の報告と討論を踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	次年度教育実習予定者に対して、教育実習への準備の在り方、授業づくりのあり方、実習授業の展開などを伝える。
5	グループディスカッションに向けた準備作業。	これからの教職実践の問い（授業づくり、生徒理解）を出し合い、グループディスカッションのテーマを決め、準備をおこなう。
6	グループディスカッション①	「授業づくり」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
7	グループディスカッション②	「生徒理解」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
8	期末課題のテーマの起案と計画書の提出	期末課題の計画書を作成・提出する
9	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者など教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、コメントを受ける。
13	期末課題発表会②	前回と同様。
14	期末課題発表会③	前回と同様。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
・期末課題の作成には、グループワークが必要になります。
・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります

【テキスト（教科書）】
・特に指定しません。必要に応じて、文献や資料などを指定あるいは配布します。

【参考書】
・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
・教育実践記録（講義の最初に提示します）
・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】
①期末課題とその発表・報告に対する評価、②演習における積極的な役割の遂行や討論への参加状況、を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特にありませんが、授業期間の途中でも、積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
この授業では授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】
7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。

【授業中に求められる学習活動】
学生がつくる授業ですので授業への積極的な参加が要求されます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教育実習（事前指導）

御園生　純

配当年次／単位：3〜4 年次／０単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また７月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第 2 回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第 3 回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	高校教員に求められる資質とは
第 4 回	実習ガイダンス　生活指導について	生活指導のあり方について
第 5 回	実習ガイダンス 2　教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第 6 回	実習ガイダンス 3　校務分掌	教職員の服務　生徒指導
第 7 回	実習ガイダンス 4　学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第 8 回	教科指導　授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第 9 回	教科指導　学習指導案の作成	副教材の作成方法
第 10 回	教科指導　学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第 11 回	教科指導　模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第 12 回	担任指導	生活・進路指導
第 13 回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法などをまなぶ
第 14 回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
なし

【テキスト（教科書）】
高等学校学習指導要領　情報編

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。
模擬授業の運営と、それにかかわる準備・授業計画の立案等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【その他の重要事項】
・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、４月に実施される３年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。
・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

高橋　繁

配当年次／単位：3〜4 年次／０単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また７月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更はあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	グループ編成・夏休み提出課題の提示
第２回	学習指導案の書き方	夏休み提出課題の返却と講評。グループ研究。
第３回	授業研究	４年生による模擬授業と交流
第４回	生活指導研究	４年生による発表と交流
第５回	模擬授業１	第 1 グループによる模擬授業および批評会
第６回	模擬授業２	第２グループの模擬授業と批評会
第７回	模擬授業３	第３グループの模擬授業と批評会
第８回	模擬授業４	第４グループの模擬授業と批評会
第９回	模擬授業５	第５グループの模擬授業と批評会
第 10 回	模擬授業６	第６グループの模擬授業と批評会
第 11 回	模擬授業７	第７グループの模擬授業と批評会
第 12 回	模擬授業のふりかえり	模擬授業で学んだことをまとめる
第 13 回	現代の教育課題	実習経験者・実習予定者の交流学習 ４年生の発表を聞く
第 14 回	まとめ	実習経験者・実習予定者の交流学習 教育実習までに準備しておくことをまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
７月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み
後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備・反省
教育実習修了者（４年生）の学習発表への参加

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。
必要文献、資料などを適宜紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】
　教育実習事前指導は、○と × で評価をおこないます。× の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】
　模擬授業のグループ分けや準備方法を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
　模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。
そのため、後期の冒頭、授業開始前にビデオ講習（撮影のみ）を受講してもらいます。

【その他の重要事項】
　この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【授業中に求められる学習活動】
・教職課程履修上この授業の特別な位置づけについて、３年次生対象の４月のオリエンテーションでお話します。
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意してください

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

小嶋　常喜

配当年次／単位：3〜4 年次／０単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度に教育実習を行うにあたり、これまで学んだ教職課程の集大成として、教員に求められる資質を身につけるとともに、授業の構成の方法・生徒指導のあり方などを、各自の模擬授業を通して実践的かつ総合的に学びます。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（グループ編成・夏休み提出課題の提示）	授業の目的と方法や全体の概要、今後の予定を説明します。
2	夏休み提出課題の返却、講評	提出課題の特徴と注意点を説明します。
3	授業研究（4 年生との交流授業）	授業の方法、展開の仕方、授業案の作成について説明します。
4	生活指導研究（4 年生との交流授業）	生徒とのコミュニケーションの取り方について説明します。
5	模擬授業準備のグループワーク	グループごとに模擬授業の準備をします。
6	模擬授業とその評価①	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をしあいます。
7	模擬授業とその評価②	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をしあいます。
8	模擬授業とその評価③	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をしあいます。
9	模擬授業とその評価④	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をしあいます。
10	模擬授業とその評価⑤	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をしあいます。
11	模擬授業とその評価⑥	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をしあいます。
12	模擬授業とその評価⑦	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をしあいます。
13	模擬授業のふりかえりふりかえりレポートの作成	模擬授業全体を通して到達点と課題を確認します。
14	実習経験者・実習予定者の交流学習	教育実習の経験を経た 4 年生と意見交換を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み
・後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備と反省
・教育実習修了者（４年生）の学習発表への参加

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
オリエンテーション時に配布します。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、○と × で評価をおこないます。× の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】
全員が模擬授業を必ず行っておくことが大切です。

【学生が準備すべき機器他】
模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

【その他の重要事項】
・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、４月に実施される３年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。
・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

平塚　眞樹

配当年次／単位：3〜4 年次／０単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むための、関門・ハードルとしての役割を持ちます。従って、出席や課題提出などについて、非常に厳しい扱いをせざるをえません。よく認識してください。後期授業ですが、７月に第一回目の授業を行います。その時、夏期課題を提示します。７月授業の出席が第一関門です。必ず出席してください。

【到達目標】
次年度に行う教育実習のために、実習の重み・責任を強く認識し理解することが大切です。具体的には、グループワークによる模擬授業を行い、教育実習に欠かせない教材研究・教案作成の方法と実践力をつけ、教壇実習実施のための最低条件を学習・習得すること、さらに実施のためのチームワーク力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導を行います。加えて、実習を経験した上級生から、授業（教案を含む）、生徒理解、その他、つまり教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（７月実施）	必ず出席。グループ編成、夏期課題の提示・説明
2	授業案の講評	夏期課題の返却と講評
3	授業研究	４年生（教員）の模擬授業から学ぶ
4	生活指導研究	４年生（教員）の実習報告から学ぶ
5	模擬授業の準備	模擬授業準備のグループワーク
6	模擬授業１	担当グループの模擬授業
7	模擬授業２	担当グループの模擬授業
8	模擬授業３	担当グループの模擬授業
9	模擬授業４	担当グループの模擬授業
10	模擬授業５	担当グループの模擬授業
11	模擬授業６	担当グループの模擬授業
12	模擬授業のふりかえり	全員による検討・討議
13	交流学習	実習経験者・実習予定者の交流学習
14	事前指導のまとめ	振り返りレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・７月のオリエンテーション（初回授業）出席。夏期課題＝夏期休暇中に提出しますが、不十分な場合、再提出することになります。
・模擬授業はグループで取り組みますので、授業時間外のグループワークが必要です。
・教材研究や教案作成・資料作成など、模擬授業に関する準備と振り返りがあります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。その他、参考図書についての詳細は、７月オリエンテーションで行います。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、〇と × で評価を行います。× の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】
現時点で特にありませんが、授業期間中でも積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
・模擬授業は、実施グループがビデオで撮影して自己点検を行えるようにしています。
・授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】
教職課程履修上の、この授業の特別な位置づけについて、３年次を対象とした４月冒頭のオリエンテーションでお話します。なお、７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となります。各学部掲示板で、日程確認を怠らぬようくれぐれも留意してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（中・高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：4 年次／ 5 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際の中学校・高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して,「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（３週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は，教育実習の体験を総括し，共有することで，今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する授業の授業案の作成など

【テキスト（教科書）】
各プロセスで指示

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
実習校の採点を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点および事後指導の結果を加味して，総合的に出される。なお，評価は，この両者を総合評価するが，それぞれに一定の基準を満たさなければ，教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない

【Outline and objectives】
This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.

教育実習（高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：4 年次／ 3 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際の高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（2 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は，教育実習の体験を総括し，共有することで，今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する授業の授業案の作成など

【テキスト（教科書）】
各プロセスで指示

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
実習校の採点を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点および事後指導の結果を加味して，総合的に出される。なお，評価は，この両者を総合評価するが，それぞれに一定の基準を満たさなければ，教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない

【Outline and objectives】
This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.

社会教育計画

荒井　容子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育計画の原理、法制度の実際を理解した上で、具体的な社会教育施策の調査、社会教育事業の企画・実践に取り組み、市町村における社会教育計画のあり方について学ぶ。

【到達目標】
市町村自治体の社会教育職員の立場から社会教育行政計画を策定し、また、社会教育事業を計画・実施していくための基本的な考え方と基礎的力量をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、日本の社会教育法制度及び市町村自治体の社会教育施策の現状について学んでいく。冬学期は各受講者の調査レポート（春学期の課題）を相互に検討しあと、社会教育事業の企画・実施に挑戦しつつ、社会教育事業・計画の方法について学んでいく。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育「計画」の意味 1	教育本質論と教育計画
2	社会教育「計画」の意味 2	教育計画と社会教育計画
3	調査自治体の基礎情報	受講生による報告
4	法制度の歴史と現状 1	社会教育行政組織の変遷
5	法制度の歴史と現状 2	戦後の法体系　憲法と社会教育
6	法制度の歴史と現状 3	教育基本法と社会教育
7	法制度の歴史と現状 4	社会教育法 1
8	法制度の歴史と現状 5	社会教育法 2
9	社会教育施設 1	制度と施策展開、施設づくり運動
10	社会教育施設 2	社会教育施設の意義、外部委託、コミュニティ政策への包摂
11	社会教育職員 1	制度と施策の展開、不当配転問題
12	社会教育職員 2	社会教育職員の「専門性」
13	「生涯学習」と社会教育計画	生涯学習政策の展開と「社会教育計画」づくり―再考
14	社会教育施策調査準備	経過報告と相談
秋学期		
回	テーマ	内容
1	自治体社会教育施策の検討	春学期レポートの報告と検討
2	社会教育事業づくり 1	どんな事業に挑戦してみたいか
3	社会教育事業づくり 2	題材についての意見交換
4	社会教育事業の事例 1	公民館での事業の流れ　長期、年間
5	社会教育事業事例 2	公民館での事業の流れ　個々の講座
6	社会教育事業づくり 3	題材の提案・選定
7	社会教育事業づくり 4	題材をどう企画につなげるか
8	社会教育事業づくり 5	具体化を睨んだ準備スケジュール確定
9	社会教育事業づくり 6	企画書の作成（プログラム確定）
10	社会教育事業づくり 7	開催場所・内容（講師依頼他）の調整
11	社会教育事業づくり 8	プログラムの再調整と案内作成
12	実施社会教育事業の総括	総括討議
13	報告書づくり	相談・作成計画
14	秋学期レポート	報告と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から身近な社会教育施設やさまざまな学習活動、社会教育事業に興味をもち、自主的に参加して体験を積んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】
社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第 7 版）2005 年、（第 8 版）2011 年、（第 9 版）2017 年。

【成績評価の方法と基準】
春学期・冬学期それぞれの講義内報告およびレポート、この 4 つの課題のうち一つでも欠くか、水準以下の場合には不合格とします。以上 4 つの評価は全体評価の 80 %を占め、他者の報告検討時及び通常の講義時での討議への参加の度合いは全体評価の 20 %で加味します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が 10 人以下のため授業改善アンケートを行っていない。春学期の課題は、学生にはって、自分と関わりのある自治体の現場に直接触れる貴重な機会となっているようだ。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【授業中に求められる学習活動】
社会教育職員は行政計画と事業計画の双方に精通し、また集団討議を組織する力量も社会教育職員にとって不可欠であることを自覚して、講義での討議に積極的に参加し、意欲的に力量を高めていってほしい。

【Outline and objectives】
The aim of this curse is to provide students with a basic understanding and skills to make social education plan in local government, especially municipal level. The idea on social education plan and the legal system of social education in Japan will be introduced. Students are required to research some municipal government about its social education policy and report the result in the classroom. Students are also required to make a social education practical plan and implement it.

社会教育演習

江頭　晃子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育という学びの場を体験的に学びながら、自分の課題に向き合い、学びの受容者から、学びをつくり出す主体となる視点を持てるようになる。

【到達目標】
学びの場・交流の場などを自ら作り出す（講座企画、地域調査、フィールドワークなどの実施）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
先輩の実践や文献・ミニコミ等から各地の社会教育・市民活動の実践例を学ぶ。自分が住む自治体の社会教育の現状を調査しつつ、社会教育施設や地域で行われる講座等に参加しながら、自分の課題を学習課題化し、自身が主催者として社会教育の場をつくってみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的と方法、年間予定、自己紹介
2	先輩の実践例から	アイスブレーキング、過去の演習授業から。
3	社会教育調査 (1)	居住自治体の社会教育施設調査
4	社会教育調査 (2)	公民館条例調査
5	社会教育調査 (3)	比較研究
6	社会教育とは何か	文献から学ぶ
7	社会教育と学校教育	両者の違いを検討する
8	私の教育史 (1)	自身の学びの歴史をふりかえる
9	私の教育史 (2)	自身の学びの歴史をふりかえる
10	私の課題と社会教育 (1)	自分にとっての課題を探る
11	私の課題と社会教育 (2)	自分にとっての課題を探り学習課題化する
12	私の課題と社会教育 (3)	自分にとっての課題を探り学習課題化する
13	社会教育施設見学 (1)	自分の地域の社会教育施設見学または講座への参加
14	社会教育施設見学 (2)	自分の地域の社会教育施設見学または講座への参加

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏休みにおける課題研究の検討	各自の課題にあわせて夏休みの計画を練る
16	レポート報告 (1)	夏休みの課題研究の発表
17	レポート報告 (2)	夏休みの課題研究の発表
18	社会教育施設見学 (3)	各自の課題にあわせて講座に参加
19	学習課題を講座・学習会として企画する①	目的、対象の検討
20	学習課題を講座・学習会として企画する②	内容の検討
21	学習課題を講座・学習会として企画する③	講師や場所の検討
22	講座・学習会の最終企画	話し合い
23	講座・学習会の講師打ち合わせ	実践
24	講座・学習会の最終検討、役割分担	実践
25	講座・学習会実施①	実践
26	講座・学習会実施②	実践
27	講座・学習会等の反省会	話し合い
28	講座・学習会等の記録作成分担・相互評価	演習の反省と感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会教育施設（公民館など）の調査・見学、講座参加、地域の情報収集、企画書作成、記録作成等。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料配布。参考文献は授業内で提示。

【参考書】
授業内で提示。

【成績評価の方法と基準】
授業や課題への積極的参加、レポート等提出物を総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
社会教育主事資格のためだけではなく、学校教育から卒業した後、貴重な学びの場となる社会教育をいかに自分自身に役立てるようにするか、という視点も大切にしているため、参加学生の興味関心に沿って授業を組み立てています。

【Outline and objectives】
We learn about social education in Japan. Ane you get a method of the learning to solve social problems as a social member.

現代社会と社会教育

栗山　究

配当年次／単位：**2〜4 年次／ 4 単位**
開講時期：**年間授業**/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
住民が実際生活で直面する諸課題を相互に学びあうときに生み出される社会教育実践のあり方をとらえ、現代社会の諸課題に向きあう社会教育の現場と住民の学びあいを支援している社会教育職員・学習支援者の役割や課題を考察する授業です。
成人の学習論を学び、受講者自身や各地の社会教育実践と関連づけながら、現代社会に生きる私たちのくらしのなかに、さまざまな学びが生み出されていることへの理解を深めていきます。

【到達目標】
(1) 生涯に亘る学びの意味を表現していくことができるようになります。
(2) 住民が地域で主体的に学んでいることの意味と現代社会の諸課題とを連関して捉えられるようになります。
(3) 社会教育職員・学習支援者の役割や学習の条件整備のあり方を理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせて進めていきます。春学期から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は積極的に応援していきます。秋学期は、受講者自身が社会教育施設の職員になったことを想定し、実際生活に即した具体的な実践事例を素材に、適時、そこでの学習記録・実践記録を分析的に読み込むことから、相互学習の場を地域社会に創り出すことの難しさや醍醐味を体験的に考察していく予定です。
少人数の受講者で構成される社会教育主事資格課程科目であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り実際の社会教育施設を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を用意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会教育職員のおかれる現在を確認し、昨年までの事例を参考に授業の進め方を話しあいます
2	成人の学習論の展開①	受講者各位の教育経験をふりかえり、成人の学習論を検討します
3	成人の学習論の展開②	得られた知見を共有し、基本となる特徴や課題を考察します
4	基礎教育の課題と展望	人間として生きることと学ぶこととの関連を考えます
5	ノンフォーマル教育の可能性①	地域社会における多様な学び場を見つめなおします
6	ノンフォーマル教育の可能性②	得られた知見を共有し、基本となる特徴や課題を考察します
7	相互学習・共同学習	受講者相互の話しあいの意味を考え、この授業での取り組みを検討します
8	社会教育実践に学ぶ①	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読、検討します
9	社会教育実践に学ぶ①	例：子ども・若者・子育て世代・高齢者の学び
10	社会教育実践に学ぶ②	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読、検討します
11	社会教育実践に学ぶ②	例：障害のある人たち、在住外国人とともにある学び
12	社会教育実践に学ぶ③	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読、検討します
13	社会教育実践に学ぶ③	例：平和、環境問題と地域社会での学び
14	中間のまとめ	これまでの学習を踏まえて各自の夏休みの課題を考えます

秋学期

回	テーマ	内容
15	社会教育事業や実践に接して	夏休みの課題レポートを報告しあいます
16	社会教育法制度からみる社会教育職員の役割	学習者の学びに寄り添う社会教育職員の役割を検討します

17	社会教育法制度からみる社会教育施設の役割	住民参画のあり方について検討します
18	現代的課題の学習と社会教育施設のあり方	社会教育事業における講座のもつ両義性をとらえ、その意義を検討します
19	学習の自由と社会教育施設のあり方	今日の実践事例や政策動向を捉え、現在の社会が抱える論点を確認します
20	社会教育事業の実践事例分析①	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、事業計画を展望します
21	社会教育事業の実践事例分析②	NPO や社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	社会教育事業の実践事例分析③	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	社会教育事業の実践事例分析④	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	社会教育事業の実践事例分析⑤	学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	社会教育事業の実践事例分析⑥	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	社会教育事業の実践事例分析⑦	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	社会教育事業の実践事例分析⑧	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読し、検討する予定です。
秋学期は、現代社会の諸課題を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11 以後の社会とエネルギー問題」を事前に配布する予定です。
それぞれ、授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。
なお、春学期の学習は、状況に応じて、通年を通じた学習となる場合もあります。

【テキスト（教科書）】
各回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジメを作成して配布します。

【参考書】
必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業（社会教育事業・施設見学を含む）への積極的な参加（40 %）と、夏休みと学年末のレポート課題（各 30 %）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
初回の授業で通年授業の大まかな進め方・授業運営方針をガイダンスします。
社会教育固有の方法論ともいわれる「相互学習」を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。
なお、相互学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事の任用資格を得るための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群のうち、特講科目の一つに位置づきます。
本授業では、公立の社会教育施設で教育事業を担当した実務経験に基づき、そこでの教育活動の実際について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline and objectives】
In this class, we will learn fundamental features in Adult Learning and understand that various learning is being created among our lives living in contemporary society while associating with ourselves or Community education practice in each region.
Therefore, we will consider the following two aspects according to specific cases. The first is the role and subject of Adult and Community education to confront the various issues of contemporary society. The second is the role and meaning of Adult and Community education officer or Learning facilitator who are supporting residents' interactive learning.

視聴覚教育 I

有田　寛之

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解し、教育に関わる視聴覚メディアについて、その特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につけることが本授業のテーマである。

【到達目標】
この授業を履修することで、メディアの特性を意識し、博物館の活動において、他の人に情報を伝えるために適切なメディアの選択と活用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館において情報がどのように取り出され、整理され、社会にどのように発信されていくのかを国内外の事例とともに紹介する。また、博物館で活用される視聴覚メディアの解説と、博物館展示における解説コンテンツの制作事例の紹介も行う。授業計画は授業の展開によって変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義：博物館の機能	イントロダクション：博物館の扱う情報を、博物館の基本的機能ごとに整理する。
2	講義：視聴覚教育の歴史	明治以降の博物館における視聴覚教育の歴史を紹介し、現代の博物館における視聴覚メディアの活用状況について概観する。
3	講義：情報の記録	博物館における情報の記録方法とデータベースの基本的機能について解説する。
4	講義：博物館情報のデジタル化と標準化	博物館情報のデジタル化及び標準化について事例とともに解説する。
5	講義：博物館資料の三次元デジタル化	博物館情報のデジタル化の中で、特に三次元デジタルデータの活用事例を紹介する。
6	講義：博物館が扱うこれからの情報	博物館情報の保存と共有に向けた取り組みについて、最新の事例をもとに解説する。
7	講義：情報の発信	主にインターネットを活用した博物館情報の発信について、ポータルサイトの活用事例とともに解説する。
8	講義：情報機器の活用	博物館における情報機器の活用について、ここ 10 年の傾向を中心に解説する。
9	講義：ミクスト・リアリティ	ミクスト・リアリティ技術を用いた情報提供について解説する。
10	演習：博物館の展示における ICT の活用	博物館の展示における ICT の活用方法の検討を行う。
11	講義：情報提供のデザイン	博物館における情報提供のデザインとして、展示解説計画等を事例に解説を行う。
12	講義：解説コンテンツの制作事例	博物館展示におけるコンテンツの制作事例を、特別展を例に紹介する。
13	講義：情報を活用するための留意点	知的財産権及びメディアリテラシーについて解説する。
14	まとめ	講義の理解度を確認するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることで、講義の内容が理解しやすくなります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
講義への積極的な参加度（20 %）、講義機関中の課題提出（30 %）、講義最終回に実施するテスト（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】
The goals of this course are to
(1) Understand the meaning and uutilization of information at museums.
(2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

視聴覚教育Ⅱ

有田　寛之

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解し、教育に関わる視聴覚メディアについて、その特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につけることが本授業のテーマである。

【到達目標】
博物館展示のデジタルコンテンツ制作の流れを実際に体験することにより、博物館来館者を意識した、分かりやすく情報を伝えるためのメディアの選択や活用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館における情報提供のコンテンツ作成実習を通じ、多様な来館者に向け、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、情報発信することを学ぶ。受講人数やコンテンツ作成の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館展示における情報発信	多様な学びのニーズに合わせた情報の提供について学ぶ。
2	情報発信の事例紹介	携帯情報端末の導入事例を元に、効果的な利用法を考える。
3	携帯端末を用いた情報発信を考える	情報を伝える対象と目標の設定について学ぶ。
4	演習：オーサリングソフトの使用	コンテンツを制作するオーサリングソフトの使い方を学ぶ。
5	情報デザイン（1）	コンテンツの全体構成および用いるメディアを検討する。
6	情報デザイン（2）	情報を伝えるために必要な素材を集める。
7	コンテンツ作成（1）	これまでに集めた素材を編集する。
8	コンテンツ作成（2）	これまでに集めた素材を編集する。
9	コンテンツ作成（3）	中間発表と、相互評価を行う。
10	コンテンツ作成（4）	評価を元に修正点を整理し、コンテンツの更新を行う。
11	コンテンツ作成（5）	全体の構成をチェックする。
12	完成したコンテンツの講評	完成したコンテンツの発表と相互評価を行う。
13	コンテンツの改善	作成したコンテンツの課題の抽出と改善を行う。
14	理想の展示解説	博物館が行うべき情報発信の姿について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館における情報発信の演習を行うので、時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることをすすめます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
講義の中で作成したコンテンツおよびレポート、講義への積極的な参加度を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】
The goals of this course are to
(1) Understand the meaning and uutilization of information at museums.
(2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

特別な教育的ニーズの理解と支援

小池　雄逸

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要としている幼児、児童及び生徒への理解と、指導・支援の充実を考え深めるために、講義、演習を組み合わせて授業を行う。授業の目的から考え、適宜、発表、課題解決型学習を取り入れる。リアクションペーパーは、毎時間提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	本講義の目的・到達目標・進め方を知る。また、特別支援教育の概要について学ぶ。
第２回	特別な支援を必要とする子どもたち	教育的ニーズについて考える。また、特別支援教育の制度の理念や仕組みを知る。さらに、児童生徒理解の必要性と重要性を学ぶ。
第３回	認知特性とは何か	子どもの発達の道筋を理解することの重要性について考える。また、認知特性及び学習の過程について学ぶ。
第４回	自閉症スペクトラム障害のある子どもとその支援	自閉症スペクトラム障害について知る。また、児童生徒理解と指導・支援のあり方について考える。
第５回	AD/HD, ADD のある子どもとその支援	AD/HD、ADD について知る。また、児童生徒理解と指導・支援のあり方について考える。
第６回	学習障害のある子どもとその支援	学習障害について知る。また、児童生徒理解と指導・支援のあり方について考える。
第７回	軽度知的障害のある子どもとその支援	知的障害について知る。また、児童生徒理解と指導・支援のあり方、「自立」について考える。
第８回	肢体不自由・病弱の子どもとその支援	肢体不自由・病弱について知る。また、児童生徒理解及び「障害」理解について考える。
第９回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	子どもの「貧困」について学び、考える。また、外国語を母語とする子どもへの教育的対応について知る。
第１０回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育と合理的配慮について知り、考えを深める。また、通級による指導、自立活動について知る。
第１１回	個別の指導計画、教育支援計画	一人ひとりに応じた指導について考える。個別の指導計画、教育支援計画の作成の意義と方法を学ぶ。
第１２回	多様な関係・連携と支援	校内支援体制の構築及び関係諸機関との連携について学ぶ。
第１３回	介護等体験の意義と留意点	介護等体験の意義と留意点について学び、理解を深める。また、特別支援学校の教育について知る。
第１４回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	障害のある児童生徒、困難をかかえる児童生徒への理解と、指導・支援及び教育的対応の充実を考え深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞、テレビ番組、書籍等で、子どもや学校、教育、福祉等に関して関心をもつこと。また、授業のテーマに応じて、自身の小・中・高校での経験を振り返りながら学び、学習内容への理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定である。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末試験等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための「特別な教育的ニーズ」をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間のリアクションペーパー等）５０％、講義のまとめとしての「期末考査」５０％で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具

【その他の重要事項】
公立小学校教員としての経験を活かし、授業を行う。担当講師の本務校業務の関係で、何回かの授業は補講日を用いて実施する予定である。初回授業時に詳しく説明する。

【Outline and objectives】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、子どもたちが生きる力を身に着けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
　特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
　障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、映像等も使いながら、具体的な事例を伝え、授業を行う。講義が中心であるが、グループワーク、発表も適宜取り入れる。リアクションペーパーは毎時間提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第２回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第３回	認知特性とはなにか	発達障害の「認知特性」「障害特性」について、事例に沿って学ぶ。
第４回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害について概要と具体例を学ぶ。
第５回	AD/HD, ADD とその支援	AD/HD, ADD について概要と具体例を学ぶ。
第６回	学習障害とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第７回	軽度知的障害とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第８回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第９回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第１０回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第１１回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第１２回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第１３回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第１４回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、１回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業で配布された資料をていねいに読み返すこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末テスト等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）60 %＋期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline and objectives】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

メディアと人間Ⅰ／比較文化論Ⅰ

西　兼志

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、メディアを、「人間」と「社会＝世界」を結びつける「技術＝モノ」と定義することで、いまや私たちの環境となっているメディアのあり方を広い視点から理解できるようにしていきます。メディアの展開――書物、写真、映画、テレビ、ソーシャル・メディアなど――を辿りながら、現代社会におけるメディアの成り立ちについて考えていきたいと思います。

【到達目標】
メディアを、狭義の「マス・メディア」として捉えることにとどまらず、より広く、人間的・社会的現象として捉えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。なお、授業内容は、展開に応じて、変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の見取り図
2	メディア、情報、記号（1）	メディア論の基礎
3	メディア、情報、記号（2）	メディアと情報社会
4	メディア、情報、記号（3）	メディアと記号
5	メディアとしての文字	「かくこと」をめぐって
6	メディアとしての印刷	グーテンベルクの銀河系をめぐって
7	メディアとしての写真	写真と意識をめぐって
8	メディアとしての映画（1）	映画と意識をめぐって
9	メディアとしての映画（2）	映画と国民国家をめぐって
10	メディアとしてのテレビ（1）	パレオ TV からネオ TV へ
11	メディアとしてのテレビ（2）	リアル TV をめぐって
12	メディアと監視社会（1）	メディア論から監視社会論へ
13	メディアと監視（2）	監視資本主義をめぐって
14	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を、必ずプリントアウトした上で、よく読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】
特になし。その都度、配布します。

【参考書】
特になし。その都度、指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 20 %　期末レポート： 80 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide an introduction to media studies. Defining media as technics integrating individuals into collectivity, this introduction examines our media environment.

メディアと人間Ⅱ／比較文化論Ⅱ

西　兼志

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、毎回、5 個程度のキーワード（eg.「文化産業」「情報社会」「消費社会」「象徴的貧困」「アテンション・エコノミー」「記号資本主義」「監視資本主義」...）を取りあげながら、メディア社会を理解するための視座を身につけられるようにしていきます。

【到達目標】
メディア社会の諸問題に気づき、理解できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。なお、講義内容は、展開に応じて、変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の見取り図
2	キーワード 1 〜 5	資料に基づいた、キーワードの解説
3	キーワード 6 〜 10	資料に基づいた、キーワードの解説
4	キーワード 11 〜 15	資料に基づいた、キーワードの解説
5	キーワード 16 〜 20	資料に基づいた、キーワードの解説
6	キーワード 21 〜 25	資料に基づいた、キーワードの解説
7	キーワード 26 〜 30	資料に基づいた、キーワードの解説
8	キーワード 31 〜 35	資料に基づいた、キーワードの解説
9	キーワード 36 〜 40	資料に基づいた、キーワードの解説
10	キーワード 41 〜 45	資料に基づいた、キーワードの解説
11	キーワード 46 〜 50	資料に基づいた、キーワードの解説
12	キーワード 51 〜 55	資料に基づいた、キーワードの解説
13	キーワード 56 〜 60	資料に基づいた、キーワードの解説
14	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を、必ずプリントアウトした上で、よく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
特になし。その都度、配布します。

【参考書】
特になし。その都度、指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 20 %　期末レポート 80 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide theoretical perspectives on our media society, examining, in each class, (about) 5 important concepts, such as "cultural industry", "information society", "consumption society", "attention economy", "semiotic capitalism", "surveillance capitalism", etc.

社会教育概論Ⅰ／生涯学習論Ⅰ

荒井　容子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】
人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】
多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。各自に何らかの社会教育事業に参加してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう。なお講義内容について適宜、バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第１ラウンド　社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第１ラウンド　社会教育のイメージ	日本の社会教育活動事例の紹介
3	第１ラウンド　社会教育のイメージ	社会教育のイメージについてのバズセッション
4	第２ラウンド　「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか　1
5	第２ラウンド　「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか　2
6	第３ラウンド　成人識字教育の実践と理論に学ぶ	成人の識字・非識字について　貧困と識字
7	第３ラウンド　成人識字教育の実践と理論に学ぶ	パウロ・フレイレの識字教育実践と理論 貧困・支配の中での学習の課題と方法
8	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
9	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史１
10	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史２
11	第５ラウンド　社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例１
12	第５ラウンド　社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例２
13	第６ラウンド　現代の社会教育実践・社会教育運動	現代社会教育政策・成人教育政策の矛盾（生涯学習論の矛盾・学習権宣言ほか）
14	第６ラウンド　現代の社会教育実践・社会教育運動	社会教育事業参加　報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の初期に提示する課題２に関する指示に従って、講義期間中、各自早めに、興味のもてる内容の社会教育事業を探し出し、参加しておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】
社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第７版）2005 年、（第８版）2011 年、（第９版）2017 年。

【成績評価の方法と基準】
社会教育事業参加レポート（課題２）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題１）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で 20%、後一者で 80%とする。他に講義中に行うグループ討議前後等の感想文は最終レポートの課題と関わる可能性が高いので、積極的に取り組んでおくことを推奨する。

【学生の意見等からの気づき】
参加する社会教育事業について、あらかじめ方向づけをする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to gain understanding of people's learning and social education that support it. Students will discuss about each cases and ideas in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

社会教育概論Ⅱ／生涯学習論Ⅱ

荒井　容子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】
人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の社会教育史について講義したのち、他の国々の成人教育史について概観し、最後に、国際的な成人教育運動について紹介する。講義内容について適宜バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	社会教育・成人教育の歴史　概要と把握方法
2	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2 ビデオ鑑賞
4	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開 (労働学校運動、自由大学運動)
5	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設
7	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	統制政策の展開と自己教育運動の展開 1950 － 60 年代
8	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	多様な社会教育運動の形成と「権利としての社会教育」の自覚化 1970 年代
9	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行 －学習者の「参加」発展と「合理化」による後退 1980 年代
10	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	「生涯学習」政策の展開と法制度の変遷 1990 年代以降
11	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
12	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	軍事政権下のラテンアメリカでの民衆文化運動ビデオ鑑賞
13	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
14	第４ラウンド　総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「感想・意見メモ」は熟考する機会として活用してほしい。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】
藤田秀雄, 大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984 年 12 月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015 年 9 月。

【成績評価の方法と基準】
レポート（課題・期限は講義内で提示）を 85 %、講義内で適宜課す感想等は 15 %で評価する。レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になる。講義最終回でレポートをもとにバズ・セッションを行う。これは単位取得の必須条件となる。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料か多い回は、資料を事前にネットで配信し、読んでから受講することを可能にする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】
This course will review the history of social education in Japan and adult education in the other countries. Some cases of adult education movements and policies will be introduced. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

福祉社会学Ⅰ

堅田　香緒里

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ。

【到達目標】
1）福祉国家の歴史／学説史を理解する。
2）現代社会における福祉の意味や機能ならびに課題を理解する。
3）これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】
講義の前半では、社会が福祉を必要としてきた背景やそれを支えてきた理念や規範について、福祉国家の歴史および学説史の検討を通して学ぶ。そのうえで、講義の後半では、現代社会における福祉の意味や課題を理解するために重要な幾つかの論点を取り上げ、解説する。これらを通して、これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養うことを目的とする。
※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉とは何か、必要とは何か
2	福祉国家とは何か	福祉国家の目的・編成・機能
3	福祉国家の歴史①生成期	救貧法から戦後福祉国家誕生まで
4	福祉国家の歴史②拡大期	社会支出の増大、社会権の確立
5	福祉国家の歴史③危機と再編	右派からの批判、「新しい社会運動」による異議申し立て
6	福祉国家論①	産業主義理論、権力資源論から福祉レジーム論へ
7	福祉国家論②	福祉レジーム論の新展開、脱商品化と脱家族化
8	シティズンシップ	権利と義務、市民共和主義と自由主義、フェミニスト・シティズンシップ、国籍と難民
9	貧困と排除／包摂	絶対的貧困、相対的貧困、剥奪、ケイパビリティ、社会的排除、包摂
10	自由とセキュリティ	「生の保障」と「治安」、福祉国家の監視国家化
11	ケアと再生産	生産、再生産、ケア、家事労働
12	自立と依存	フェミニズム／障害学が投げかける問い
13	再分配と承認	「声」の政治、マイノリティ
14	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】
武川正吾（2011）『新版・福祉社会―包摂の社会政策』有斐閣アルマ
平岡公一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人（2011）『社会福祉学』有斐閣
など

【成績評価の方法と基準】
原則的には学期末の筆記試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history and the function of modern welfare state.

福祉社会学Ⅱ

堅田　香緒里

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉政策および周辺の諸政策について学び、そのうえで、今日の福祉政策が抱える課題やそれを克服するための展望について考える。

【到達目標】
1）既存の福祉政策の内容や目的・背景にある規範を理解する。
2）福祉政策が現在直面している課題について理解する。
3）これからの福祉政策のあり方について各々が展望する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】
今日、福祉国家を支えてきた様々な社会的諸条件が揺らぐ中、福祉政策の再編が進行しつつある。こうした現代的文脈を踏まえ、講義の前半では、とりわけ日本の福祉政策および周辺の諸政策を取り上げ、その目的・内容及び背景にある規範について学ぶ。講義の後半では、これらの福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討し、それを克服するために近年検討されている新しい政策構想に触れ、これからの福祉政策のあり方を展望する。
※授業計画は、参加者の興味・関心や進捗状況に応じて変更の可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の目的・編成・機能
2	福祉政策の実際①：障害者福祉	自立生活、介助サービス
3	福祉政策の実際②：高齢者福祉	介護保険、介護労働、ケア
4	福祉政策の実際③：子ども家庭福祉	社会手当、保育サービス、ソロマザー
5	福祉政策の実際④：低所得者福祉	生活保護、生活福祉資金、生活困窮者支援
6	福祉政策の周辺①：健康の保障	医療保険、予防的介入
7	福祉政策の周辺②：教育の保障	教育政策、奨学金
8	福祉政策の周辺③：住宅の保障	公営住宅、「ホームレス」政策
9	福祉政策の現代的課題①	雇用の不安定化に伴う諸課題
10	福祉政策の現代的課題②	家族の不安定化に伴う諸課題
11	福祉政策の現代的課題③	コミュニティの再編に伴う諸課題
12	新しい福祉政策①	ワークフェア、アクティベーション
13	新しい福祉政策②	ベーシックインカム、参加所得
14	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】
三重野卓・平岡公一編（2006）『改訂版・福祉政策の理論と実際―福祉社会学研究入門』東信堂
圷洋一・堅田香緒里・金子充・西村貴直・畑本裕介（2011）『社会政策の視点―現代社会と福祉を考える』法律文化社

【成績評価の方法と基準】
原則的には学期末の筆記試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出してもらうリアクションペーパーへの授業内応答を、引き続き行う。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of challenges and prospects facing modern welfare state.

LAW200EB

国際法

妻木　伸之

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、国際社会を規律する法である国際法の概要について学び、現代国際社会における諸課題解決の手がかりを得ます。

【到達目標】
国際法の基本的概念・枠組について理解すること。加えて、可能であれば、現代国際社会諸の諸課題について国際法に基づき検討できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は「講義形式」で実施します。
また、疑問点や不明な点がある場合は、積極的に質問するようにしてください。
なお、授業計画は展開によって、若干の変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 1 ：「国際法」の歴史的展開	国際法の歴史を通じ、現代国際法の特徴とその課題を学ぶ。
2	導入 2 ：国際社会における立法・司法・執行	国内社会・国内法との比較を通じ、国際社会・国際法の特徴について学ぶ
3	国際法の「法源」―国際法の存在形式	国際法がどのような形で存在するかについて学ぶ。
4	国際法の「主体」―国家・国際組織・その他	国際法をつくり、国際法により規律されるのは誰かについて学ぶ。
5	「主権」と国家の基本的権利・義務	国際法の基本概念である「主権」を持つものとしての国家について学ぶ。
6	陸・空・海に関する国際法	国際法における領域（主に海洋）の取扱いについて学ぶ。
7	個人の国際法上の権利・義務―国際刑事法・国際人権法	「国際犯罪」への国際法の対応および国際人権法の展開について学ぶ。
8	国際人権法の実現―国内実現と国際実現	国内平面と国際平面における国際人権法の実現について学ぶ。
9	武力不行使原則の確立と平和的紛争処理手続	戦争の違法化と武力を用いないで紛争を処理する手段について学ぶ。
10	集団安全保障：その限界と克服の努力	武力行使抑止のための枠組としての集団安全保障の展開について学ぶ。
11	自衛権／武力紛争法	武力不行使原則の例外および武力紛争における行為の規制について学ぶ。
12	ブレトンウッズ体制／GATT・WTO 体制	第２次大戦後、西側先進国が構築した経済秩序について学ぶ。
13	南北問題と「新国際経済秩序」	途上国を中心とする「南側」からの変革運動について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめ（＋補足説明）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記に紹介する参考書などを使って、各自、復習をすることを望みます。
また、可能であれば予習をすると講義を理解しやすいと考えます
(参考書の該当箇所などに目を通すだけでもよい)。
なお、1 週につき計 2 時間程度を想定。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない（レジュメ等を毎回の講義時に配布する。
なお、配布物については、授業支援システムにもファイルをアップロードする)。

【参考書】
例として、横田洋三編『国際社会と法』(有斐閣、2010 年)、柳原正治ほか編『プラクティス国際法講義（第 3 版)』(信山社、2017 年)、渡部茂己ほか編『国際法（第 2 版)』(弘文堂、2014 年) など。また、森川幸一ほか編『国際法で世界が分かる』(岩波書店、2016 年）は時事問題を扱っており興味深い。
なお、条約集もあるとよい（代表的なものとして、有斐閣の『国際条約集』・東信堂の『ベーシック条約集』があります)。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %（論述試験を予定)。なお、試験のみで評価しますので、卒業を控えている者は、その旨、十分留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、はっきりと話すよう努力する。また、板書についても、よみやすい字をこころがける。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of international law.
The goals of this course is following,
(1) to obtain the basic knowledg of the internaional law,
(2) as possible, to be able to appraise golbal issues from the legal percepective.

SOC200ED

マス・コミュニケーション論

加藤　徹郎

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マス・コミュニケーションにおける理論的解釈の変遷を解説しながら、それを応用した現代的課題についても考察を加える。

【到達目標】
マス・コミュニケーション理論を単に学説史として把握するのではなく、現代のメディア現象をとらえる視座を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「メディアとそれを取り巻く環境を捉えるための関連諸科学の知識を身につけている。」に関連

【授業の進め方と方法】
それぞれのマス・コミュニケーション研究を紹介を通じ、その社会的背景や現代にもつながる課題を考えていく。
※ 授業内容は変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容・履修方法などの確認
第 2 回	メディア史概説	マス・メディアの発達史を概説する。
第 3 回	弾丸効果モデル	マス・メディアの効果が強調されるケースの解説。
第 4 回	限定効果モデル	マス・メディアの効果への懐疑が問われるケースの解説。
第 5 回	中範囲の理論	議題設定理論や世論の構築過程などの解説。
第 6 回	メディアイベント論	マス・メディアの効果の見直しについて解説。
第 7 回	デジタルメディア論	デジタル時代の新たなメディア論についての解説。
第 8 回	強力効果論の捉えなおし①	沈黙のらせんと第三者効果。
第 9 回	強力効果論の捉えなおし②	培養理論の解説。
第 10 回	カルチュラル・スタディーズ①	エンコーディング／デコーディングモデルの解説。
第 11 回	カルチュラル・スタディーズ②	物語論を基礎にした映画・ドラマなどの分析手法について。
第 12 回	カルチュラル・スタディーズ③	物語論を基礎にしたバラエティ番組などの分析手法について。
第 13 回	普及過程論①	情報の社会的浸透過程の考察。
第 14 回	普及過程論②	量的調査によるメディアコンテンツへの接近。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容をもとに、自分の「情報行動」について「絶えず問い直すこと」が予習・復習の役割を担うはずです。

【テキスト（教科書）】
使用しません（授業中、適宜指示します）。

【参考書】
毎回、授業プリントに参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
大教室の授業ですが、なるべく双方向で意見を言い合える講義環境にしたいと考えます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of general knowledge of mass media.

グローバル社会のローカリティ／地域社会学

中筋　直哉

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに場所の間を移動していく人びとの生活のリアリティに重点を置く。

【到達目標】
・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式でパワーポイントを使用する他、授業支援システムで事前に資料を配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカリティとは何か 1	国民国家の構成要素としての地域社会
3	ローカリティとは何か 2	グローバル化による地域社会の脱構築
4	ローカリティの諸形態 1	親密圏の解体と再生
5	ローカリティの諸形態 2	農山漁村の生存戦略
6	ローカリティの諸形態 3	世界都市と分極化
7	ローカリティの諸形態 4	境界と辺境をめぐるゲーム
8	事例研究的講義	新しいローカリティの事例紹介
9	事例をめぐる質疑と討論	受講者のグループディスカッション
10	人びとの移動と定着 1	移民・難民たちのレガシーズ
11	人びとの移動と定着 2	リアリティ・トランジットとアート
12	人びとの移動と定着 3	旅する信仰と思想
13	ローカリティの未来 1	まとめと展望
14	ローカリティの未来 2 ※別途定期試験を実施	重要論点の復習的グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムを使った復習。授業の中盤に A4×1 枚程度のリポートを課す。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
リポートの出来が 40 %、論述式の期末試験が 60 %。リポートを提出し、かつ試験を受けなければ D。試験解答において、現代社会のローカルな生活に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】
コースの専門的科目なので受講には入門以上の知識が必要。2 年生以下の履修は合格率が高くなく、勧めない。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント使用だがノートと筆記用具は必須。授業支援システムへのアクセスも必要。

【Outline and objectives】
This lecture aims to study regional society below grobalization by sociological perspective.

国際政治論

白鳥　浩

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
責任ある「有権者」として必須な、国際政治の体系的理解

【到達目標】
「有権者」の国際政策の選択の基準として、理論のみならず事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】
現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといって良い。「グローバリズム」、「ボーダーレス」という時代のキーワードが示すように、国際政治の影響力は、我々の生活の上に大きな影響を及ぼしている。この国際政治の現実を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際政治学とは何か？	導入
2	国際政治学の基礎概念	基礎概念
3	冷戦と現実主義	戦後政治の基本
4	デ・タントと相互依存論	戦後政治の変容
5	ガルトゥングの平和学	構造的な視点
6	ローズノーのリンケージ・ポリティックス論	国際政治と国内政治
7	ロッカンの国家形成・国民形成論	国家と国民とは
8	ロッカンの「欧州概念地図」	マクロな分析枠組み
9	欧州統合の展開	国際統合の現実態
10	レジーム論	多様なレジーム
11	「帝国」論	帝国と国民国家
12	欧州統合と国民国家の変容	国民国家の変容
13	日本をとりまく国際政治	最近の事例から
14	国際政治論の展望	現在の国際政治論の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある国際感覚のあふれる「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『現代欧州統合の構造』芦書房、２００８年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。

【テキスト（教科書）】
講義時に指示。

【参考書】
講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】
This course aims to provide basic understandings of theoretical aspects of International Relations.

ART100EC

表象文化論 A

髙橋　愛

サブタイトル：文化表象論
配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は自らが生きる世界を多様なシステムを通じて表象し、その行為によって、たえず文化を創造、展開してきた。本授業の目的は、さまざまな文化事象の歴史的文脈や時代の政治的・社会的背景を検討し、表象を成り立たせている諸要素や様態について考察することである。

【到達目標】
本授業では、言語テクスト、絵画、写真、映画、建築などのジャンルを横断しながら、個々の作品がいかなる歴史的・社会的文脈において制作され、いかなる装置によって表象されたのかを考え、文化事象を読み解く方法を提示する。それを手がかりとして、受講生は各自が関心を持つ対象にアプローチし、広い視野をもって、解析する。さらに、自ら適切に表現することもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明
2	文化と表象	表象を成立させる要素や構造
3	近代フランスにおける都市	産業革命と鉄道の発達、第二帝政期のパリ大改造
4	近代フランスと絵画・文学	絵画と文学にあらわれた新しいモチーフ
5	近代フランスと日本文化	ジャポニスム
6	権力と文化の表象装置（1）——パリの地政学とモニュメント	パリの地理的空間とモニュメントの宗教性・政治性
7	権力と文化の表象装置（2）——パリの歴史とモニュメント	モニュメントと人々の記憶
8	権力と文化の表象装置（3）——芸術の公共性	ルーヴル、要塞から美術館へ
9	権力と文化の表象装置（4）—— 20 世紀における「グラン・プロジェ」	フランスの新しいモニュメントと国際社会へのアピール
10	権力と文化の表象装置（5）——過去への視線、未来への期待	「グラン・プロジェ」と都市再開発
11	21 世紀における文化事象（1）—— 20 世紀を振り返る	「意味」の生産、交換、大量消費
12	21 世紀における文化事象（2）——現代社会における他者	異文化との共存、文化・文明の対話
13	21 世紀における文化事象（3）——文化の継承と発展	今世紀にみる文化の継承と発展をめぐる問題
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連する文献、映画、展覧会などを随時紹介するので、積極的に見てほしい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な貢献度、リアクションペーパーの内容を含む）30%
学期末に実施される定期試験　70%

【学生の意見等からの気づき】
2018 年度は大教室における空調の問題があった。快適な状態が保てるように留意したい。

【Outline and objectives】
The main aims of this course are to help students understand the various cultural phenomena in Europe and deepen knowledge of cultural representation.

ART200EC

表象文化論 B

野田　吉郎

サブタイトル：**芸術文化論**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「表象」の分析という観点から、日本の戦後美術へのさまざまなアプローチを試みる。また、20 世紀後半から現代までの通史的な考察を行い、世界美術史における日本の戦後美術、現代美術の特殊性について学ぶ。

【到達目標】
1）日本の戦後美術に関する基礎知識を身につける。
2）現代美術の作品を多角的に分析する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメとパワーポイントを用いて講義を行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの解説と補足、導入
2	記憶	原爆の図
3	物質	アンチ・ヒューマニズム
4	記録	ルポルタージュ絵画
5	行為	具体、アンフォルメル、反芸術
6	テクスト	アンフォルメル（2）
7	身体	ハイレッド・センター
8	メディア	実験工房、発注芸術
9	環境	日本万国博覧会（大阪万博）
10	制度	近代美術館
11	ジェンダー	福島秀子、草間彌生、田中敦子
12	批評	針生一郎、東野芳明、中原佑介
13	歴史	類としての美術、悪い場所
14	まとめと期末試験	総論、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館で展覧会を鑑賞し、レポートを作成する。
授業で紹介された参考文献を読み、知識を広げる。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点…… 20 %
レポート課題…… 30 %
期末試験…… 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
授業に関連して展覧会の鑑賞を求めることがある。その際の費用は自己負担となる。

【Outline and objectives】
This course introduces students to various approaches to postwar Japanese art.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅰ

林　園子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育 (分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、 生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・ 学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の 捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	学習形態の考え方と 具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・ 視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/単元における 評価規準の 設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/ 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・学習指導要領の各領域について熟読すること
　以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】
・『保健体育科教育法』（大修館書店）
・『新版体育科教育学入門』(大修館書店)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
　【中学校　保健体育】
　(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
　【高等学校　保健体育】
　(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】
・試験 40%
・小レポート・小テスト 30%
・学習指導案 20%
・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅰ

林　園子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育 (分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、 生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・ 学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の 捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	学習形態の考え方と 具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・ 視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/単元における 評価規準の 設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/ 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・学習指導要領の各領域について熟読すること
　以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】
・『保健体育科教育法』（大修館書店）
・『新版体育科教育学入門』(大修館書店)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
　【中学校　保健体育】
　(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
　【高等学校　保健体育】
　(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】
・試験 40%
・小レポート・小テスト 30%
・学習指導案 20%
・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅱ

林　園子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領 要点 (1)	中学校 (保健分野) 目標
4	学習指導要領 要点 (2)	高等学校 (科目保健) の目標 ヘルスプロモーションの意義
5	保健における各単元内容 (1)	中学校 (4 単元) における主なねらい・留意点
6	保健における各単元内容 (2)	高等学校 (3 単元) における主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】
・『保健科教育の基礎』(教育出版)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校　保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校　保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】
・試験 40 %
・小レポート・小テスト 30 %
・学習指導案 20 %
・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures will make you understand, purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.In these lectures I talk about the basic knowledge of Health and Physical Education making use of ICT and teaching materials.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅱ

林　園子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領 要点 (1)	中学校 (保健分野) 目標
4	学習指導要領 要点 (2)	高等学校 (科目保健) の目標 ヘルスプロモーションの意義
5	保健における各単元内容 (1)	中学校 (4 単元) における主なねらい・留意点
6	保健における各単元内容 (2)	高等学校 (3 単元) における主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】
・『保健科教育の基礎』(教育出版)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校　保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校　保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】
・試験 40 %
・小レポート・小テスト 30 %
・学習指導案 20 %
・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures will make you understand, purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.In these lectures I talk about the basic knowledge of Health and Physical Education making use of ICT and teaching materials.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU300IA

保健体育科教育法Ⅲ

永木　耕介

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】
学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明、グループ分け
2	学習指導案の作成①	各グループによる運動領域の選択、単元目標の設定、単元計画の作成
3	学習指導案の作成②	各グループによる効果的な教材・教具、指導方法、指導形態等の検討
4	模擬授業の準備①	各グループによる模擬授業のシミュレーションと時間計画の練り上げ
5	模擬授業①「体つくり運動」	グループ①による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業②「器械運動」	グループ②による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業③「陸上競技」	グループ③による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業④「水泳」	グループ④による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑤「球技」	グループ⑤による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑥「武道」	グループ⑥による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑦「ダンス」	グループ⑦による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑧「体育理論」	グループ⑧による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業の振り返り	各グループで模擬授業実施後に調査した授業評価、授業記録等を分析・検討
14	総括	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
中学保健体育　(学研)
最新高等保健体育　(大修館書店)

【参考書】
体育科教育学入門（大修館書店）
保健体育科教育法（大修館書店）
体育授業を観察評価する（明和出版）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）
体育の教材を創る（大修館書店）
楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（６０％）、プレゼンテーション（２０％）、レポート点（２０％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出については授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The aim of this class is for students to acquire the capability to design lessons and deliver practical instruction based on the Physical Education pedagogy for both Junior and Senior High Schools.

EDU300IA

保健体育科教育法Ⅳ

林　園子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】
保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱで学んだ内容を発展・具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その後、学生同士で互いに評価し振り返りを行い、教師としての資質や態度、責任などを認識・理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価 各担当単元の班編成 学習指導案立案手順方法
2	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元計画・単元における評価規準の設定方法
3	学習指導案作成 (2)	教材 (実習・実験を行うために必要な ICT 活用、グループワーク、討議法)、指導方法、指導形態の選定
4	模擬授業準備	黒板や教壇、教材を用いた模擬授業のシミュレーション及び学習指導案の修正
5	模擬授業及び省察①	健康の考え方、生活習慣病 (中学校： 4 単元 高等学校： 1 単元)
6	模擬授業及び省察②	飲酒・喫煙、薬物乱用 (中学校： 4 単元　高等学校： 1 単元)
7	模擬授業及び省察③	応急手当、心肺蘇生法 (中学校： 3 単元　高等学校： 1 単元)
8	模擬授業及び省察④	性への関心、性行動 (中学校： 1 単元　高等学校： 2 単元)
9	模擬授業及び省察⑤	妊娠・出産、結婚生活 (中学校： 1 単元　高等学校： 2 単元)
10	模擬授業及び省察⑥	労働、加齢 (高等学校： 2 単元)
11	模擬授業及び省察⑦	大気汚染、水質汚濁・土壌汚染 (高等学校： 3 単元)
12	模擬授業及び省察⑧	ごみ処理・上下水道 (飲料水)、食品安全、環境の取り組み (中学校： 2 単元　高等学校： 3 単元)
13	模擬授業振り返り	各模擬授業後に課した学生への授業評価記録や録画による分析・検討
14	まとめ	各班における模擬授業反省のプレゼンテーション、振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書 (保健部分) を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと

【テキスト（教科書）】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】
・『保健科教育の基礎』(教育出版)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校　保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校　保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案 (模擬授業前/振り返り後)40%
・模擬授業に対する意欲・態度及び教材の工夫 20%
・模擬授業者への授業評価 (コメント)20%
・模擬授業反省のプレゼンテーション 10%
・毎回の授業を受けるにあたっての参加態度 10%

【学生の意見等からの気づき】
・模擬授業を行う場合、展開部分はどこがポイントになるのか明確にして進めること
・模擬授業を受ける学生は、毎回の授業者が行う授業より、参考になったこと (良かった点)、改善すべきこと (改善点) を具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】
授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures focus on class development,educational guidance plan in 〝Health" and keeping an educational practice attitude,based on understanding purpose, target,learning contents, educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.

EDU400IA

教職実践演習

林　園子

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】
「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身につける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション (人の前に立つこと) の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション (起案)	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション (準備)	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション (模擬)	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション (職務内容)	テーマ：「生徒指導」
13	ディスカッション (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習 (事前指導)」になっていることから、その場にも参加することがあるため、できる限り、「教育実習 (事前指導)」「教職実践演習」を連続で参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】
4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用する

【Outline and objectives】
This information is those who want become Health and Physical Education teachers at Junior High School or High School in the future.These classes make up for a deficiency of knowledge,skill,caliber and capability of teachers.The teacher training course is completed at university in a 4 year course.

EDU400IA

教職実践演習

林　園子

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】
「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身につける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション (人の前に立つこと) の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション (起案)	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション (準備)	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション (模擬)	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション (職務内容)	テーマ：「生徒指導」
13	ディスカッション (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習 (事前指導)」になっていることから、その場にも参加することがあるため、できる限り、「教育実習 (事前指導)」「教職実践演習」を連続で参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】
4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用する

【Outline and objectives】
This information is those who want become Health and Physical Education teachers at Junior High School or High School in the future.These classes make up for a deficiency of knowledge,skill,caliber and capability of teachers.The teacher training course is completed at university in a 4 year course.

EDU300IA

教育実習（事前指導）

林　園子

配当年次／単位：3〜4 年次／０単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】
教材研究、学習指導案の作成、教壇実習 (模擬授業) の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した４年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備 (指導案作成)	教材研究の進め方　学習指導案作成・用具確認 (４年生とともに)
3	模擬授業準備 (教壇指導練習)	学習指導案作成　教壇指導練習 (４年生とともに)
4	模擬授業１：体育 (体つくり運動) 及び省察	領域：体つくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業２：体育 (器械運動) 及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業３：体育 (陸上競技) 及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業４：体育 (水泳) 及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業５：体育 (球技) 及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業６：体育 (ダンス) 及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業７：保健 (食事、運動・休養)	保健 (主に日常生活の在り方) 担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業８：保健 (喫煙、飲酒、薬物乱用)	保健 (主に嗜好品) 担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業９：保健 (結婚、妊娠・出産、避妊法)	保健 (主に性教育) 担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業１０：保健 (大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み)	保健 (主に環境) 担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成、模擬授業のための準備作業、模擬授業後の評価シート作成、模擬授業を行ってからの学習指導案修正作業

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案作成 (模擬授業前＋模擬授業後)(30%)
・模擬授業　(40%)
・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成 (20%)
・4 年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
・７月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野 (体育・保健) を決めるため参加必須　遅刻・無断欠席は厳禁とする
・教育実習事前指導は、○ × の評価となる (× の評価を受けると、次年度の実習が行えない)

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用します

【Outline and objectives】
These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.

EDU300IA

教育実習（事前指導）

林　園子

配当年次／単位：3〜4 年次／０単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】
教材研究、学習指導案の作成、教壇実習 (模擬授業) の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した４年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備 (指導案作成)	教材研究の進め方　学習指導案作成・用具確認 (４年生とともに)
3	模擬授業準備 (教壇指導練習)	学習指導案作成　教壇指導練習 (４年生とともに)
4	模擬授業１：体育 (体つくり運動) 及び省察	領域：体つくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業２：体育 (器械運動) 及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業３：体育 (陸上競技) 及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業４：体育 (水泳) 及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業５：体育 (球技) 及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業６：体育 (ダンス) 及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業７：保健 (食事、運動・休養)	保健 (主に日常生活の在り方) 担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業８：保健 (喫煙、飲酒、薬物乱用)	保健 (主に嗜好品) 担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業９：保健 (結婚、妊娠・出産、避妊法)	保健 (主に性教育) 担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業１０：保健 (大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み)	保健 (主に環境) 担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成、模擬授業のための準備作業、模擬授業後の評価シート作成、模擬授業を行ってからの学習指導案修正作業

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案作成 (模擬授業前＋模擬授業後)(30%)
・模擬授業　(40%)
・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成 (20%)
・4 年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
・７月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野 (体育・保健) を決めるため参加必須　遅刻・無断欠席を厳禁とする
・教育実習事前指導は、○ × の評価となる (× の評価を受けると、次年度の実習が行えない)

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用します

【Outline and objectives】
These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.

EDU400IA

教育実習（高）

林　園子

配当年次／単位：4 年次／ 3 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次秋学期に行われる「事前指導」において、模擬授業を中心に教職課程に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期 (または秋学期) に教育実習に行き、教育現場を学び、秋学期に行われる「事後指導」において、教育実習を振り返り、将来教育現場で働くために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導 (現職教師の特別講義を含む)
②高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導 (3 年次)	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習 (2〜4 週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業 (教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会 (研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3 年次事前指導評価 (20%)
・実習校の指導教員による採点 (50%)
・事後指導 (事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート)(20%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習リポート (10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline and objectives】
First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

EDU400IA

教育実習（中・高）

林　園子

配当年次／単位：4 年次／ 5 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次秋学期に行われる「事前指導」において、模擬授業を中心に教職課程に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期 (または秋学期) に教育実習に行き、教育現場を学び、秋学期に行われる「事後指導」において、教育実習を振り返り、将来教育現場で働くために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導 (現職教師の特別講義を含む)
②高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導 (3 年次)	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習 (3〜4 週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業 (教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会 (研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3 年次事前指導評価 (20%)
・実習校の指導教員による採点 (50%)
・事後指導 (事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート)(20%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習リポート (10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline and objectives】
First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

教育実習（事前指導）

阿比留　久美

配当年次／単位：3〜4 年次／ 0 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育実習事前指導は、実習前年度の後期に、実習に向けての具体的な授業案の作成方法、指導方法・指導技術の習得のために行います。事後指導は実習実施年度の後期に、実習予定者への経験伝授をかねて行います。

【到達目標】
次年度行われる教育実習に向けて、実際に必要な知識・態度・技能を身につけます。特に教材研究の方法、基本的な教育技術、授業案作成の方法、日誌の作成方法等を習得し、教育実習において、効果的な実習が行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実際の授業進行・日程については、授業第 1 回目に実施されるオリエンテーションに必ず出席して確認してください。
この科目においては、上記到達目標を達成するために、講義形式で、授業案の作成や授業を行う上での指導方法、指導技術について学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画の概要を知る。
第 2 回	教育実習の意義と実際について①	教育実習の意義について学ぶ。
第 3 回	教育実習の意義と実際について②（先輩からの報告）	先輩からの話を聞き、教育実習の概要を学ぶ。
第 4 回	基本的な授業案の作成方法①	基本的な授業案作成の技術を学ぶ。
第 5 回	基本的な授業案の作成方法②	基本的な授業案作成の技術を学ぶ。
第 6 回	基本的な指導方法と指導技術①	基本的な指導方法・指導技術を身につける。
第 7 回	基本的な指導方法と指導技術②	基本的な指導方法・指導技術を身につける。
第 8 回	授業案作成①	実際に教育実習で担当する科目のある単元について、授業案を作成する。
第 9 回	授業案作成②	実際に教育実習で担当する科目のある単元について、授業案を作成する。
第 10 回	授業案作成③	実際に教育実習で担当する科目のある単元について、授業案を作成する。
第 11 回	模擬授業①	模擬授業を行い、振り返りをすることで、更なる指導技術の向上に努める。
第 12 回	模擬授業②	模擬授業を行い、振り返りをすることで、更なる指導技術の向上に努める。
第 13 回	模擬授業③	模擬授業を行い、振り返りをすることで、更なる指導技術の向上に努める。
第 14 回	模擬授業④	模擬授業を行い、振り返りをすることで、更なる指導技術の向上に努める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業案を作成し、授業を実施できるようになる。

【テキスト（教科書）】
特になし
必要な資料については、授業時に配布します。

【参考書】
特になし
学生の教育実習の実態にあわせて、授業時間内に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、○と × で評価を行います。× の評価を受けると、次年度の実習が行えません。また事後指導については、教育実習に加味して、評価を行います。
ただし授業への出席は最大限してください。教育実習に直接関わる授業ですので、無断欠席は絶対にしないようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
実習先学校との連携を進めつつ、学生さんにとって学びとなるような機会をできるだけ広げていきたいと思います。

【Outline and objectives】
We will learn about how to teach welfare to highschool students.

福祉科教育法

馬場　清

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず教科「福祉」が設置された背景、教科の目標を知り、各科目（特に社会福祉基礎）にわたる指導計画の作成と内容の取り扱いについて学びます。その上で、教科「福祉」の教育内容をどう効果的に伝えるのかについての指導法・指導技術の習得を目指します。

【到達目標】
教科「福祉」全体および各科目（とくに社会福祉基礎）の学習目標を踏まえたうえで、実際に教壇に立った時にその目標を伝達できるだけの教育方法を身につけ、福祉社会に必要な人材の育成に寄与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
上記到達目標を達成するために、前半ではまず、教科「福祉」の設置された背景や教科の目標、各科目の教育内容について、講義形式で学びます。
その後、体験的な学習を通して、様々な授業形態を学ぶ中で、指導方法、指導技術について学びます。その中でも特に、上記の認識の 3 レベルを獲得するために効果的な「参加型学習」の方法について、学ぶことになります。
その上で、最後に各自模擬授業を行い、教科「福祉」に特有の指導方法・指導技術を習得していきます。、

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画の流れを知る。
第 2 回	教科「福祉」の創設とその意義①	教科「福祉」が創設された背景を学ぶ。
第 3 回	教科「福祉」の創設とその意義②	教科「福祉」が創設された意義を学ぶ。
第 4 回	教科「福祉」の目標と教育内容①	教科「福祉」の目標を学ぶ。
第 5 回	教科「福祉」の目標と教育内容②	教科「福祉」の教育内容を学ぶ。
第 6 回	教科「福祉」をめぐる状況	教科「福祉」が高校でどのように教えられているかについて学ぶ。
第 7 回	教科「福祉」の指導方法と指導技術	教科「福祉」の指導方法。指導技術について学ぶ。
第 8 回	「社会福祉基礎」の目標・内容とその取り扱い	「社会福祉基礎」の目標、教育内容について学ぶ。
第 9 回	「介護福祉基礎」の目標・内容とその取り扱い	「介護福祉基礎」の目標、教育内容について学ぶ。
第 10 回	「コミュニケーション技術」の目標・内容とその取り扱い	「コミュニケーション技術」の目標、教育内容について学ぶ。
第 11 回	「生活支援技術」の目標・内容とその取り扱い	「生活支援技術」の目標、教育内容について学ぶ。
第 12 回	「介護過程」の目標・内容とその取り扱い	「介護過程」の目標、教育内容について学ぶ。
第 13 回	「介護総合演習」「介護実習」の目標・内容とその取り扱い	「介護総合演習」「介護実習」の目標、教育内容について学ぶ。
第 14 回	「こころとからだの理解」「福祉情報活用」の目標・内容とその取り扱い	「こころとからだの理解」「福祉情報活用」の目標、教育内容について学ぶ。
第 15 回	「社会福祉とは何か」の授業をつくる①	社会福祉基礎の一単元を例に、授業づくりの基本を学ぶ。特に授業目標の立て方について知る。
第 16 回	「社会福祉とは何か」の授業をつくる②	社会福祉基礎の一単元を例に、授業づくりの基本を学ぶ。特に授業の構成について知る。
第 17 回	「社会福祉とは何か」の授業をつくる③	社会福祉基礎の一単元を例に、授業づくりの基本を学ぶ。特に教材研究の方法について知る。
第 18 回	「社会福祉とは何か」の授業をつくる④	社会福祉基礎の一単元を例に、授業づくりの基本を学ぶ。特に授業案の作成について知る。
第 19 回	「社会福祉とは何か」の授業をつくる⑤	社会福祉基礎の一単元を例に、授業づくりの基本を学ぶ。特に授業案の作成について知る。
第 20 回	「社会福祉とは何か」の授業をつくる⑥	これまでの授業をふまえ、模擬授業を行う。

第 21 回	「社会福祉とは何か」の授業をつくる⑦	記録に基づき、模擬授業の振り返りを行う。
第 22 回	社会福祉基礎の授業をつくる①	応用編として、社会福祉基礎の一単元を設定して、参加型教材（ランキング）を取り入れた授業について学ぶ。
第 23 回	社会福祉基礎の授業をつくる②	応用編として、社会福祉基礎の一単元を設定して、参加型教材（ロールプレイ）を取り入れた授業について学ぶ。
第 24 回	社会福祉基礎の授業をつくる③	応用編として、社会福祉基礎の一単元を設定して、参加型教材（シミュレーション）を取り入れた授業について学ぶ。
第 25 回	社会福祉基礎の授業をつくる④	グループごとに単元を設定して、参加型教材を取り入れた指導案の作成を行う。
第 26 回	社会福祉基礎の授業をつくる⑤	グループごとに単元を設定して、参加型教材を取り入れた指導案の作成を行う。
第 27 回	模擬授業	模擬授業を実施し、授業評価について学ぶ。
第 28 回	模擬授業	模擬授業を実施し、授業評価について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実際に高等学校で使われている教科書にあたり、自分で授業案を作成してみる。

【テキスト（教科書）】
『社会福祉基礎』（文部科学省検定教科書）
※購入については別途授業内で指示します。

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説福祉編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（50 %）
課題の提出（10 %）
授業案の作成と模擬授業（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
教科「福祉」授業案作成において、特に「参加型学習」を組み入れる際に、その目的を明確にし、よりきめ細やかな指導をする必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しません。

【Outline and objectives】
We aim to master the teaching method and teaching skill of the subject "Welfare".

教職実践演習（中・高）

阿比留　久美

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
以下のいくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、４年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化、
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、
④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定、
⑤コミュニケーションと発表の技能向上、
の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、期末課題の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と性格	本講義の性格、課題、到達すべき目標・課題の確認 「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」(1500 字程度) の提出
2	ふりかえり交流（１回目）	提出された「自己評価と課題」を素材に、報告と討論を行う。
3	各自のふりかえり交流（２回目）	提出された「自己評価と課題」を素材に、報告と討論を行う。
4	次年度実習予定者への実践報告	教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝える。
5	グループディスカッションのテーマの起案	「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる討議課題の検討
6	グループディスカッション準備	グループディスカッションに向けた準備作業
7	グループディスカッション①	「教科教育」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐる討論
8	グループディスカッション②	「生徒指導」「学校・学級運営」を通した討論
9	期末課題作業①	教員への中間報告
10	期末課題作業②	教員への中間報告
11	期末課題作業③	教員への中間報告
12	期末課題発表会①	期末課題の発表・検討会
13	期末課題発表会②	期末課題の発表・検討会
14	期末課題発表会③	期末課題の発表・検討会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・期末課題作成にはフィールドワークなど課外活動が必要になります。
・次年度教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に数回参加して、後輩の支援・指導にあたります。

【テキスト（教科書）】
・特にありません。適宜紹介あるいは配布します。

【参考書】
・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】
①期末課題とその発表・報告、②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況、を総合的に勘案して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教育実習のふりかえりと卒業論文の両方の学びを統合させて、4 年間の総まとめを実施していきます。

【学生が準備すべき機器他】
この授業では授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】
We will have chance to reflect teaching practeces.

法政大学
HOSEI University